大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
昭和五年五月一日發行（毎月一回一日發行）
第拾參輯第五號

建築と社會

第十二輯 第五號

住宅の様式
設備 装飾

住宅様式から建築的目へ
住宅様式の近来最傾向
住宅改良の焦点
庭園と一つの問題
住宅は洋風設備
住宅と塗装壁面壁紙
住宅と家具装飾品最近欧洲
住宅の電氣設備
住宅の照明器具
住宅照明
住宅の衛生と設備所臺
住宅の能率と設備所臺
住宅放言
其他等々

住宅寫眞集

昭和五年五月一日

日本建築協會

營業種目

三建式スチールサッシ、ドアー、シャッター	建材第一部取扱
其他各種鋼製建具類	同
ブロンズドアー	同
ロバートソンメタル、天窓、通風器	同
富士スレート	同
モスラー金庫室設備	建材第二部取扱
金庫室建造用スチールクリート、及各種メタルラス	同
グラッヂングマクビーン會社各種テラコッタ	同
建築用人造石、富國石	同
セメント防水劑ハイドラタイト	同
特許安全吊足場機	同
ラスウキン各種鎧前及建具金具金物一式	同
リチヤーズウキルコックス各種ドアーハンガー	同
各般電氣設備	電氣部取扱
特許萬歳コンクリート電柱	同
煖房、換氣、温濕度調整裝置	煖房部取扱
衛生、給水湯、汚水淨化裝置	衛生水濟部取扱
煖房、衛生裝置用諸材料	煖房衛生材料販賣掛
レイ式重油燃燒機	同
アトラス氣送裝置	同
トロイ洗濯機械一式	同
製氷、冷藏、冷凍、冷房裝置	製氷冷藏部取扱
摩芥燒却及處理裝置、重油使用各種燒却爐	塵芥掛取扱
其他建築諸材料並に附帶設備	

＝販賣設計監督工事請負＝

三機工業株式會社

本　店　東京市麹町區内幸町一ノ三(大阪ビル内)
電話銀座(57)5330—5335(6)2831—2833(3)

支　店　大阪市東區備後町二ノ二一(野村ビル内)
電話本町1166・1525

取扱店　各地三井物産株式會社支店機械部

(型錄贈呈)

會告

當協會本年春季大會として大晩餐會を左の通り擧行致します
時恰も建築學會に於ては今春京阪の兩地にて大會を擧行さるゝ趣でありますから之れを機として同會々員諸彦を招き一夕の晩餐を共にし東西兩會の益々親善を計らんと存じます當協會々員諸彦の奮つて御來會を切望致します

日時 五月十一日（日曜日）午後五時三十分開會
晩餐會場 京町堀ビルヂング五階食堂
（大阪市西區京町堀上通一丁目三三）
（市電土佐堀線京町堀停留場西側）

會費 **金貳圓也**
但し本協會々員にして建築學會々員の方も會費を頂戴致します

昭和五年五月

社團法人 日本建築協會

御注意
當日京町堀ビルヂング四階（清和倶樂部内）に名古屋市廳舍懸賞當選設計圖案全部陳列致してありますから御高覽を願ひます

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號(延長許可)外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

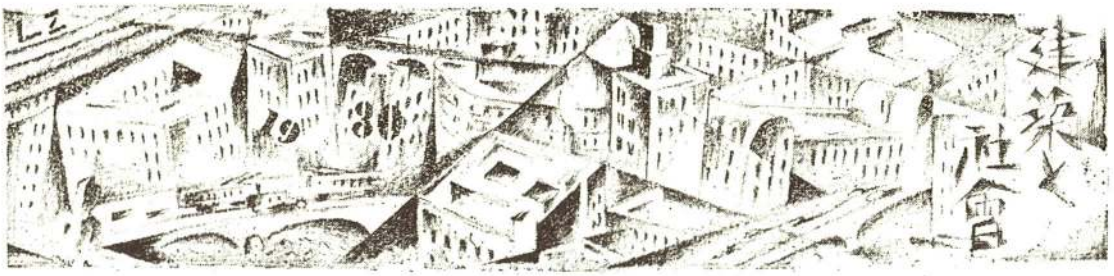
主要製品

大野式**シヤッター**
大野式自働防火鎧戸
大**野式**工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類
特許不二式**サッシ**受托販賣

合資會社 大野製作所

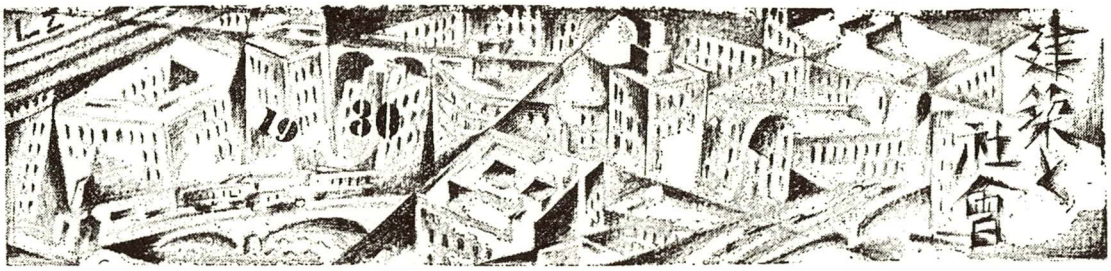
東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三三・三七三四番

八八五(45)島福話電・二中島福上區花此市阪大・所詰員張出付取



建築と社會第十三輯五月 住宅の様式 裝飾・設備 目次

（巻頭挿畫）建築風景・習作……長谷部鋭吉…（七）
（巻頭言）……日高胖…（八）
様式住宅から目的建築へ……中野順次郎…（九）
最近住宅様式の傾向……上野伊三郎…（一三）
改良炬燵……武田五一…（一四）
住宅と庭園の一問題……本野精吾…（一六）
設備は洋風……黒田鵬心…（一八）
壁面塗裝と壁紙に就て……早良俊夫…（二〇）
歐洲最近住宅と家具裝飾品に就て……小川安一郎…（二三）
住宅の電氣設備……小畠康郎…（二六）
住宅に於ける照明器具に就て……工藤壽男…（二九）
住宅照明……岩崎勇…（三一）
臺所の設備と衛生……藤原九十郎…（三五）
住宅の能率化と臺所設備……增山新平…（三八）
住宅放言……大谷木廣…（四五）



住宅寫眞集

◇富士岡氏邸……富士岡重一…(四七)
◇I氏邸……安井武雄…(五〇)
◇伊藤氏邸……竹中工務店設計部…(五一)
◇K氏邸……安井武雄…(五二)
◇川喜田氏邸……大林組住宅部…(五三)
◇近藤男爵邸……澁谷五郎…(五五)
◇K氏邸……横田彥左衛門…(六〇)
◇大高氏邸……置鹽章…(六二)
◇S氏邸……安井武雄…(六四)
◇U氏邸……大林組住宅部…(六七)

建築斷相(3)……松室重光…(六九)
晴耕雨讀……高橋榮治…(七四)

附錄
寫眞・國際新建築集……(附一)
寫眞・京阪神新建築集……(附四七)

會報……(一六)本誌廣告目次……(九一)
口繪 京都市・某氏邸……藤井厚二…(一)
第六回建築講習會開催會告……(挾込)

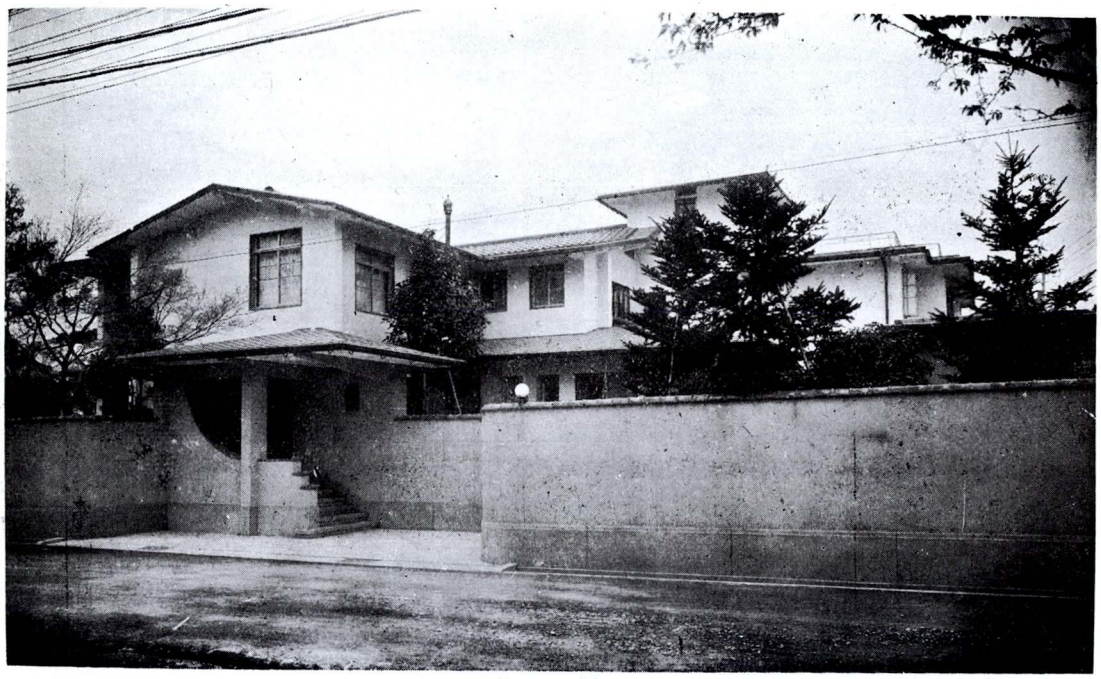
大禮記念京都美術館
建築設計圖案懸賞募集

一、大禮記念京都美術館ノ設計圖案ヲ懸賞募集ス

應募セントスル者ハ郵券貳錢封入ノ上京都市營繕課宛規定書類ヲ請求スル事

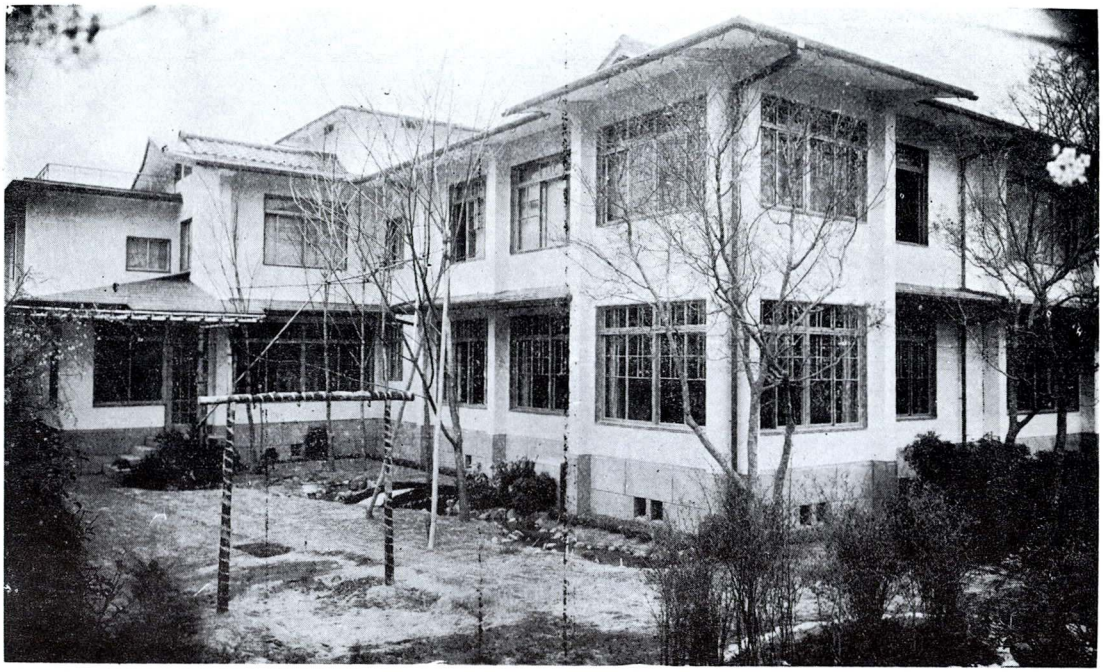
一、應募締切期間　昭和五年七月十五日

京都市



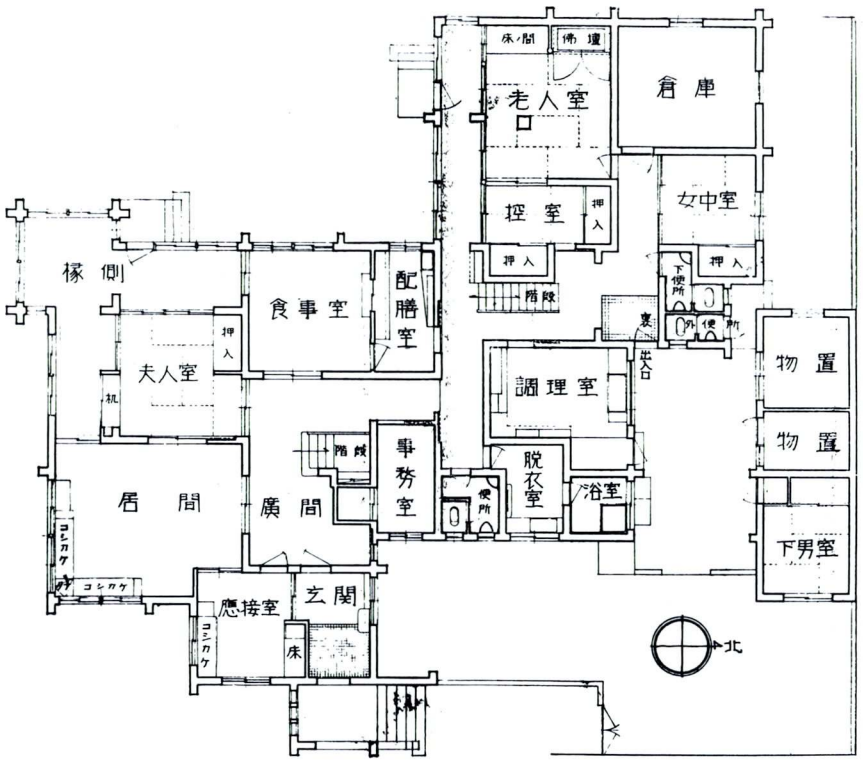
第 一 圖

京都市・某氏邸　　第一圖　東よりの外觀　　設計者　藤井厚二氏

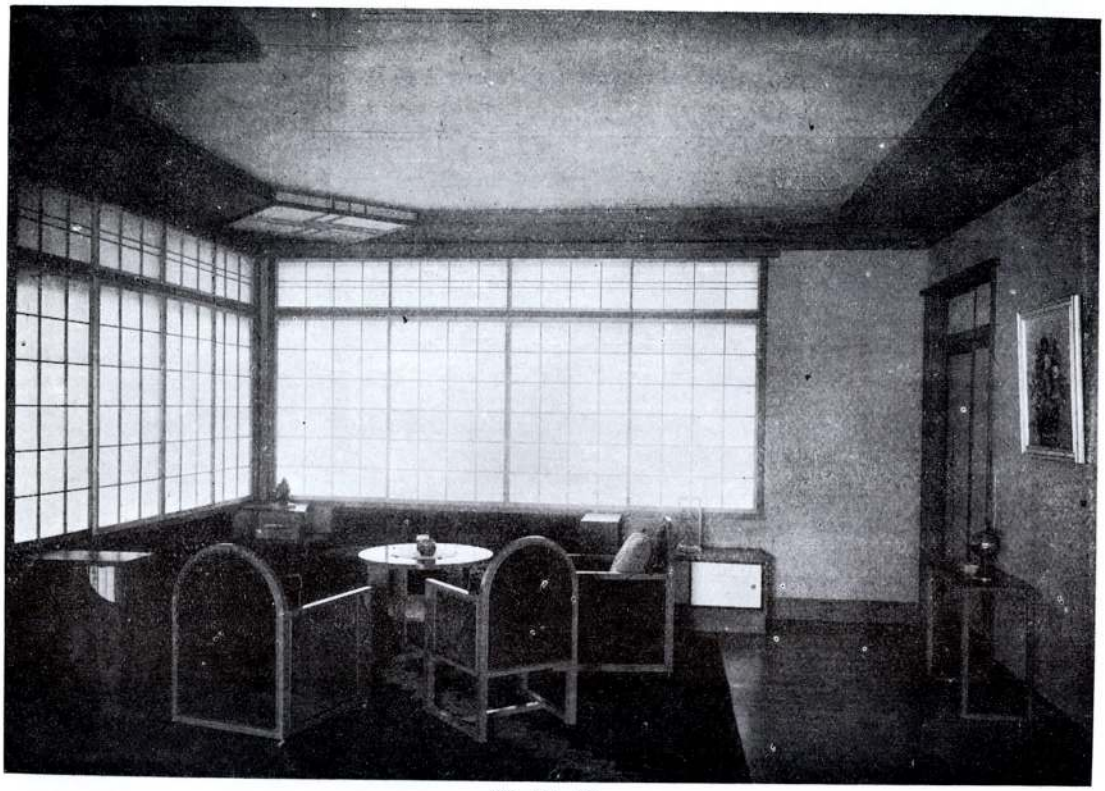


第二圖

第三圖

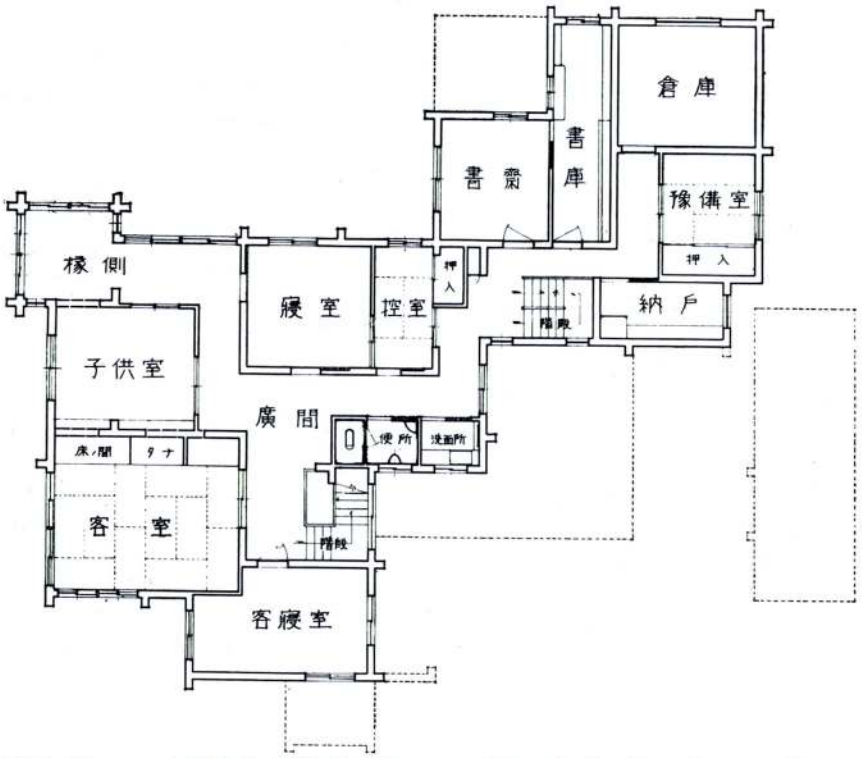


京都市・某氏邸　　上・第二圖　南西よりの外觀　　下・第三圖　第一階平面圖　　設計者　藤井厚二氏

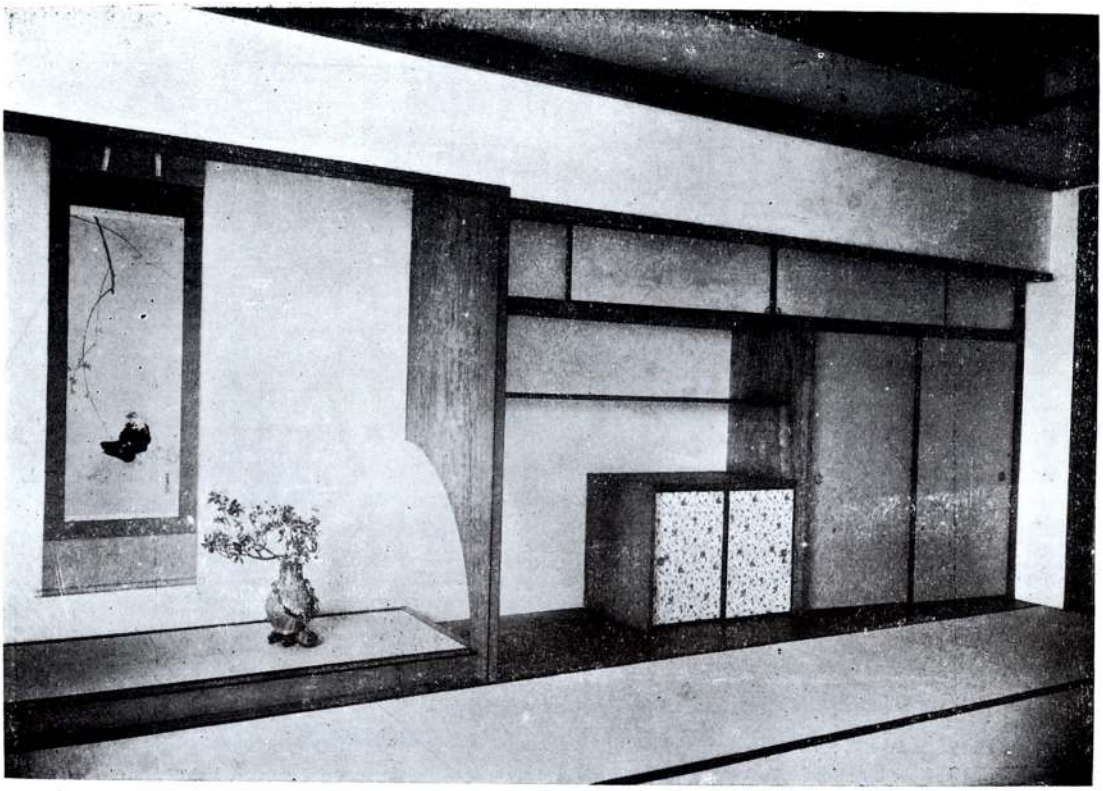


第 四 圖

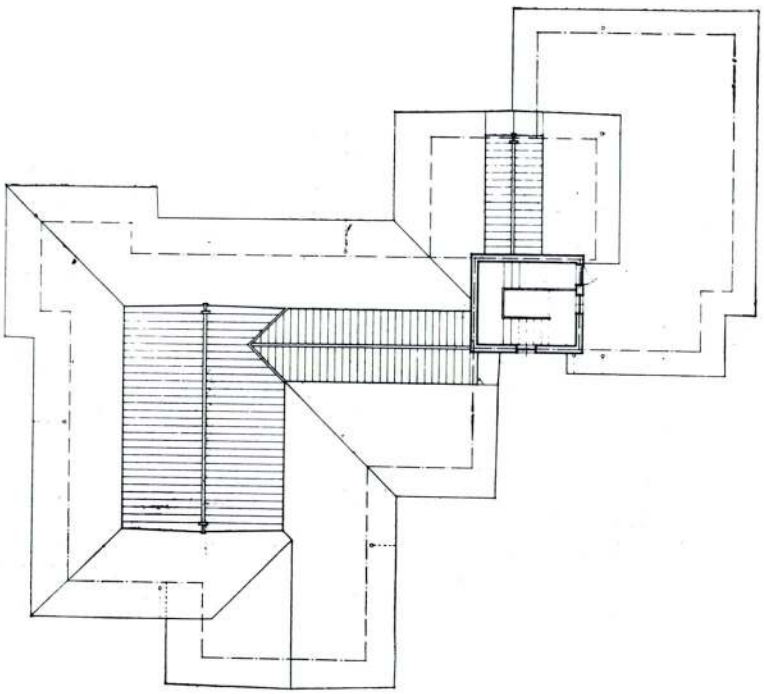
第 五 圖



京都市・某氏邸　　上・第四圖　居室(第一階)　　下・第五圖　第二階平面圖　　設計者　藤井厚二氏



第六圖
第七圖

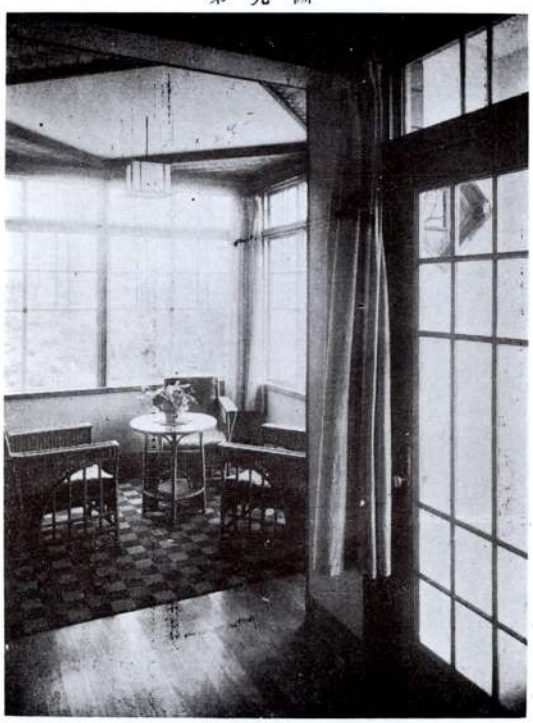


京都市・某氏邸　　上・第六圖　客室(第二階)　　下・第七圖　屋根伏　　設計者　藤井厚二氏

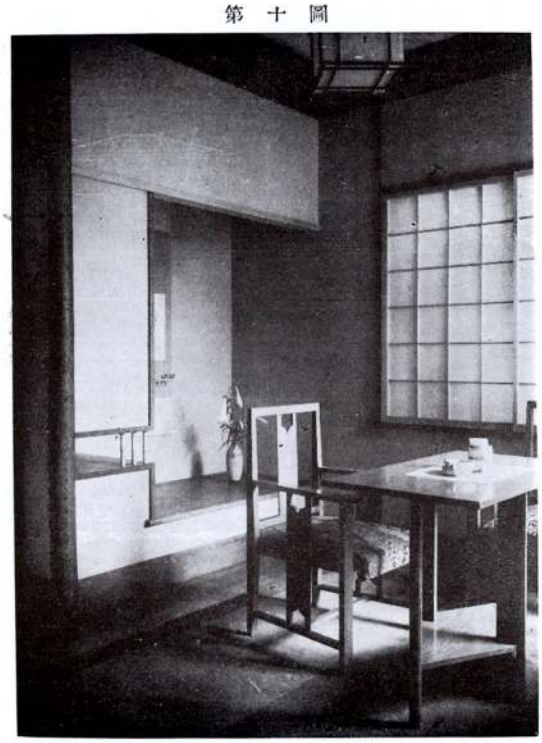


第 八 圖

第 九 圖



第 十 圖

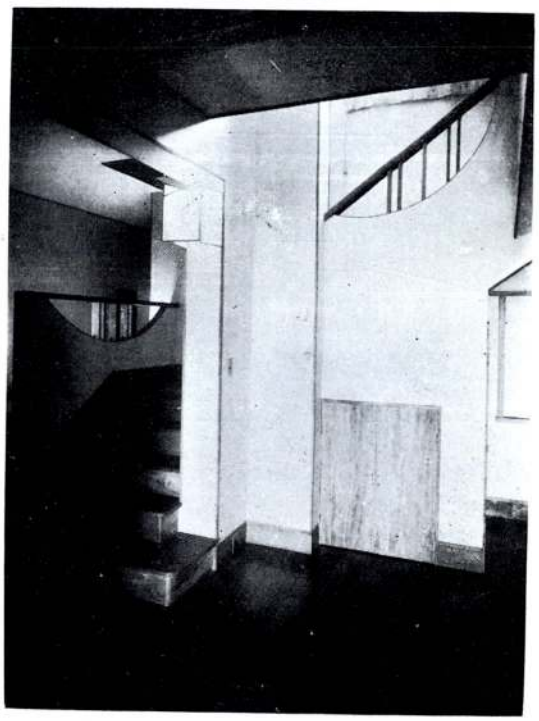


京都市・某氏邸　第八圖　東立面圖第九圖　椽側(第一階)　第十圖　應接室(第一階)　**設計者 藤井厚二氏**



第 十 一 圖

第 十 二 圖



京 都 市 • 某 氏 邸　　第十一圖　南立面圖　　第十二圖　階段　　設計者　藤井厚二氏

第十三輯　建築と社會　第五號

昭和五年五月一日發行



建築風景・習作　長谷部鋭吉氏畫

卷頭言

—日高胖—

我國に於ける建築に關する學術は過去五十年に於て異常なる進歩をなし、殊に最近二十年間に於ける進歩は頗る顯著である。然るに主として經濟上の立場より其實施を阻まれ困難に遭遇する場合屢々なるは遺憾である。

我國には地震と云ふ『ハンデイキヤツプ』があると同時に地盤の堅牢ならざる塲所が頗る多い。建築費單價が諸外國のそれに比し多額に上るのも無理はない。然し茲に考慮を要する問題がある、即ち我國民の一人當り平均所得は他の文明國の其に比し甚だしく劣るのである。幾多の研究と改良とを要する所以である。

建築に使用する主要なる構造材は木材鐵材、石材、『セメント』、煉瓦、『テラコツタ』其他之に類似の製品である。此等の內鐵材の應用は比較的輓近であるが、其他の材料は遠く數千年以前より構造材として使用せられたものである。木材は加工容易にして輕く比較的强靱にして熱の傳導率少く極めて便利なる材料であるが、强度と耐久性に乏しく且引火性に富む欠點がある。鐵材は强度大なるのみならず比較的耐久性にして加工も困難ならず重量も大なりと云ふ可らず、只耐火性に乏しきは其欠點である。之に『コンクリート』を配して鐵筋『コンクリート』としたものは、耐久力大なるのみならず耐火性にして加工も甚しく困難ならずと雖重量と容積との大なる二大欠點がある。其他の材料は主として帳壁、床並に化粧材等の用途に充つるもので構架材としては我國では價値少い。

鐵筋『コンクリート』構造は現時廣く世界に普及せられ、我國に於ても各種の建造物に應用せらる。然も其重量の大なる點に於て、地震の度毎に其强度を減ずる惧ある點に於て、工事中豫め震害に備ふるの要ある點に於て、熱の傳導率大なる點等に於て必しも我國に適當なる構造法と云ふを得ない。我國の建築は其重量を輕減することが最も必要なる條件の一である。之が爲には木造は適當にして安價なる構造なるも耐久性少く且火災の脅威ある故必しも經濟的でないのみならず危險である。住宅と雖漸次集合性を帶る事明であるから新なる材料と新なる構造法とが必要となる。此目的を達成するには漸次の改良と進歩とに俟つべきを以て急速なる成功は望み難いが、假に手近な材料と構造法とを應用するとも、或程度迄は其目的を達し我國に稍適當なる建築を得べきである。然し之を以て滿足してはならない、科學の世の中である、木材は之を變じて耐火材料となし得べく、鐵筋も之に他の元素を配してより輕く且耐久性に富むものとなし得べく『コンクリート』も其配劑を變化せば輕く且耐壓力大にして斷熱性に富むものを得べく然も總ての塲合に於て經濟的なるは勿論である。千古傳來の材料を其儘使用する必要はない。

建築は之に使用する材料の改良と之に伴ふ構造法とにより進歩するものである。材料とは前揭の構造材のみならず建築に使用する總ての材料の意である。社會は如何なる材料を我國の建築が必要とするかを知らぬ。材料商すら其材料の性能を知盡するもの稀である。之では其改良進歩は望み難い。歐米の新建築材料で近時我國に輸入せらるゝものの種類も頗る多い。然も我國狀に適し應用價値の大なるものは僅少である。故に建築家は如何なる材料を現在及將來に於て我國の建築が必要とするかを廣く社會に知らしめ其改良と製作とに努力せしむると同時に之が促進を計るべきである。我國狀に適し文化に即したる建築を得て始めて其樣式も安定するものと思ふ。中流以下の住宅問題の如きも之に依て始めて解決し得るのである。

（五、四、一八受付）

様式住宅から目的建築へ

中野順次郎

日本に於ける住宅が種々な様式（スタイル）を以て建築される様になつてから未だ六十年許りにしかならぬ中に、最早其等の様式は完全に揚棄され清算されて惜しげも無く過去のものとなりつゝある現在である。

是は單に或る種のスタイル——例へばスパニツシユミツシヨンとかコロンアルだとかバンガローだとか其他等々——がまるで珍しく無くなつた許りでは無く、所謂様式的なものそれ自體が現代への適應性を失つて來たと云ふ事實に他ならない。否もつと嚴密に云へば建築の主題が實に眞摯な現代のレアリズムに置かれた事であつて、之は一つの大きな變革と從つて進歩を示すものである。

此の傾向は蓋し住宅様式上の問題であるよりは寧ろ範圍を擴げて建築全體の推移であり、同時に又關聯してゐる各種藝術上の事でもある。一層根本的に云へば既成社會組織（資本主義的）の中に育くまれたあらゆる部門の諸形式の一つ〳〵が、其合目的性を失つて來て（遂に建築に於ても例外で無かつた様に）今度は一つ〳〵の社會的矛盾を增して行く現在の狀態を裏書きする事になるのである。

そして問題を建築に持つて來ればそれは明らかに

『形の建築』（Formbau）

←

『目的建築』（Zweckbau）

への動きと見て差支へないと思ふ。

斯く言葉で表はせば形（フオルム）から目的（ツエツケ）へと簡單であるが、之を日本の住宅が辿つて來た跡を憶ふと隨分な努力であつた。明治から大正そして震災の直前まで、所謂様式的な住宅は資本家の或は小市民的インテリゲントのエキゾチツクな趣味を滿足させる重大なもの〳〵一つとして都市及び田園に於ける重要な要素であつたのである。

然るに既にセセツシヨニズム的ローマンチシズムの餘波が、日本の若い建築家を呼んでゐた頃に遇然の災害を受けた事に依つて、一層加速度的に様式の破壊が理論に實際に行はれる狀態とならなければならなかつた。之は正に——『様式と形式』——の素晴しい混亂時代である。（後に詳述する）

斯くして最後に歴史的に云へば、現在は實に熱心な建築目的探究の時代であり、清算を經て目的（ツエツケ）への突入の場合であると思ふ。

こんな風にして私は大體のアウトラインを定めて今少し詳しく、形から目的への住宅を論じたいと思ふ。

そして主要なテーマは

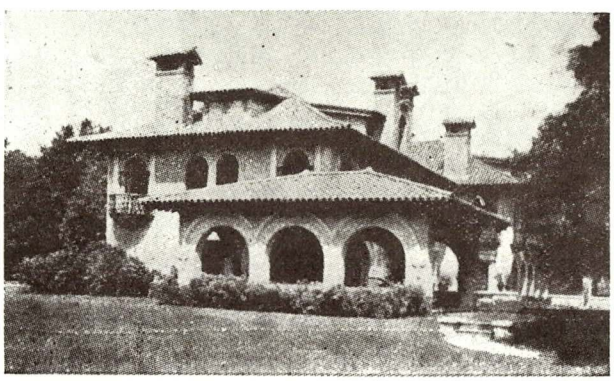
『様式の破壊』→『様式と形』→『目的建築へ』

（曝露の理由）（清算の理由）

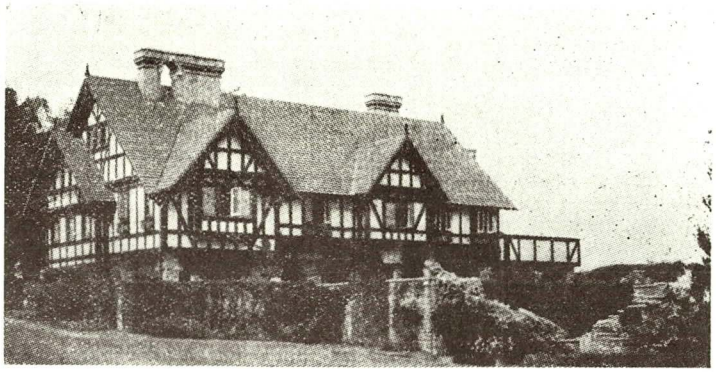
として進める事にする。

1

様式的な住宅が何故に間違つてゐたかは、今一度ワグナーやホフマンの時代に遡上つてセセツシヨ



第一圖様式の例（スパニシュ風な住宅）



第二圖様式の例(ハーフチンバーの家)

ニズムの指導理論を持出さなければならないが、それよりも先づ何故に様式的なものが其當時流行したかの理由を述べるとしよう。何と云つても『異國趣味』は様式が有つ唯一の武器と云つて差支へない。

都市の高臺に英國風のマンションがハーフチンバーの様式で建てられるかと思ふと、近郊の丘上にはバンガローやコロニアルそしてスパニツシュの家が置かれて扨て其處の風景を如何にもエキゾチックに塗變へて行く。するとこれを眺めて無暗に滿足と悦に浸る當時のブチブルインテリゲントが數を増して來る。

如何にもローマンテイツクな様式時代である事よである。

併し方向を風景から建築の問題に向けて同じ理由を考へよう。然る時は建築家の建築態度が問題となつて來るが、この場合には住宅の様式に全部的の努力を支拂つてゐたと云ふより他ない。そして得られた建築の形態が、兎に角も住宅の目的を明示してさへゐたらそれで目的が遂げられた譯なのである。

從つて住宅の形を建築する事の爲めに住の目的が、如何に從屬的な立場に置かれようとも之れは第二義的なるが故に全く仕様の無い結果となつたのである。

これが一つと次に考へるのは様式の取扱ひをして建築勉强の非常に重大な方法とした事とである。

だから前からの理由を整理してみると

○建築目的認識の不充分
○全建築に對する様式の重大性及價値の不明 及び
○時代色が有つ輕薄なる異國趣味の滿足手段

是等は要するに様式が存在する爲めの重要なる條件であり得た譯である。

併し斯くの如き理由は決して本質的なものではなかつたが爲めに顧て壞滅の運命を辿る事は當然過ぎる程當然であつた。

それは順序として必ず矛盾の發見が先きになるのであるが、是を指摘して有名なのは一九〇〇年當初ウイーンに於ける新進建築家達の運動である、ワグナーを中心にする彼等が形骸としてのあらゆる既成様式から分離した事は實に様式住宅時代から次への世界的出發となつた譯である。

日本に於ては勿論遙かに後時の事ではあるが、斯る意味の矛盾が曝露されない理由はなかつた、好奇心的に起つた趣味であればさう長く續く筈が無いので、何時迄も其エナメル式異國趣味の嗅味に我慢出來る程日本人の感覺は鈍感ではなかつた筈である。

建築家にしても同様で本質的に根據の無い建築の手法には當然飽きて來なければならぬ。一時代前の住宅様式や又全然土地柄も異る外國に育つた一つの生活容器が、其儘次の時代に生活する者の生活容器たり得る資格の無かつた事は始めから定つてゐたのであるが、これに氣付くのは矢張様式的形態とそして之に從屬を餘儀なくされてゐた住目的との間に生ずる矛盾の曝露である。

だからウイーンの人々がなした當時の重なる仕事は、理論的に矛盾を指摘する事と一方に於ては反動的に既成様式への挑戰を意味する變つた形の提示であつたのである。

そして同じ様な仕事が日本許りでなく諸外國に於て是等の人々と歩調を合せて行はれた事は云ふまでも無い。

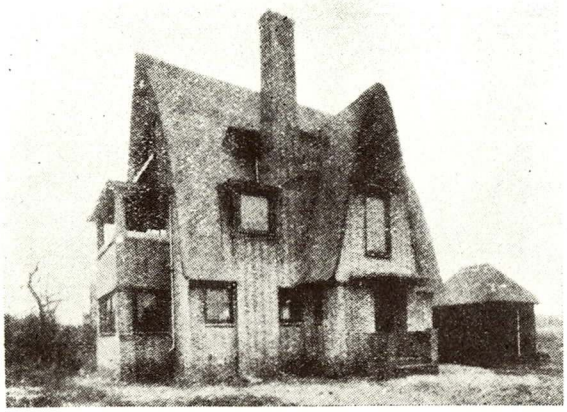
2

以上の如く住宅の様式的時代は實に急速度を以て移らなければならなかつたが、其結果は果して如何なる狀態を齎しただらうか?

共處に我々の考へなければならぬ第二段の事が殘されてゐる。

それには狀態を明らかにする爲めに日本に於ける分離派運動以後の場合としてみよう

すると之は勿論住宅の事許りでは無いが、日本の建築全體が驚く位い混亂してゐるのに誰でも氣がつくであらう、と云ふと恰も過去の一出來事の樣であるが、現在にしたところが矢張未だ同程度の狀態を持續してゐる事を忘れてはならない。



第三圖樣式と云ふよりも形式主義的なオランダ風住宅

扨て我々は住宅及諸建築の形態を注意深く觀察しなければならぬ

○ライト風の住宅外觀
○オランダ風の藁屋根の家
○横長な四角窓の角の家
○船室を憶はせる圓窓の外觀
○純日本風入母屋とフラトの屋根が遊戲をしてゐる住宅
等々

を靜かに我々の頭の中へ浮べてみたい、或は建築方面の雜誌が取扱つてゐる所謂新しい形の家の寫眞を記憶から呼浮べてみる事である。何と混雜した多種多樣の形の複數であるか全く『形』である！

樣式と云ふには餘りに數多い建築形式の種類である、だから此處では『樣式』と區別して『形式』とする事に定める。

そして暫く『樣式と形式』の問題にして取扱ふ事にしよう。

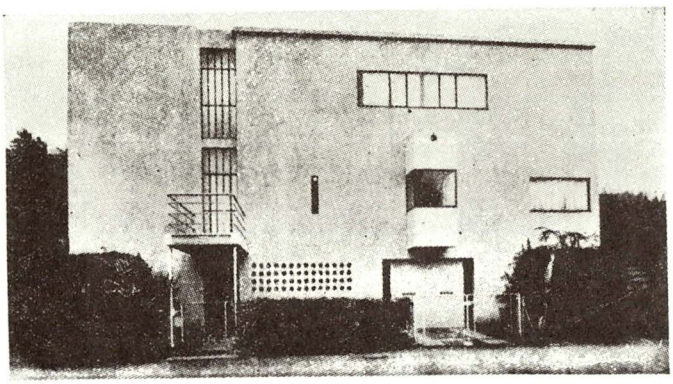
形(フオルム)の點から云へば樣式(スタイル)も當然同じカテゴリーに入つて來るが、今度の場合に於ける建築の多形式は既に樣式以外に出てゐるのでは無いだらうか、否斷然樣式では無いと思ふ。例へば表現派風の入口を有つ住宅と軍艦の窓の樣な開口を有つ家とを比較すれば成程明らかに形式の相異はあるが、之をしも二つの樣式的相異と云ふには兩方とも餘りに不安定な形式ではないか。

だから只單に『形式』と云つて置きたい。

樣式に反抗してこゝ僅かに二十年許りの間に發生した多くの形式は、確かに樣式住宅を排するだけの理論的根據(前述)を有つてはゐた、併し餘りに建築を形(フオルム)としてのみの關心を有つてゐたに過ぎない若き熱心なる建築家に依つて創り出されたのであつたが故に(樣式では無かつたが)、矢張未だ〳〵目的建築への途には遠かつた樣に思ふ。

『樣式』の時代から『形式』の時代へ移る爲めに多くの矛盾の曝露があつた樣に、今度は『形式及樣式を含めて』から正しく建築の目的(ツエツケ)への途上に、尙多くの清算的理論の討究と之の實行が必るのである。

現代の住宅が樣式時代から去つて形式の時代へ入つて、一層複雜な或は多種な住宅形式を以て表はれる樣になつた傾向は喜しいが、



第四圖目的か形か？形か目的か？

併しこの儘では驅て叉行詰りになる事は誰もが氣付く當然事である。

現代の建築は未だ〳〵形式的ローマンチイシズムの範圍を出てゐないものが多い。だから徒らに今一つの形式を發見しようとしてゐる例を時折見せつけられるのは困つた事だと思ふ。此の位いにして結論へ進める事にする、然らば其

處に於て清算の意義も明瞭になつて來るだらうから。

3

【『形式』を追ふ建築は數千年を通じて理想に近づく事であり「目的』の建築は直接現實に於て理想を追求する事である】とはア・ベーネが云ふ『形式』と『目的』との相異を指示する言葉であるが、實際現在程レアリズムの眞摯な時代は未だ建築の歴史に於ても無かつたであらう。

佛人ル・コルブツジエー氏は彼の大都市計畫案以後に於てこのレアリズムを識つたのであらうか、多分に目的建築を求めてゐる樣である。住宅が我々の完全なる機械であり生活の容器であると認めるに至つた現在に於ては、建築に於ても現實の構成がなされねばならぬ、何故ならば生活そのものが現實であるからである。

建築の目的は極めて自由に現實を建築的に(否その儘に)構成して行くべきではないだらうか。

だから我々は最早住宅の『エレベーション』とか『プロポーション』とかの形骸に捉へられる事を忘れ、只只管に合目的建築を目的とせねばならぬ場合である事を確りを認識すべきである。

結論が非常に簡單になつて了つたが、樣式住宅から合目的建築への推移は決して一時の氣まぐれ的のものでは無く、住宅を建てゝこの容器の中に生活する人は勿論そして建築にたづさわる技術家及施行者の全部がはつきりと認識して而も實に眞摯な態度を持して考へねばならぬ重要な建築と生活の問題である。一九三〇、四、一七

‖五・四・一七受付‖



最近住宅樣式の傾向

上野伊三郎

住宅樣式は居住者が朝から晩迄そこに住むと云ふ條件のもとにその『物質的・及精神的機能』から來る表現を最も僞りなくあらはすもので、若し之に反する場合には、即住宅がその機能的要求を充分に滿たすことの出來ない場合には、居住者は非常な不滿を感じて我慢が出來ぬ爲めに、改造を加へることゝなるのである。

住宅の機械的機能はその地方の家族制度の如何、氣候風土の如何、生活習慣の如何等に從つて、時代文化の程度によつて變化して來るのであつて、從つてある時代の流行的感化を皮膚的に受けることも多いのである。

現代日本に於ける中流階級程度の住宅が、日本式木造家屋に應接室丈け木に竹を纏いだ如くに所謂『洋風』の建築を密着せしめる如きも一つの貧弱な流行の影響である。

之を逆に云へば、現代にはチツポケな洋室を一つ持つてゐることを得意氣に見せびらかすような哀れな人間の多いことを適切に表現してゐるものである

却說歐洲の住宅建築の現狀を見るに、各國それぞれの專門家の熱心な研究によつて、各室の大さ、方位の關係、建築費の問題等々細に入り微を穿つて、住宅設計上の問題はすべて今や數字的に決定點を見出さんばかりの狀態を呈して居り、形態に到つては、インターナショナル建築の方向を取るものが必然的に激增しつゝあるのであるが、理論的に形態問題をやかましく論じてゐる建築家はあまりないやうで、科學的研究の結果必然的に出來て來る形態を、現代感覺によつて處理してゐると云ふ丈けのことである。只近時日に觸るゝ處では流行的に新形態をとる野次馬的作品が增したことで、內に强固たる信念なく、又美的訓練の足りないものが多い。

『家屋は住む爲めの機械である』といふ言葉によつて、我が國でもいろ〳〵の議論を聞くやうになつて來たのであるが、一部の人々は只機械的必然によつてのみ美しい形が生れると考へてゐる傾向があるやうであるが、同じ乘合自動車でも或ものは美しく、或ものは醜である。郊外電車の車體も美醜樣々である。機械的、教學的以外に、造形的な美の訓練のない人々の設計には醜なものを見出す場合が多い。こゝに於て機械-と云ふ處のものゝ中にも猶美意識の働きを認めぬ譯にはゆかないのである。現代に於ては然し只その美と感ずる形態が一九世紀頃迄の樣式と異つてゐる丈けである

機械的機能の研究が盛んになつて來た結果として、現代の住宅建築は此方面に大なる發展を遂げて來た事は、現代建築家の一つの功績である。

室内の取扱ひに於ては、金屬管家具を好み種々の新形態の家具が備へられ、又其配置に於ても、從來の如く所狹き迄に多くの家具を置くことなく、精々入用な丈けを配置し、從つて服タンスの如き箱類は、なるべく壁の中に入り込ませるやうにしてゐる傾向が見える　之には日本建築の室内設備が大なる影響を與へてゐるので、二三年前に出たブルノ、タウト氏の著書にも、日本建築の室内の寫眞を揭げて、其簡素を賞してゐるのを見たのである。

壁紙は追々模樣のないものを使用してゐる傾向が強いが、一般向きのものや、殊に强い調子を要するカツフエー、バー、等には夫々之に應じて、新感覺の模樣入りのものが用ゐられてゐる。

前述の如く一般に模樣のない室内壁面が行はれる爲めに、家具の切れ張り、服裝等に模樣を集中してゐる傾向も見え、從つて婦人服は花模樣全盛期を出現せんとしてゐる。

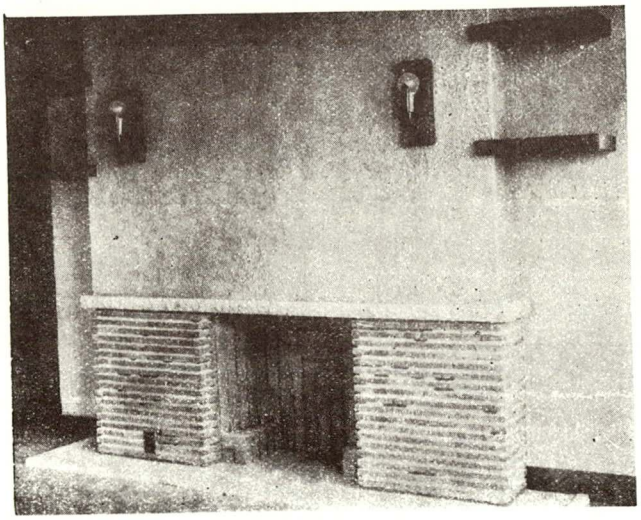
原始民族が穴居時代にその洞元に繪を描いた事から見て、繪畫的なものを居室に求める事が人間本然の性質中にあると考へるとき、既述の如く家具とか服裝とかに何か模樣を求めるとは、當然のことと考へられる。

壁面に模樣を使はないと云ふ傾向は室内に繪畫の類を多く揭げないと云ふ傾向を伴つてゐる。又彫刻が新建築に調和しない爲に之亦繪畫以上に影をひそめてゐる狀態であるが、美術工藝品は印刷的要素を備へてゐるが爲め新形態のものが依然として用られてゐる。

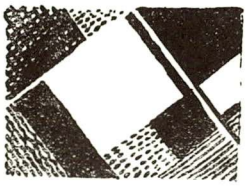
繪畫、彫刻の類を用ゐないとや壁面に模樣を使用しないとは、一面に相當理論的に根據のあることではあるが、之が人間の本理に適合してゐるものであるか否かは今少しく實驗時代を經過しなければ、確言することはむづかしいと思ふ。

我國に於ける住宅建築に世界的經濟競爭に位する必要上、洋服椅子式生活が必要と認められてゐながら、古來の傳統的座臥式生活を思ひ切つて離脫することが出來ない爲めに未だに疊敷きの日本座敷と所謂洋式の室との同居時代を脫し得ない狀態である、從つて外形に於ても、舊日本式と所謂洋式を簡單に接合したものを外部洋式、内部日本式のもの、等の形をとるものが多く現はれてゐる。

明治維新以來始めて西歐文化を急速に取入れた結果として、之等住居形式を變更すると云ふことが急速に行はれて可なり長年月の過渡期を要することも無理ではないが、過渡期が長引く程國家的損害が多くなるのであるから一時も早く此過渡期を終るやうに努力すべきであると思ふ。 ‖五・四・二一受付‖



S氏邸　居間フアイヤープレス安井武雄氏設計



改良炬燵

工學博士　武田五一

日本式住宅の冬期暖房は都合よく行かない。室内の空氣を暖める代りに身體を直接暖める原始的方法が專ら用ひられて居るが、これは我邦のやうに夏冬を通じてさほど寒くない邦では、之れでも可なり實用的に用ひられて居る。この方法の内で最も經濟的で便利なのは、何と云ふても數百年來用ひられて來て居る炬燵が一番である。

唯在來の炬燵の構造法は、現代の生活樣式少くとも都市に住して居る現代式の生活をして居る人々には不便な點が多い、其二三を擧げて見ると

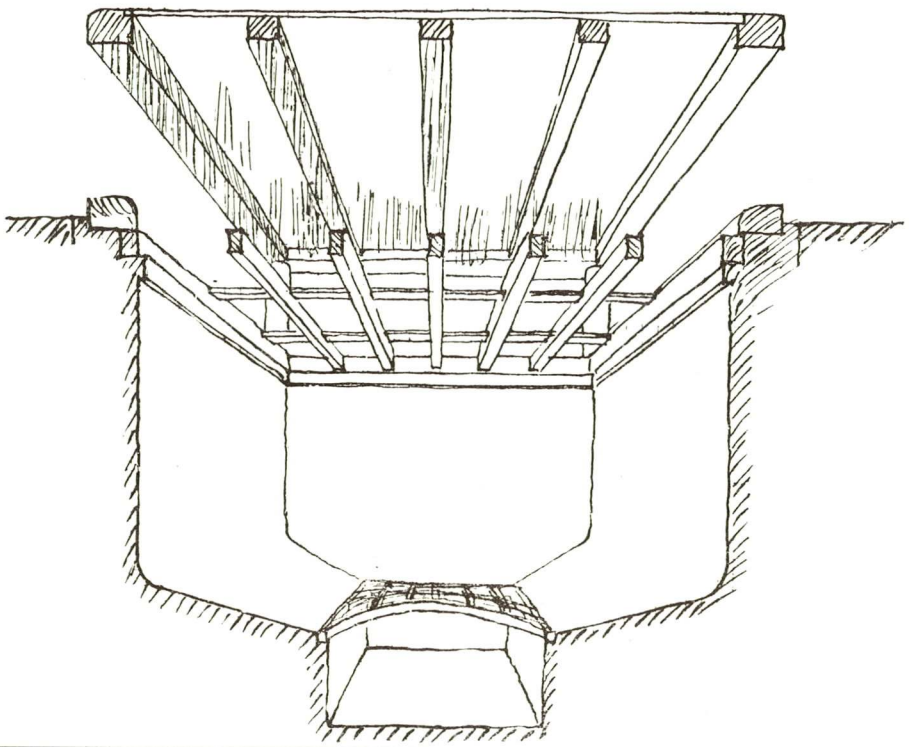
一、大さが小さく家族が多いと所謂團欒的に皆なが一緒に使用出來ないこと

二、座式なる故洋服を着したものに都合惡きこと

三、保溫が充分ならざる故炭の浪費があること

四、櫓の上が格子になつて居る故之れを卓代用となし難きこと

之れ等の欠點を除く爲めに少々ばかり工夫したのを自分は使用して居るが先づ〳〵不都合はないやうである。讀者諸君の參考までに之れを說明して見やう。



第一圖　改良炬燵見取圖

改良炬燵は左圖の如く外部を

コンクリートで包み其の内部へイソライト煉瓦を木端立てにして裏積みをなし、其内部へ檜板を一面に張り詰めた。これによりて保溫は充分に出來た爲め炭の入川が著るしく減じた。例へば此炬燵では嚴冬、朝炭團一つを入れて置けば夕方六時頃までは充分暖かく、夕方又一つの炭團を入れて置けば夜中暖さが保つて居る。

深さを圖の如く廿九サンチにしたから丁度腰掛けて居る高さとなり洋服着用者にも少しも苦しくない。若し日本服を着て居る人が使ふときとか、或は寢るとき之れを蒲團を暖めるのに使ふときは、中格子をはめると疊と同じ平面になる。

檜の上を格子の代りに板でしたので直ちに卓の代用ともなり食卓にも骨牌臺にもなる。

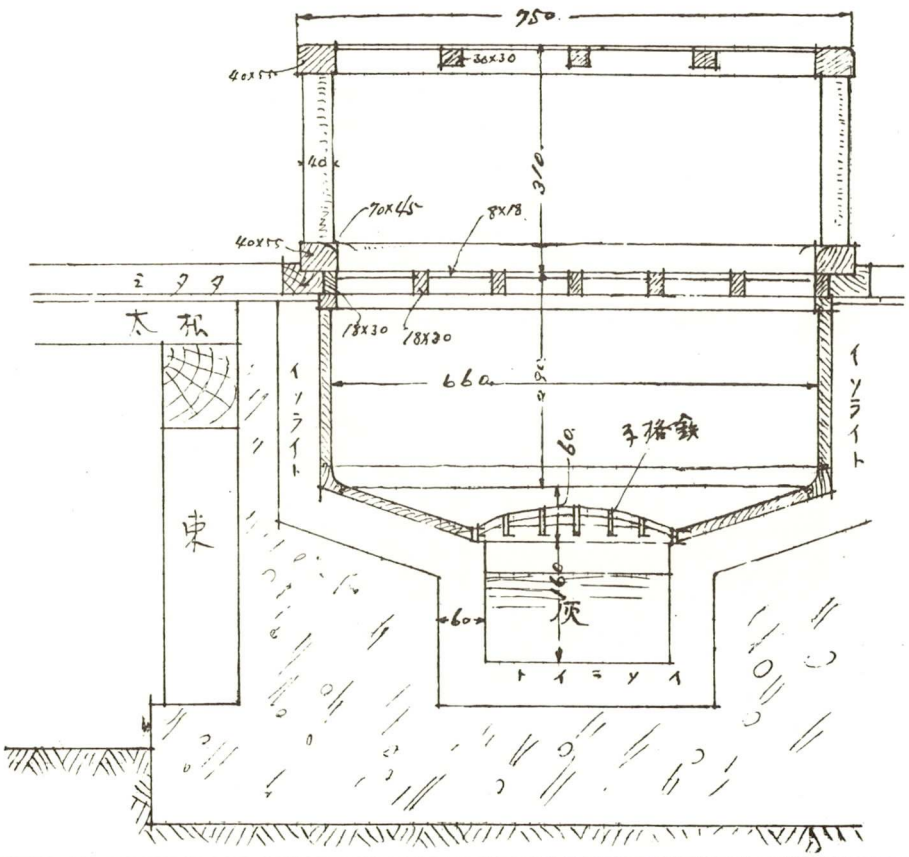
檜の巾を七十五サンチにしたから小供なら一邊に二人、大人なら一人はゆつくりあたれる。即ち小供にては八人一度に使用出來るし兩親と小供四人なら一つの炬燵で結構仲よくあたれることゝなる。

炬燵の内部の底板を傾斜さしたのは、塵埃が溜らない爲めである。若し内張の板が乾燥して收縮したなら其表面へ布か紙を服るとよい。僅かな工夫ではあるが、大に便利をして居るから一寸紹介するのである。

（五・四・二三）

＝五・四・二三受付＝

第二圖　改良炬燵切斷圖

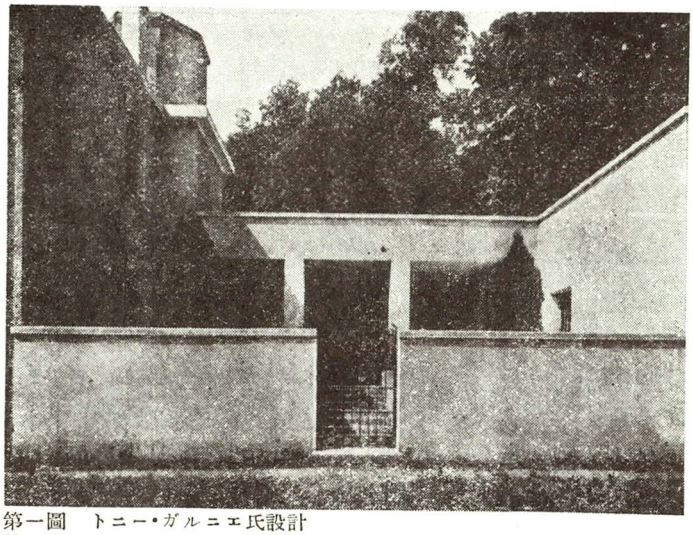




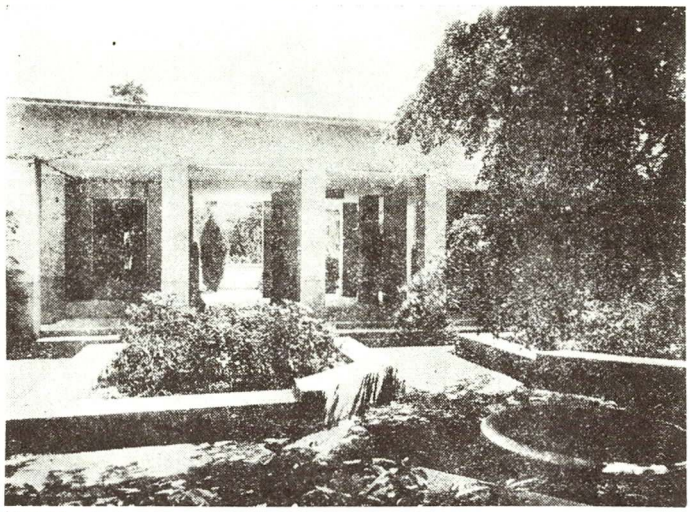
住宅と庭園の一問題

本野精吾

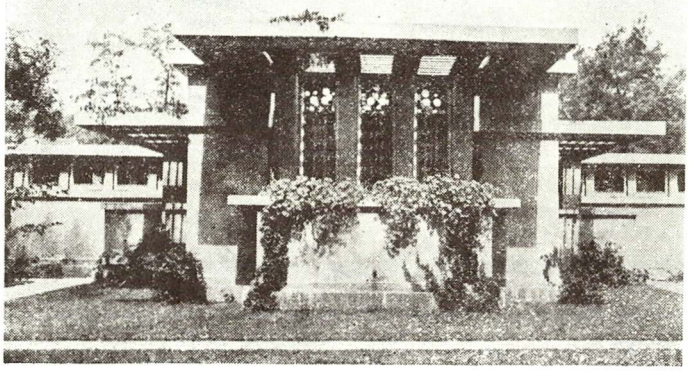
住宅と庭園に就て様々の問題がありますが、今茲では其の中の一つの問題即ち住宅と庭園との中間物の取扱に就て書いて見様と思ひます。中間物と云ふ言葉で意味するのは室内から庭園の外氣の中への移り變りの部分を云ふのであります。此の部分は計畫の主腦部ではないけれども住居の有機的構成に對して極めて重要なる役割を演ずるのであります。此の中間物が極めて重大な構造物になる事もあり又は扉一枚である事もあります。此の問題に就て現時に重きをなす世界の建築家の中で特に私の注意を引いて居ますのはフランク●ロイド●ライト、トニー●カルニエ、ル●コールブツシエ●ソーニエの三人であります。此の三人の住居建築には此の中間物に就て各特長を持ち乍ら共通の重要性を具へて居る事を見出すのであります。



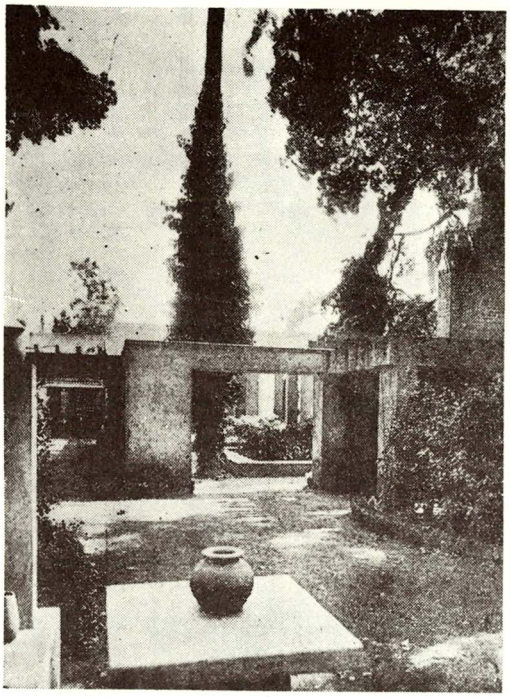
第一圖　トニー・ガルニエ氏設計



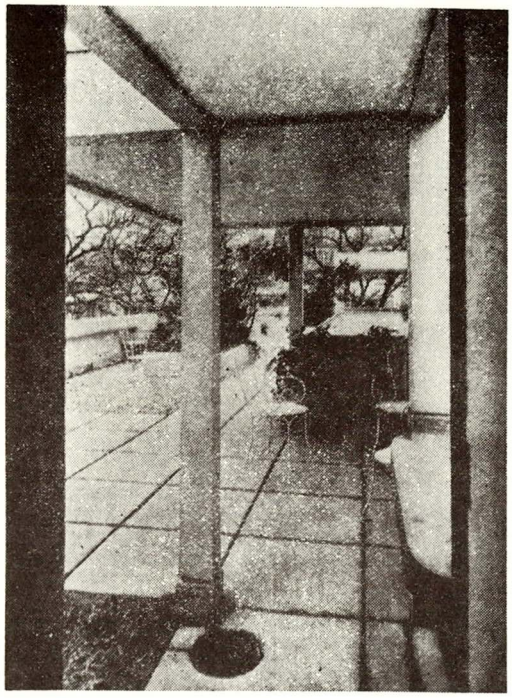
第二圖　トニー・ガルニエ氏設計



第三圖　フランク・ロイド・ライト氏設計



第四圖　ル・コールブツシエ氏設計



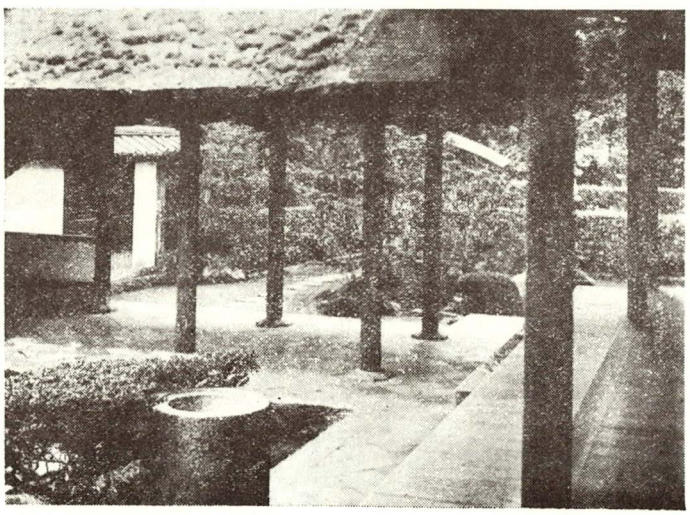
第五圖　トニー・ガルニエ氏設計

各に就て少しく書いて見様と思ひます。

ライト――丁度氏が帝國ホテルの建築に從事して居る最中でありました、私は工事中のホテルを見氏と會見するの機會を持ちました。其の折の會談の一節は此の問題に端的に觸れる事柄であります。ソレは今帝國ホテルの軒先に並んで居る透し彫りの様な一メートル四角斗りの不思議な存在物に就てゞあります。私が行つた折は未だコンクリート打込中で前途まだ遼遠の時で丁度あの庇の怪物の模計が一つ出來上つて居たのでありました。氏の意向はあのでこぼこした氷河の割れ目の様な隙間を透して來る日光の効果を窓際に受け入れ、雨の時はあのすき間をしたたる雨だれの音に耳を傾け様と云ふのであります。私は此の計畫を聞いて氏の極端に詩人的な一面に深い興味を感じたのでありますが、最近の作にも此の計畫の進展を認めます。リバーデールに於けるビラの尨大なる庇の計畫は全く同じ意向をベランダに用ひたものであります。氏が用ゆる中間物は此の種の陰影の効果に重大な點を認める事が出來ます。

トニー・カルニエ――氏程宏大

第六圖　大德寺孤蓬庵（日本に於ける建築の同種の例）



な中間物を用ゆる人は他にない様であります庭ともつかず部屋ともつかない中間構成物が部屋にすぐ續いてそれが次第に庭に移り變つて行くのであります。驚くべく豊滿な計畫で中には殆んど部屋の部分と同じ位の地積を此の中間物に費やして居るのがあります。けれども此の驚くべく尨大な中間物は家全體の機能に對して極めて重要なる役割を演ずるのであります。全く贅澤な計畫ではありますけれども建築に對する全くつまらない見えや奢りに費やす費用を此の種の方面に向けにならば生活内容が何んと豊かに生々として來る事でありませう。（つまらない見えや奢りと云ふのは柱一本が何千圓の珍木とか云ふ類を指す）私は若し費用に餘裕のある場合には此の種の中間物を豊富にする事が眞實の建築の採るべき道であると思ます。これに關しては日本は古來數奇屋と云ふ物の中に此の種の中間物に對して全く驚嘆に値する物を持つて居た事を見逃してはいけないのであります。

ル・コルブツシエ——氏は全く別な或物を持つて居ます。氏の手法の中にはドンな處にも必ず庭を狹んで行く特色を持つて居ます。高層建築にも各層毎に庭を狹んで上つて行くと云う風でありますが屋上の庭等を作る場合に氏がよくやるのはコンクリート製の柱と桁と丈の樣な何にもならない樣な可なり大げさな構造物を造る事であります。之れが何の意向であるかは直接に聞いて見なければ分らないのでありますけれども、多分額緣を通じて風景を見る樣な心持を造り出す爲であらうと云ふのが私共の間の想像であります。之れがなければ感覺は部屋の内から一遍に外氣の中にほうり出されてしまいます。

以上述べました樣に此の三人は各特色を持ち乍ら此の中間物に就て特に注意を拂つて居る事を感ずるのであります『吾等は何と爲すべきか』本項は其の問題即ち日本に於ける進路の探究が目的ではありませんから單に一つの事實の記載として問題を提出するに留め度と思ます。（終り）

‖五・四・一八受付‖



設備は洋風

黑田鵬心

○

我が國の住宅に於いて、疊の上に座ると云ふ事が何時まで續くかといふ事は、時々問題となることである。建築界の老博士は、住宅に於いては永久に續くであらうと云はれた、これは多くの人の同感する所であらうが、果して事實はどうであらう。

豫想は中々難しい事であるし、私として豫想する事に餘り興味も持たないが、現在の事實と、其の進路、傾向によつて將來を卜する事は、或る程度まで出來ると思ふ。

○

明治の初年以來、我が國の生活樣式が漸次洋化しつつあるのは事實である。生活と云へば住が根本條件であるが、改築、新築に伴ふ種々の困難から、衣と食とが先へ進んでゆく事が普通である。

衣に於いて男子の洋服が、儀式上また事務的に、殆んど和服を壓倒してゐるのは事實である。しかも其の趨勢は、今も一日々々と進んでゆきつゝある。女子の洋服も最近十年以來大に擴がりつゝあるが、その方は男子には到底及ばない。併し增加しつゝあることは拒まれない。

○

食に於いては、所謂洋食が家庭と料理店と共に增加しつゝある外

所謂日本料理の內にも洋食の影響が可なり見受けられる。其の外、コーヒーや紅茶を出さない家は殆んどない位である。家庭に於いて全部洋食にしないまでも、朝食をパンとコーヒーにするといふやうな事は隨分行はれてゐる。

○

斯くの如く衣、食が洋化しつゝある今日、住宅も亦洋化するのは當然の趨勢である。たとひ經濟問題から改築、新築が困難であつても、とにかく改築の場合にも、新築の場合にも、全部洋風にしないまでも、一二室例へば應接間、食堂、子供室の如きは洋風とすることが多い。而して少しづゝでも洋風の室が增加する傾向が變らない以上は、それと反比例して和風の室が減じゆく事になるのである。

○

又大體が日本風に出來てゐてもその內部で幾つかの室に椅子、卓を置いて洋風に用ひてゐる事は頗る多い。それは普通の住宅は勿論、日本風料理屋の待合室、佛教寺院の應接室などにさへも見受ける事である。斯くの如くにして、住に於いても和風は漸次洋風に變りつゝあるのである。

○

趣味の上から見ては、洋風には洋風の趣味があり、和風には和風の趣味があつて、何れを優つてゐるとは云へない。何れにしてもリファインしたよい趣味がよいと云ふ事になる。繪畵、彫刻を始め工藝美術品などを多く飾り立てる複雜な洋風と、床に軸一幅、花活一個、違棚に置物一個と云ふやうな單純な日本風とは、全く兩極端ではあるが、リファインされた趣味で飾られた室は、何れにしてもよいものである。

若し經濟さへ許せば、左樣云ふリファインされた趣味の和洋兩樣の室を持ちたいものである。

○

しかし實際の生活、便利と衛生といふ點からは、一も二もなく洋風に贊成せねばならぬ。玄關、應接間、食堂、書齋、寢室、臺所、浴室、便所、サンルーム、ヴエランダ等、すべて洋風が和風に優ること數等である。

○

去年パリに滯在してゐた時、私は友人の借りてゐる數室あるアパートの一室に居たのであるが、女中は通ひで朝は十時頃から來るので、その前に起きると、勝手にバスに湯を出して、一風呂あびながら顏も洗ひ、それから台所で、前夕女中が用意して置いて呉れてあるカフエーをガス台の上に載せ、牛乳と一緒に溫め、長いパンを折つて食べる。バタが欲しい時には冷藏庫をあければ入つてゐる。すべて一人で何の苦勞もなしに朝食を濟ます事が出來る。それも始めは一々自分の部屋へ持つて來てたべたが、後には台所の中央の卓上で、新聞を見ながらたべる事にした。こんな簡單なことは、和風の台所、しかも他人の家などが和風の台所では、決して出來る事ではない。

○

この私の借りてゐた室は八疊位浴室は二疊、臺所は六疊位、別に食堂や客間もあつたが、夜と朝の時間を一人で過すには私の室と浴室と臺所とを使ふだけで、誰の手も借りず全く單純で呑氣で、日本へ歸つてからも、よくその樣子を家の者に話して、皆羨しがつてゐるが、日本でも經濟さへ許せば、出來ない事はないのである。

○

また汽船とか汽車などの事を考へても、簡單、便利といふ點では洋風は和風に優る數等で、斷然洋風が勝つてゐる。また事務的の生活でもさうである。今日では公共建築の全部は、洋風であると云つてもよい。

○

斯ういふ趨勢から推して考へると、將來も洋風は益々增加し、結局洋風が和風を壓倒して了ふかと云ふのに、必しもさうも云へない。さ云ふのは洋風住宅にも安樂椅子が必要であるやうに、休養するには日本人にとつては疊の上の方がよい。事務が終ると、事務の服裝たる洋服をぬいで和服を着、疊の上にあぐらをかくのが最上の方法である。

即ち休養の爲めに一室か二室の和風の部屋が欲しいと云ふ事になるのである。この點で和風の疊の部屋も猶相當長い生命があると考へられる。

○

一方で洋風に於いても、椅子と卓との高さは漸次低くなり、殊に安樂椅子の如きは、非常に低く、又圓い高い庫蒲團のやうなものの流行つて來たのは、和風を採り入れたもので、心持は日本室に近づきつゝあるのである。

○

我が國の洋風住宅と云へば、背の高い西洋人を標準とした高い卓や高い椅子を用ひてゐたのであるが、今や背の高い西洋人すら低い卓、低い椅子を用ひるやうになつたのであるから、背の低い日本人は一層低い卓や低い椅子を用ふべきである。

○

以上は住宅の設備について、洋風のよい事を述べたのであるが、設備を洋風にする以上は、樣式と裝飾もそれに從つて洋風にせねばならないのが當然である。即ち將來の住宅は八割か九割までは、洋風にすべく、あとの二割か一割に和風を殘すのが最も時勢に適してゐると思ふ。甚だ大體論であるがあまり長くなるからこの位にして置く。（四月十四日夜、東京にて）

‖五・四・一六受付‖



壁面塗裝と壁紙に就て

早良俊夫

私共が洋室の居間や應接室に通されて物足りなく思ふのは、ぎら〳〵した白い壁や又は周圍と調和せぬ裝飾や無趣味な家具が置かれてあるのを見ると何だか不愉快な氣がしますが、近頃新築される邸宅は大低壁紙や塗料で種々色彩を施し窓幕や家具を同時に設計され施工されるので、室と家具の調和もよく中にはなか〳〵面白く設計されたのを見る事もあります。斯樣に見る者をして快不快の感じを與へるものは何かと申しますと、形式の統一と色調の力であると思います。

室内裝飾の主要部である所の壁天井は、面積に於て大部分を占めて居りますから其色彩の調和不調は表面仕上の醜美、著しい關係をもたらす譯で、色彩配合の優劣はやがて其室内の陽氣にも陰氣にも堅くも柔くもと云つた具合になり主要な原因をなすものであります。

例へば壁色を寒色のみを以て仕上けますと冬期居住者に對して寒い感じを與へ、暖色のみを使用すると夏期は暑苦しい感じを與へるものであつて、一般から云ふと婦人室などは暖な柔い感じのする桃色調のものや淡綠黄色の落ちついた感のする色調が喜ばれる樣です。斯樣な場合には敷物との調和も計らなければなりませんから、冷い藍色がかつた色調等は相應しいと思います。この樣に壁は壁自身だけでは獨立するものではなくて、常にそれに附隨した部分即ち天井とか床或は家具調度品等も考へなければなりません。

一、壁と天井との關係
二、床と腰羽目との關係
二、窓幕と家具との色調

等は皆そう云つた研究材料であります。殊に日本間では床の間の壁と襖戸のへりと壁の色等の對照を擧げなければなりません。

右の樣な各部の色彩關係に就いては、先輩諸先生が度々發表されて居りますから此位にして本題に

うつります。

普通住宅の壁として一般に使用されて居るものは砂壁、泥壁及び漆喰壁の三種であつて、砂壁には根岸、小星、金星、もろこし、小笠原等黄大津、茶大津は泥壁に、漆喰塗には鼠漆喰、ベニガラ漆喰其他の壁塗り方は何れも木材その儘の天井と適應する色合であつて之れを洋風の室内と比較するに非常に滋味のあるものであります。

洋風にあつては壁は各室の用途に應じて漆喰『フラスター』、『ドロマイド』壁紙とか『クレトン』、『タイル』高羽日『タペストリー』等を使用する場合の他は、油製ペイント或は水性ペイントを塗布して色調を表はすのが最近流行して居ります。

現在水性ペイントの種類としては

アラバスチン（米國アラバスチン會社製）

米國ボストンのワヅオース

ホーランド商會のダルチント

英國品ではサミユエルイウルス商會のオールパツクス

グードラスウオール商會のコムビノルヴエルナスカ

ピンチンジョンソン商會のハイゼイア

ハドフキールド商會の壁面塗料とか其他各種のペイントがあつて色合も極めて淡調な落付きのあるものであります。

近來盛に使用せられて居りますプラスチツクペイント仕上は、美術的で古典的な雅味のあるものです。コンクリート地ラス張及木摺地の上にモルタル或は漆喰下地をなし中塗をなしたる上に施工が出來、至極簡單でありますが此場合一寸注意せなければならぬのは中塗仕上を入念にする事です。

プラスチツクペイント仕上の内クラフテキスは、輝裂も少く色彩模様の現出も自在でプラスターやドロマイド又は石膏を主材とする各種上塗仕上をしたものよりは比較的粘り強い様に思います。

仕上の種類には

一、スパニツシユパルム（掌仕上ゲ）

二、イタリヤンエフフエクト（プラシ亂塗）

三、ローマントラバーチン（霞模様塗模擬）

四、コロニアルスチツプル（點刻塗）

五、コルクピツキング（コルク蒔塗）

其の他ホーランドフイニツシユ。フレンチトロウエルフイニツシユ等あります。

クラフテキス仕上に使用する材料は左の三種に分る事が出來ます。

一、クラフテキスパウダー

クラフテキス元粉末にして白色の化學混合物であつて湯又は水にて半堅煉の糊狀に揑交ぜ刷毛或は鏝にて任意の模様に塗布す。糊狀クラフテキスを塗布されたる表面は約十二時間にて乾燥します。

二、グラフトサイズ

白色の粉末にして湯を以て流動體狀に延し刷毛にて糊狀クラフテキスの塗布されたる表面に塗り約四時間にて硬乾します。

三、クラフトコート

無色半液體にして本品に適宜の顔料色素又はエナメル等を混じクラフトサイズの塗布された糊狀クラフテキスの表面に着色仕上するものであります。クラフトコートは刷毛にて使用し塗布後約十五分乃至三十分後礪穫片等にて凸面を拭き取ります。

クラフトコートに混入する顔料其他の着色材料は褪色せないものを選ばねばなりません。クラフトコートは約六時間内外で硬乾します、此他に手輕にする一回仕上もあります。方法は糊狀クラフテキスを其儘又は夫れに褪色せない着色材料を混入して塗り上ぐるものにして主としてメジ引き仕上に應用せられて居ります。其他にウオールテキス及ラフコートと稱する仕上法もあります。

ラフコートの仕用法

ラフコートは純白の粉末にして之れを使用するには先づラフコート一に對し約二分ノ一の水で溶し充分攪拌いたします。

型附法

下地を充分班直してラフコートを薄く刷毛又は鏝で壁一面平に塗り次に仕上の模様に依り海綿雜布タワシ等で型を附け夏期なれば約一日冬期なれば二日位は經過して

サンドペーパーを輕くかけ其の上に引止液を一回乃至二回塗り次で色素をかけ襤褸片で拭いて濃淡を附けると面白い仕上になります。

使用量

仕上模様に依り差はありますが八ポンドで約一坪塗れます。

次は壁紙ですが壁紙は經濟と體裁及び色彩等の撰擇に容易な點から相變らず盛に使用せられて居ります。

從來輸入されてゐたものは英國製で値も印刷もよく何處となく上品で落ち着がありますが、近頃は米國品にも色仕上の調子に英國品を凌駕するものがあります。佛國製のものは値段も安く奇抜な模様もありますが、近頃のものは特に繪具の落ちるのが多い様であります。

正確な幅及長さは左の通りです。

米國品二坪張幅十九吋半或は二十二吋長十六碼

英國品一坪半張幅二十二吋長十二碼

獨逸品一坪餘張幅十九吋或は十九吋半長九碼

佛國品は獨逸品と同様特種な紙は右記と異つた寸法で來る事もあります、何れも一卷を單位として居りますから、一坪張一坪半張二坪張三坪張として販賣されて居りますが大概多少の『ノビ』がある様です。

此外に高級壁紙として瑞西製がありますが、絶體に褪色せず水洗ひも出來、虫に喰はれぬと云ふ事ですが、テツコ(絹布様)サルブラ(布様)のものもあります。此壁紙は洋畫家の使用する油繪具にて仕上げ下地に亞鉛白が塗つてあります。寸法は幅二尺六寸四分長三十一尺三寸五分一卷二坪張であります。

普通壁紙は大きさに依る區別と印刷法に依る區別及び製造法に依る區別があります。

大きさに依る區別は前述の通りで印刷法に依る區別はハンドプリント(手刷)マシンプリント(機械刷)製造法に依る區別には

(イ) コンモンパルプペーパー

普通の壁紙で素地に厚薄の違ひはありますが實用的のものであります。

(ロ) サチンペーパー

パルプペーパーの上に錫箔の如きものを張り假漆類を塗抹したるもので客間や喫煙室等に相應はしいものがあります。

(ハ) フロックペーパー

普通パルプ地の上に護謨を引き其の上に羅紗の粉末を附着せしめたるもので滋味があつて比較的高尚なものであります。

(ニ) ウヲツシエーブルペーパー

壁紙の表面へ膠引し更に假漆又はペイントの類を塗抹し耐水性となしたるもので主として水氣を扱ふ洗面所浴室の一部等に使用せられます。

(ホ) エンボーストペーパー

地質の厚い壁紙を型に入れて浮彫としたものでフリーズ等に應用されてゐます。

壁紙の張方

木摺下地又は充分乾燥したる漆喰塗の上に强靱な紙にてベタ張りをなし、其上に二三回袋張を施したる上に壁紙を張り付けるのでありますが、其際必ず窓際又は窓に近き方より張り始める様に注意せぬと、窓或は入口からさす光線のため紙の重ね目に陰影を生じ不體裁なものになります。尙周圍の見切りはパイペンと稱する丸き組紐で押へて化粧しますが近頃は餘り使用しません。

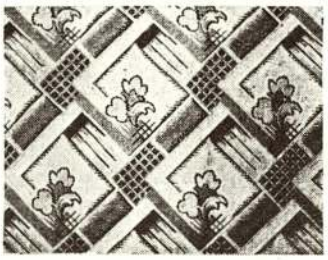
パイペンを使用せない時は、入口及窓額緣際及長押其他木部との取合際は壁紙下地を入念に仕上げて置かないと、是等木部とのチリがきつぱり仕上りません。

＝五・四・一六受付＝



ローレンス古代模様ビロードクッション（伊太利）

小川氏記事參照



歐洲最近の住宅と家具裝飾品に就て

小川安一郎

小川氏は住友本社から歐洲各地へ出張を命ぜられ、約七ヶ月間詳細に視察を遂げられ去る三月下旬無事歸朝されました。左に掲げる記事は同氏が住友倶樂部で報告視察談をせられたその一部分の抄記であります。視察談は彼地の人情、風俗、産業、政治、教育等の各般に亘つてゐましたが、就中諸都市の建築と最近の住宅と新傾向の家具裝飾品との方面のみを拔萃して見ました。(編者)

◇

私は昨年の九月大阪を發つて西比利亞鐵道經由、先づ露都モスコーに着きました。モスコーの町の感じは私にとつて餘りの陰慘に不愉快でした。それは幾多の原因がありませうが、ソビエット政治の不確立がその尤なるものかと思ひます。モスコーの建築は帝政時代からのものゝ內には、豪華、壯麗な建築物が澤山あります。例へばクレムリン宮殿の如きがそれであります。而し現在の同宮殿は赤化の手によつて由緒ある玉座、紋章の如き者は剝取られ悲慘に殘されてあります。

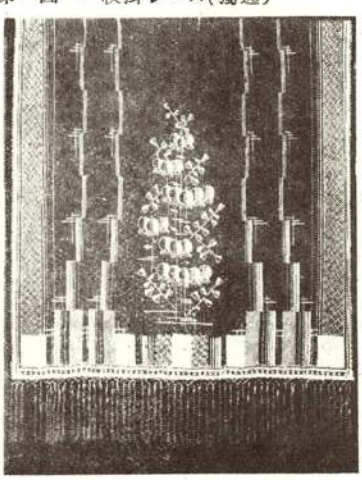
現代の新進建築家の手になる建物は合理的、機械的、構成的(この傾向は後述の如く歐洲各國の潮流ではあるが)のものが作られて居り、又作られつゝあります。その例としては勞働者の宿舍、郵便局等立派なものがあります。之等建築家及びエンヂニヤーに對する待遇は他かに比して大へん優遇されてゐるそうであります。

◇

モスコーを出發しワルソーを過ぎて伯林に着きました伯林は街衢整然、道路條然、建築の壯麗は都市の美觀に光彩を添へモスコーと反對に明るき氣分になつた。戰敗國としての獨逸はその復興に實に涙ぐましきまでに凡ゆる點に努力が拂はれてゐる。これは建築物に對しても勿論だが、經濟的で、實用的で無駄を排しすべて機械的、構成的である。贅澤なダンスホール、レストラント等の建物でも餘りけばけばしくなく、金をかけないで唯客の氣付く直接のものにのみ多少贅を盡してゐる樣である。

家具製作並に室內裝飾を製造販賣するポプナー工場に行つたこの工場では裝飾品は凡ゆるものが一通り取揃へてあつた。卓子掛、窓掛等の材料は概ね木綿・人造絹糸を使つて體裁のよい、廉いものがあります。獨逸では何んでも廉い實用的のものを作ることが標語となつてゐる樣でこの工場もこれに從つた譯でせう。卓子掛の變

第一圖 一枚掛レース(獨逸)



第二圖 (乙)(獨)掛子卓繡刺絹人麻製綱糸綿木



第三圖 掛子卓製網糸綿木綿(獨逸)





第四圖　クレトン(佛國)



第五圖　クレトン(英國)



第六圖　タツプス(獨逸)

つた一例は、卓子掛を網狀に作つてこれで卓子の生地を見せ在來の卓子の生地の見えない缺點を補つてゐます。これは家庭でも出來る簡單なもので經濟的のものです。

家具の材料は殆んどベニヤを使つてゐる。これは獨逸に限らず佛蘭西英國も同樣であるがムクの木は殆ど使はない。ベニヤは初め荒鉋をかけあとは全べてペーパーベルト仕上です。家具は全べて仕上が上手で體裁のよいものを作つてゐます。この工場の一日の製產高は六・〇〇〇萬マークださうです。獨乙にはこの工場の外に多くさん製作所はあるが、そんなに家具類の需要があるかといふに、勿論あるにはあるが寧ろ變態的の需要であります。それは同國にある古くからの昔の家具類は、時價の十倍乃至其以上の價格でどんどん米國に輸出されて行きます。それが爲め新しい經濟的の家具類が國內に補給されてゐるさうです。工場では家具の製作にあたつて豫め三種の型が定められてゐて、此定められた型によつて大量に生產されてゐる譯です。こんな所で獨乙人の意氣込と米國人の氣質とがほのめいてゐて一寸面白い對照を示してゐると思ひます。寢臺のマットレスは在來では一個一列であつたが、全長の1/3と2/3位のもの二個一列になつたものが作られて居ます。是れは衞生心地が非常に宜しい樣です。

◇

伯林の現在迄の市內の住宅は天井は高いが暗い感がします。餘り新しい型の住宅は市內には見受けなかつた。而し之に替るアパートが場末に盛んに建てられてゐる。アパートも經濟的、實用的の原則は適用されてゐるが、家賃は相當に高いやうです。個人の住宅でも大戰の前後で差異が出來してゐる樣です。

◇

伯林から南獨乙の諸都市を訪ね瑞典に到り有名なストツクホルムの市役所博物館を見ました。博物館には古代の優秀なる凡ゆる藝術的資料を蒐集陳列してあります。この國の學生は此處へ實修に出掛けて、それ等を模寫して、その巨匠達の眞髓を極めつゝ有ます。これは聽て自己のものとなして實際上に非常に役立つことゝ思ひます。

瑞西ゼネバでは國際聯盟協會を訪ねました。前年募集の同會館設計は今、建築委員會でプランニエレベーション等が決定したそうです。國際勞働事務局の建築は立派に竣工して居ります。

獨逸のカルスウエーの工科大學に永澤神戶高工教授を訪ねました。同氏同伴でスツトガルトの住宅博覽會場を觀ました。ル・コルビユゼー氏の設計された住宅も建つてゐました。

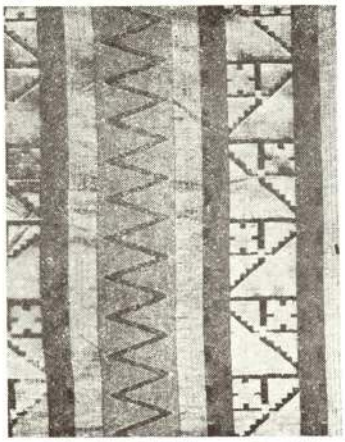
◇

それから白耳義のブラツセルで小便小僧に會つて和蘭に這入りました。ハーグで平和宮を觀ましたが華麗な立派なものです。この町の郊外も矢張アパート及新住宅の全盛であります、中々立派な感がする。

ベンダー・エンド・ゾウンナー工場を視察しました、この工場では家具及室



第七圖　綿人絹交織タップス（佛）



第八圖　綿人絹交織タップス（佛）



第九圖　毛ぬきタップ（英國）

內裝飾は勿論飛行機迄製作して居る所です。職工も六〇〇人から居る大工場で男工四五〇、女工一〇〇、圖工五〇人位の割合で中々盛なものです。家具の材料は重にクルミ、櫻、マホガニー、シラカバ、オーク、チーク、其外各種のベニヤ板を以て使用せられ或る特種な所のみにムクの材料を使用して居る。右の様な專門的の話のくわしき事は專門家のみ時のに話す事に致します。

◇

一旦伯林に引返し更に巴里に行きました。佛蘭西でも家具、裝飾品等重もに調べましたが、この國でも日本の様な各部分的な專門の製作工場が多くて獨逸、和蘭、英國等の工場で見た様な大規模な、系統的な工場はない様です。裝飾品の切地は大へん優雅なよいものが多いやうです。

佛蘭西でも家具の材料は勿論造作工事等ベニヤ一式で、机、扉、等又相當厚みのあるものにも使れて居ります。扉は眞が格子組になつた木の上にベニヤを張つて作ります、非常に重さが輕るくて、丈夫でクルヒが生じないのです。

巴里で近頃有名なデコレター、ブルウ氏に面會しました。同氏の設計になる汽船ラフワイエット號内のデコレーションを見せて貰ひました。同氏と作品の寫眞其他のものを交換し合ひ今後も相互に贈る様に約して來ました。

◇

巴里から倫敦に渡りました。倫敦ではヒートン工場を見ました。この工場は重に客船の室内裝飾及家具製作を盛に引受けて施工しつゝある相當大規模な工場である、應接室には各時代々々の設備なり裝飾なりがあつて客をして直ちに判斷し且つ說明し易くしてある事は注意すべきことである。この工場で自慢なものは卓子の甲板にゴム様のものを張込だものを見せよした。ゴムと云ひましたがこのゴムは特種な成分を有するゴムである。このゴムは火に傷がつかない、つまり燃へないのです。よくマッチや煙草の火で卓子の上がきたないのをよく見かけますがこれの欠點を補ふ事が出來ます。この會社の製品には大ていこのゴムを使つてある様です。又床のリノリユームの替りにもなり早晩リノリユームとその位置を顚倒するのではないでせうか。こゝでも裝飾品の内で新しいものを買つて參りました。

◇

それから南歐の西班牙を巡りました。西班牙の住宅に就いては別の機會に述べたいと思ひます。歸りにボルドーで一泊しました。この町の近くのペザツクといふ所に新らしき型式の住宅が建つてゐるので特に立寄つた譯です。住宅は全市で十七八軒餘で設計はル・コルビユゼー氏です。之は一九二三年の住宅難の時に建た家だが未だ殆ど空家で、たつた一軒しか住んでゐないのです。新型式の家と云へば日本では好奇にかられて早くふさがる様ですが、こゝでは反對になつてゐました。そこで私はその一軒を訪れてその家の實測をして來ました。切角こちらの建築家達の崇拜の人の設計になる建物でもその他の人の理解がないのかそれとも他に源因があるのか建ちぐ

（以下三十頁へ續く）



住宅の電氣設備

大阪市電氣局技師
小畠康郎

電氣は現代の日常生活に於て是非必要なものであり、之が應用の如何によつては、家庭生活を向上し、改善することが出來る。前には家庭に於ける電氣と言へば、殆んど電燈に限られて居つたが、最近では其の應用の範圍が廣くなり家庭に於ける熱及動力の凡ての方面に利用せられるに至つたのである。即ち熱としては湯沸器、七輪、飯炊器、火鉢、ストーブ、炬燵、アイロン、裁縫鏝、吸入器等、動力としては小型モーターを使用したもので、扇風機、冷藏庫、攪拌器、洗濯機、皿洗器、眞空掃除器、床磨、ミシン、自働水揚ポンプ等色々便利なものが澤山出來て、一般の家庭に使用せられる様になつて來たのである。

然し乍ら之等便利な電氣器具類を使用する爲の住宅の電氣設備は比較的閑却され勝ちであつて、例へばアイロンや扇風機を使用するにしても一々電球を外して、そこに線をつないで使つたり、電燈を點滅する場合に暗がりでソケットのキーを手探りしたり、天井燈のコードを無闇に長くして彼方此方と持ち廻つたりすることがよくあるが、之では折角便利な電氣を態々不便に使つて居る様なもので、不體裁でもあり、故障の原因ともなるから、少くとも將來建てる家には充分な電氣設備をして、住み良い家にすることが肝要である。

往々建築家或は建築主は此の電氣設備に無關心であつたり、電氣は何時何處へでも簡單に設備出來ると言ふ様な誤つた考へを持つて居つたりして、家が出來上つてから不完全な工事で、どうにか間に合せて置く様なことがある。之では折角立派に出來た家が不體裁であつたり、電氣の使用に不便を感じたり、漏電事故の虞れがあつたりして洵に遺憾である。

それで私は、これから住宅の電氣設備は何の程度にすればよいか又其の配線工事に對しては如何なる點に注意すれば良いかと言ふことに就いて述べたいと思ふ。

便利にして愉快な電氣設備

電氣を使へばスヰツチ一つ捻ることによつて、室を明るくし、暖くし又は涼しくすることが出來るばかりでなく、洗濯、掃除其の他色々の仕事をさせることが出來る。元來便利重寶なものではあるが、其の設備が良くないと其の價値を充分發揮することが出來ない。例へば、前にも述べた通り一つの電燈を彼方此方と持ち廻つたり、暗い室で電燈を手探りで點けたり、電球を外してからアイロンを使つたりする様では、電氣の便利な使ひ方とは言へない。今日電氣を贅使しやうと言ふ時代には、余りに無考へ過ぎると思ふ。

電燈は各室及各要所に一燈以上設けて適當な明るさとし、其の點滅器も取扱ひ易い、都合のよい場所に取付ける必要がある。場所によつては、例へば階段の電燈などは、上と下と何れからでも點滅出來る二ケ所用點滅器を用ゐると一層便利である。更に現今ではアイロン、スタンド、扇風機、炬燵、火鉢、茶瓶等の電氣器具が、一般家庭の家具什器として普及しつゝあるから、小型電氣口——一キロワツト以下の電氣器具を使用する挿込承口——を室々の要所に設ける事は、電燈を取付けるのと同様に必要である。前にも述べた様に電氣配線は、家が完成してからでは思ふ所へ充分な工事をすることは困難で、若し出來ても不體裁になる様なことが多く、殊に鐵筋コンクリート造の場合は一層困難を感じ、不體裁となり、其の費用もずつと多くかゝる。それで今直に電化しなくても住宅を新築する様な場合は、小型電氣口を室々に設ける事は勿論、煖房用や炊事用の

住宅電氣標準仕樣書

室名稱	電燈 天井	電燈 壁	點滅器 一ケ所用	點滅器 二ケ所用	電氣口 小型	電氣口 大型	明るさ 掛當リワット數（平方メートル當リ）	備考
玄關土間	◎一			◎一			一ケ所付 二〇	土間の狭い場合には欄間灯を用ひても良い
玄關	一		一				一五（四、五）	
家族室	一		一		一		二〇（六、〇）	燈房用としては、別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い
居間	一		一		一		二〇（六、〇）	燈房用としては別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い
客間	一		一		一		二〇（六、〇）	燈房用としては、別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い、次の間は客間に準ず
書齋	一		一		一		二〇（六、〇）	燈房用としては、別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い
臺所	一		一		一		二〇（六、〇）	二坪以上の場合は別に流しの上に壁灯と附屬點滅器一ケ所を設けるのが良い、調理用としては別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い
女中室書生室	一		一				一五（四、五）	小型電氣口一ケ所を設けるのが良い
浴室	◎一		一				二〇（六、〇）	
洗面所			一				二〇 一ケ所付	
脫衣室	一		一				二〇（六、〇） 一ケ所付	
便所	◎一		一				一〇 一ケ所付	
階段室	◎一	◎一	◎一	一			四〇 一ケ所ニ付	
廊下	一		一				二〇 一ケ所付	場合によつては、二ケ所點滅器を取附けると便利である
門、軒			一				二〇 一ケ所付	
内玄關勝手口	一		一				二〇 一ケ所付	土間の狭い場合には、欄間燈を用ひても良い
車寄	一		一				二〇（六、〇）	
納戸	一		一				一五（四、五）	小型電氣口一ケ所を設けるのが良い
配膳室	一		一				二〇（六、〇）	小型電氣口一ケ所を設けるのが良い
食堂	一		一			二	二〇（六、〇）	燈房用としては、別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い
寢室	一	◎一	一	一			一五（四、五）	燈房用としては別に大型電氣口一ケ所を設けるのが良い、化粧室の設備のある場合には別に壁灯と附屬點滅器各一ケ所設けるのが良い
化粧室	◎一						一ケ所ニ付 四〇	
廣椽ヴエランダー	一		一				二〇（六、〇）	小型電氣口一ケ所を設けるのが良い
洗濯所	一		一			一	一ケ所ニ付 二〇	
電話室	◎一		一				一ケ所付 二〇	

本仕樣書は住宅の各室に配置された電燈、點滅器及び電氣口數の最低を示したものである。

壁燈　壁燈の高さは床上二メートル内外が良い。

點滅器　點滅器とは、電燈と別々に壁、柱又は天井等に取附ける點滅器を云ふのである。二ケ所點滅器とは一つの電燈を二ケ所から點滅し得るものを云ふのである。

點滅器の高さは床上一、二メートル内外が良い。

小型電氣口　小型電氣口とは一キロワットの電氣器具を使用する電氣口で、床面近く壁廻りに取附けるものである。

大型電氣口　大型電氣口とは一キロワット超過の電氣器具を使用する電氣口である。

次事用電熱は家族一人當リ五〇〇ワットを標準として最低一・五キロワットを設備すれば良い。

室全體を温めるには坪當リ五〇〇ワット（平方メートル當リ一五〇ワット）を標準として計算すれば良い

電熱器を使用する爲の大型電氣口の設備に就いても、考慮して置くことが必要である。斯く充分な電氣設備をすることによつて、始めて、益々便利に電氣を使用することが出來、家庭生活を愉快にすることが出來るのである。

此の住宅の電氣設備に就いては昨年家庭電氣普及會が『住宅電氣標準仕樣書』を制定し、其の標準を示して居るから、茲に其の仕樣書を掲げて各室の電氣設備に就いての說明に代へることゝする。

尙本仕樣書中の數字の上に◎印があるのは、例へば電燈の欄で浴室の天井燈に◎印があり、壁燈には夫が無い。之は壁燈が取付けられぬ時は天井燈でもよいと言ふ意味で、現場の事情などで已むを得ない時の代案である。

此の表で大體電燈や點滅器の數等がお解りになるでせうが、更に電氣器具の選擇に就いて注意せねばならぬ。電熱器具類では同じ役目をするものでも、其の構造の微細な點が色々異つて居つて中には隨分粗惡なものがある。此の粗惡品の中にも素人の方が一見しただけでは、一寸見別がつかない樣なものもあるが、使用して居ると直ぐ故障を起したり、破損したりして永年の使用に堪へない。それで相當信用のある會社の製品を求める樣にする必要がある。電燈器具では其の構造が電氣的、機械的に完全なることは勿論、照明上優良なものであり、其の形狀は建築の樣式、室內裝飾に調和するものであり、其處に住む人の趣味を採り入れたものでありたい。

配線工事に對する注意

充分な電氣設備は更に完全な配線工事によつて、其の眞價を發揮することが出來るのである。配線工事は之を大別すると、電線を碍子(又は線押)で止めて張る碍子(又は線押)工事と、金屬管を布設して其の中に電線を引入れて配線する金屬管工事とになる。碍子工事は工事費が安いが、體裁は金屬管工事に及ばないので、主に人の眼に觸れない場所——天井裏等、或は外觀を重じない場所——臺所納屋等に適當して居る。金屬管工事は壁內に埋込んで配線する場合或は碍子工事が困難な場所、體裁を重じる場所等に適して居る。鐵筋コンクリート造の建物は殆んど全部金屬管工に依らねばならぬ。此の金屬管工事に就いて注意すべきことは第一使用する金屬管の良否である。配線用の金屬管(鐵管)には亞鉛鍍したもの、エナメル塗のもの、管の厚味の薄いもの、厚いもの等色々あつて其の價格も相違して居るが、厚味の余り薄いものや、其の他粗惡なものを使用すると配線が早く不良なる處れがある。第二は金屬管に藏める電線の太さと線數に應じて、充分余裕のある管を使用することで、電線を何時でも樂に引き替へられる樣な工事にして置かねばならぬ。

次には電線の太さに注意せねばならぬ 電氣は電線さへ引けば通じるのであるが、細い線に余り澤山の電氣が流れると線が熱し遂には燒け切れて了ふ。それで電線は使用する電氣容量に應じて、そんな危險の無い樣に相當な太さのものを用ゐることが必要で、此の點に就いては遞信省の電氣工作物規程に、各太さの電線に對して流し得る安全電流を制限はして居るが不親切な工事人は工事費の關係等から規定一杯の細い線を使はないとも限らない。そんな場合には將來電球の大きいものを使ひたいとか、電熱の容量を增加したいと言ふ時に忽ち困ることになる。一般に電氣の使用量は增加して行くもので、最初は二〇ワットの電球でよかつたものが、今度は三〇ワットとか、四〇ワットの電球を使用しなくては暗くて困ると言ふ樣になる。それで此の樣な將來の增加を考へた相當余裕のある配線をして置かねばならぬ。

次には良質の材料を使用した叮嚀な工事であらねばならぬ。配線材料の粗惡な安物を使用したのでは配線が速く惡くなつて漏電したり、熱を持つたりして安心して電氣を使用する譯に行かない。例へば電線等には種類が澤山あつて一見した位では其の良否は解らないが、銅線に卷いてある被覆のゴムが惡かつた爲に使用中直ぐ絶緣が不良になつたり、或は電氣口即ち挿込承口が粗惡な爲に所定以下電流が流れても熱を持つ樣なことが折々ある。

不親切な粗惡な配線工事も亦安心が出來ない。例へば電線と電線との接續點は普通必ず半田付する

ことになつて居るが、之をしなかつた爲に電氣が通るとそこが熱したり、或は捻子の締め方が不親切な爲にそこから熱を持つたり、或は電線の止め方が粗雜な爲に一寸した事で碍子が造營材から外れたり、碍子から電線が外れたりして電線と電線と又は電線と造營材とが接觸し、之が漏電の原因となつたりすることがある。

勿論配線は電氣供給會社の方で送電前に試驗はして呉れるが、試驗は一つだつて見落すことも無いとは限らないし、捻子の一つ〳〵にまで些細に注意して試驗することも出來ないでせう。それで完全な配線工事にする爲には、どうしても信用ある工事請負者に依頼し、熟練せる工事人に叮嚀な工事をして貰はねばならぬ。斯くして始めて完全な電氣設備が出來るのである。

（五・四・二二受付）



住宅に於ける照明器具に就て

工藤壽男

住宅に於ける照明器具は、その住宅に這入る人の、趣味、性格に依つて變るものであるから、これを一律に、括り上げて言ふ事は出來ない相談である。人は百面百相の如く、その採用しやうとする動機、見界が全く違つて居るために、その結果は千種萬別であるが、見界、スタンドポイントを明にして考へて見れば、幾らかの、手筋で押へて行けるわけである。

一體、照明器具は、光源體から出る光量を或る程度、欲する被照面へ集めやうとするのが主なる目的の一つであつて、第二義としては、裝飾的である。

然しながら、或る場合には、裝飾樣式を主として、光の分布關係を從とする場合もある。

住宅に於いて、特に、日本建ての住宅には、古來、春夏秋冬の、季節の變化に依つて、建具を欵め代へ、掛軸を取りかへ、敷物、調度に至るまで、季節向きに舞臺替へをする。全く日本建住宅程フレキシブルに出來て居るものはない。このフレキシブルの中に、たつた一つ照明器具だけが、考慮の外に置き去りにされて居る。照明器具が、部屋〳〵に於いて、席次を假りに極めたならば、床の間第一位、違棚第二位、第三位は恐らく照明器具であらうと思はれる。

この重要な地位にある照明器具が、季節に應じて、取り換へられたならば、部屋の氣分は、より一層代つて來るであらう。

照明器具を取り換へるのは、面倒だと言ふかも知れないが、障子を入れ替へるより樂である。たゞ照明器具を殆ど、いじる事のないために臆腔に思ふだけのもので、ラヂオをいじるより無造作なものである。

照明器具は、固定式と移動式の二つがある　部屋の性質に依つては、その使用目的が種々に替る。例へば、居間の如きは、集る人たち（同じ家族でありながら）に依つて異る。遊びものを持ち出して來る事もあるだらうし、又は、仕事を持ち出して來る事もあるだらう。そう言つた場合に、部屋には、固定の照明器具の外に、移動式のスタンドを必要とする。移動式は、必要な箇所に適當に光を與ゆる事が出來るもので、益々、この方面の照明器具は要求せられて來る傾向がある。

最近は、工藝品の一部門として

照明器具が芽を出して來た。或は、彫刻の一部として、或は、家具とコンバインして、出て來た。昨年の帝展にも出品された。そして、照明器具としての本來の使命を失つて、工藝品として、恰も香爐の香の如く、光が取り扱はれやうとして居る。

今一つは、庭園に於ける照明器具である。折角の庭園も、現在では殆ど、夜間に賞翫する事は出來ないやうなものと言つて差支へない程、庭園には照明が施されて居ない。從つて、この方面に於ける照明器具の發達は遲れて居る。日本庭園にて、燈籠などに灯を入れる程度で庭そのものを見せるのではない。日本庭園は、そうしたやうに照明出來るやうな設計に出來て居ないので、現在では、日本庭園にも、洋式そのまゝを取り込んだのが多い。

照明器具とその材質の關係であるが、日本建の座敷、客間などには、木竹の類に紙を用いたのが適當で、金屬製硝子は重苦しさがある。紙などを使用した時は、電球の熱を發散容易ならしむる換氣的の設計を忘れてはならない。

他器物を照明器具として應用する事も面白い効果を與ゆる事がある。在來あつた古燈籠をその儘、軒先の虫除けに使用するとか、行燈類をスタンドに改造するなどもよい。

洋室向きとしては、西洋物で、電球を入れらるゝやうに改造して照明器具とするのである。これは神戸あたりに行くと、外國で、さる舊家が沒落して、家具を競賣に附せられたものを、そのまゝ引き取つて輸入する店がある。こゝから丹念に照明器具になるものをあさると、誠に得難い器具を掘り出す事がある。

一二器具の撰定について述べて局を結ぶ。食堂の器具としては、食卓にセード付きのスタンドを用ゆるか、若しくは、ペンダントとして、食卓の上は直接照明になるやうに、その他は半間接照明になるやうな器具を撰定する。この場合には、電球に注意して出來得るだけ、赤色を欠いだ電球を使用しないやうにせねばならない。食物に冷たい色合を與ゆる事は絶對に禁物である。要するに器具は光を食卓中心に明るくして、一般は、和な軟い光を與ゆる事である。食堂に使用するブラケツトも亦、その意味で裝飾的であればよい。

寢室。枕ランプの器具としては綠のセードを有するものがよい。もしペンダントであれば、布包み式の器具として、布は白色とし內部に白色と綠色の電球を入れ、就寢に當つては綠色電球を點ずるやうにする。

‖五・四・一九受付‖

(二十五頁より小川安一郎氏記事續く)

されになつてゐるのは氣毒な感じがしました。

◇

墺地利のウイン及ハンガリのブダペスト、チエツコのプラーグ等も廻り、歸りには伊太利の各都市に寄りましてナポリから郵船の鹿島丸で歸りました伊太利はよく日本と似た所があつて風光も明媚で旅行も愉快に出來ました。御話は未だ色々ありますが時間がありませんので

結論に入りたいと思ひます。

佛蘭西、獨逸、和蘭等の國の所謂新しい型式の住宅はどん〳〵出來てはゐますが、實用化されてゐると云ふ事に對しては少し考へさせられる樣である、つまり一般住む人がそれに引づられないのではないでせうか、その點から云ふと實際的には尙早の樣な氣がします却つて日本の方が變つた新しい型式の家を逐ふて、歐洲よりは先ばしりしてゐるのではないか知らと思はれます。

◇

其外新らしき家具もどちらかと云へば實際使用せられて居るのはバーやカフエー位で、住宅の家具や事務所等には一寸見當らない樣でした。

バー、レストラント、カフエー、ダンスホール等の建具はどし〳〵變つた新型式のものが見當り又出來つゝあります。

話しが前後してお判りにくい點が多々ありますが、どうかこれで失禮させて頂きます。尙歐洲から窓掛、卓子掛、裂地、其の他ストーブの金物等參考にもと思つて買つて來てゐますから見て頂きますその內の四五種をこゝに寫眞として揭げます。

‖五・四・二三受付‖



住宅照明

岩崎勇

住宅照明は工場照明や事務所、商店等の照明と其趣きを異にし特に注意すべき點多し、工場及事務所の照明に就きては照明度均一なる事、燈器の配光及び能率高きものを用ひ實用を主とするに反し、住宅照明に於ては各人の趣味嗜好によるは勿論燈器等も美術的方面に傾き照明度必しも均一なる事を要せず却て不均一にして變化ある照明を喜ぶものなり、

住宅照明に於て留意すべきは照明の心理的方面、生理的方面、物理的方面、經濟的方面等なり。

心理的方面は燈器の美術的方面と照明の光度及び色彩効果とに分かち考へらる。燈器の美術的方面に於ては、室の建築樣式と燈器の樣式とが調和する事第一の必要條件なり。

即同一室内に使用する燈器例へば『シーリングライト』『ブラケット』『テーブルスタンド』等が同一樣式にして同一仕上げのものたる事及び燈器の形狀が相互に釣合を保ち且つ室の大さと調和する事、又器具の仕上げの色合が他の室内裝飾と調和する事等も又必要條件の一つなり。

照明の光度及び色彩効果に關しては軟き照明を與へ鋭き陰影を生ずる事なく、且つ明暗その宜しきを得て變化に富む照明を與へ單調に流れざる事、居間、客間『サンルーム』小供室等は溫き感じを與ふる爲『アンバー』色の『セード』『グローブ』又は着色電球を使用するが如き、食卓の上部、裁縫室、臺所等に清新の氣を與ふる爲又は色彩を充分に認めしむる爲に晝光色電球を使用するが如き、夏期特に涼味を感ぜしむるが如き、燈具の配備色彩の應用等にも注意する事肝要なり。

◇

生理的方面に於ては薄暗き場所にて讀書し又は輝度高きものを見つむる時、眩輝現象を起し身心を勞し眼を害する事夥し。是照明の不良が近視眼の增加等に密接なる關係を有する所以にして住宅照明に於て最も注意を要する點なり。

眩輝を防ぐには如何なる場合にても電球の纖條が絶對に眼に見えぬ樣になすを要す。其爲には直接照明器具に使用する電球は艶消とすべく、又燈器の『ボール』『グローブ』『セード』はなるべく輝度の低きものをよしとす。然し輝度相等に低くとも長時間光を見つむる時は眩輝を感ずる故に燈器はなる可く視界以上に高かく取付くべし。

眩輝現象は光源の輝度と背景の輝度とが著しく異る場合にも生ずるを以て天井、壁等の色合の比較的暗き和風住宅等にありては光源の輝度を出來得る限り低くするを要す。

物理的方面及び經濟的方面として燈器の配光能率等は亦重要なる要素の一にして、夫々使用場所に應じて適當なるものを撰擇すべく配光能率共に良好にして價格の低廉なる事は最も望ましき事なり。

而し住宅照明に於ては前述の諸條件に重きを置く必要あるを以て屢々能率價格等の點は幾分犧牲に供する場合多し。唯其個々の場合に就き適當に彼此取捨撰擇すべきなり。

◇

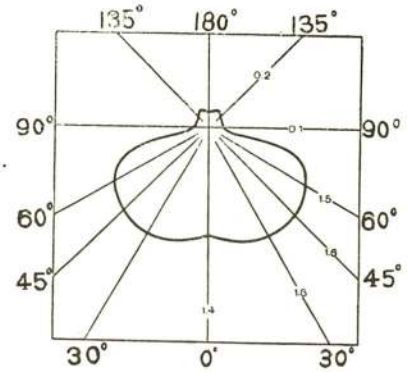
次に經常費も相當考慮を要す如何に良照明なりと雖も其配線複雜にして且つ所有者に電燈に關する智識なき爲、是を經濟的に使用し得ず結局良好なる照明も不經濟として嫌棄さる此點にも充分注意を拂ふ必要あり。

照明器具の撰擇は照明設計に當り最も重要なるものにして、殊に『グローブ』又は笠は照明に缺くべからざるものにして是が配光、形狀、色澤は照明器具の品位を支配

第一圖

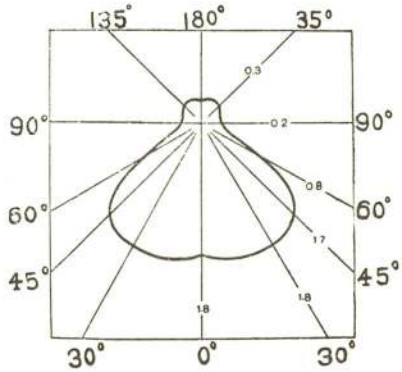


淺型ベルリア笠に
B電球を用ひし場合の
配光曲線



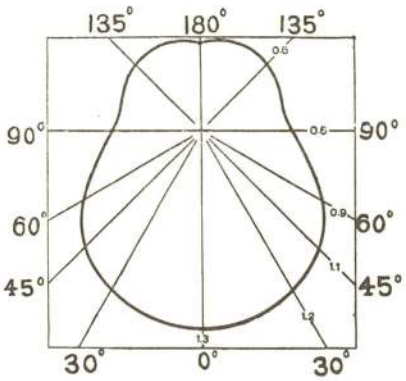


深型ベルリア笠に
B電球を用ひし場合の
配光曲線





トロジヤリアに
C電球を用ひし場合の
配光曲線



するものなる故其設計には充分の注意を要す。

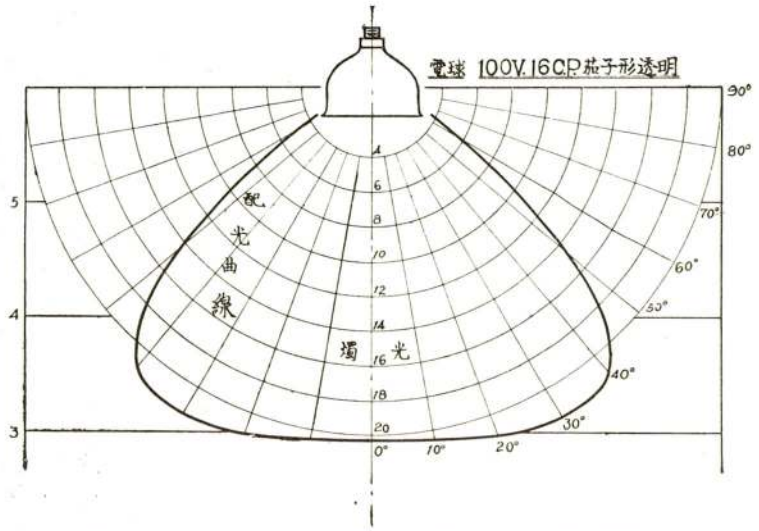
和洋何れの住宅を問はず、建築及內部裝飾が時代樣式に重きを置く場合照明器具も亦之れに適合せざる可からず。我國の住宅照明器具は日本間は洋間に比し其の樣式比較的簡單にして種類少なく是れに適當なる照明器具未だ充分に發達せず、照明裝置は近來長足の進歩發達をなせども、歐米の共れに比する時は未だ日淺く住宅の樣式も極めて單調なる爲和風照明器具設計者は之が改良に苦心す。

照明器具の取付は天井より吊下するものにありては器具の全長を天井高さの三分の一乃至四分の一となすを適當とす。『ブラケット』は其の器具の大小により異なれども壁面より五寸乃至八寸出位なるを適當とし、取付高さは裝飾用は光源の高さ床面より六尺實用向には床面より五尺五寸を適當とす。『スタンド』は机上用のものは全長一尺乃至一尺五寸位にして『フロアースタンド』は日本間用としては二尺三寸乃至三尺洋間用としては四尺乃至六尺をよしとす。

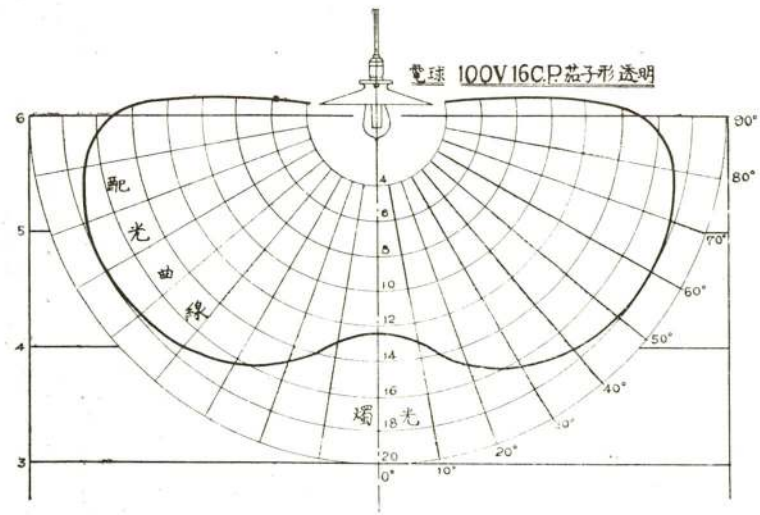
◇

照明面の高さは日本間にありては一尺五寸に洋間にありては床上二尺五寸に取るを一般とす。照度を比較するに日本間は洋間に比し餘程低く取るを普通とす。實際の場合を見るに日本間は洋間の場合の五割乃至七割にして是は從來我國の照明智識一般に幼稚なる上に日本間に適合せる照明器具の發達なく安價なる直接照明設備を唯一の方法となすのみならず、建築の構造上部屋の色澤一般に暗く周圍の壁及び襖と机上の紙等の輝度の對照著しく目立ちて比較的明るく感ぜらるゝ所以なり。次の表は日本間洋間に必要なる平均照度なり。

電燈器具の能率の考察に二種あり。第一は電球の發する光束中、幾何%が器具に吸收せられず外部



第二圖金屬製廣照型内面銀色塗笠に B 電球を用ひし場合の配光曲線



第三圖乳色硝子 P_1 型笠に B 電球を用ひし場合の配光曲線

同一電球に就き P_1 型笠を用ひたる場合と「ベルリア」笠を用ひたる場合の値下の燭光比較

電球燭方	P_1 笠を用ひし場合	ベルリア笠種類	ベルリア笠を用ひし場合	增加率
10 c.p.	100%	6″	134%	34%
10 c.p.	100 ″	9″	170%	70%
16 c.p.	100 ″	9″	171%	7 %
24 c.p.	100 ″	8″	177%	77%
32 c.p.	100 ″	8″	195%	95%
50 c.p.	100 ″	9″	174%	74%

各室照明强度

室名	洋式住宅照明（米燭）	和洋住宅照明（米燭）
玄關	2—10	1—10
ホール	7—30	4—10
取次室	10—30	5—10
應接室	10—30	5—20
客間	10—30	5—20
書齋	20—40	10—30
音樂堂	20—30	10—20
食堂、茶の間	15—30	10—20
食卓（碗型笠を用ふる時）	30—50	15—35
食器部屋	20—30	10—20
臺所	40—60	20—30
洗濯室	20—30	10—20
階上下ホール廊	5—10	2— 5
寢室	10—30	5—20
浴室	20—30	10—2
暖房室	4—10	
物置	4—10	2 - 5

に出るかを示すものにして、器具による吸收率を一〇〇%より引きしものにて之を『器具能率』と云ふ。第二は電球の發する光束中幾何%が作業に於て有効に利用さるゝかを表はすものにて、之を『照明能率』或は『利用率』と云ふ。此の第二の『利用率』は單に器具の性質のみならず、室の大さ、壁、天井の色並に反射率により變るものなる故他日に讓りこゝには第一の器具能率のみにつき說明せん。

此の器具能率は前述の如く作業面に於ける利用率を全然考慮せざるを以て電燈器具の優劣を判斷するには此外に利用率、配光、形狀、眩輝防止等を考慮するを要す。

電燈器具の器具能率は材料の種

類、厚さ、其他の條件により異なれども、今普通の製品に就て其概略値を擧ぐれば次の如し。

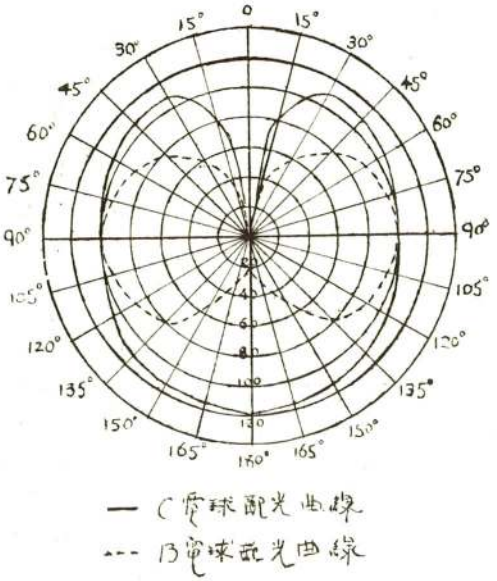
器具の種類	能率(%)
間接照明器具(鏡面反射笠附)	70
半間接照明器具	80
半圍器具(乳色硝子)	70
同 (嬶娥硝子)	80
淺型乳色笠	85
深型乳色笠	80
ファクトリア、配照型	80
同 深型	60
鏡面反射笠、深型	75

器具能率に影響を及ぼすものに厚さ、生地の濃さ、色等あり、厚さ増加する場合透過率は減少す、而れども夫れと同時に反射率は增加す故に、淺型笠に於ては能率に及ぼす影響少なきも深型笠、蓋球に於ては厚さの增加に從ひ能率著しく低減す。

◇

生地の濃さも厚さと同樣に淺型笠に於ては左程影響なきも深型笠蓋球に於ては生地濃くなるに從ひ能率低下す。乳白硝子と嬶娥硝子とを比較するに淺型笠にては何れも大した違ひなけれごも蓋球などにては嬶娥の方遙かに能率良好なり。

着色硝子は吸收多き爲め笠に濃き着色硝子を用ふる時は能率低下す、勿論着色と云ふも淡き色を笠の一部に用ふるは差支へなきも、濃き色を廣き部分に涉り用ふる事は特殊の目的以外には好ましからず



器具の良否の決定はむしろ其配光によるものにして之とて器具と電球との組合せに依りて變化す、器具には夫々適合せる電球ありて是を勝手に組合はすも容易に良結果は得られず、一般に配光は反射光の配光と電球自身の配光との和なれども反射面が撒光性なる場合、反射光は笠の形狀に無關係に大體光源を頂點となす球形となる故其れに電球自身の配光の加はりしものが全體の配光となるなり。

B電球即ち眞空タングステン電球に於ては電球自身の配光は其の直下最も小にして水平燭光の約一六%にして直下を遠ざかるに從ひ次第に大となる故に、一般B電球を使用せし場合配光は直下よりも三〇度乃至六〇度位の間反つて明るく配照型の配光となるなり。

C電球即ち瓦斯入電球に於ては其直下最も明るく强照型の配光をなす。

◇

斯くB及Cにては配光曲線の異なるは勿論なれども、同種類の電球にては其の大きさ及び笠の形狀の如何にかゝわらず遮斷角以內は大體同樣なる相似形の配光をなすものにて、笠と電球との組合せは寧ろ眩輝防止及形狀より主として定むべきなり。

鏡面反射又はアルミニウム粉仕上の笠の如く指向性の强きものは光源の位置、笠の形狀により配光著しく變化す所要配光に對し電球と器具との間に一定の關係あり、電球の大さを決定せし以上は必ず其れに適合する笠を使用せざれば豫期の結果を得られず。

蓋球の場合硝子の質撒光性にて全面一樣に輝く場合其配光は蓋球の形狀により大體決定す、即ちかくの如く蓋球の形狀により配光定まる故器具の形狀は其の器具の良否を決定する重要なる要素なり。硝子が撒光性ならざる場合、例へば透明硝子を艶消にせし蓋球の如きは其配光は外球即ち蓋球の形狀に關係なく光源の配光に其のまゝに近きものとなり、蓋球の形狀により之を變更する事出來ず、かゝる蓋球を使用して良配光を得る事は不可能なり。

撒光性反射面の器具に種々なる電球を組合せし場合夫等の配光は取付電球の燭光に比例し相似形なり。第一圖は各種撒光性器具の代表的配光曲線なり。

‖五・四・一四受付‖



臺所の設備と衛生

大阪市立衞生試驗所長
醫學博士 藤原九十郎

臺所は我々の生活に最も大切な食べ物を取扱ふ處であるから、最も衛生的にまた最も能率よく作業が出來る様にされねばならぬ。彼の寢室が一家の肺臟であれば、臺所は正にその胃腸等の消化管の役をなすものである。寢室の衛生施設が健康上惡るい時には、肺結核や其他の呼吸病に犯されるも同様に、若しも臺所の衛生が忽せにされたならば、その家族は胃腸の病氣は勿論のこと、チフス、赤痢などの消化器傳染病に罹るものと思はねばならぬ。殊に臺所はその性質上色々の不潔なものや、汚染されたものまでも取扱ふ所である關係上、常に危險に直面する場合が多く『病は口から』と云ふ諺も、結局は臺所の衛生設備の不完全な事にその源を有つわけであるから、少くとも口から這入る病氣の豫防策は、先づ臺所の衛生問題から初めねばならない。

而して單に臺所の衛生と云ふても仲々廣汎なもので、色々の事柄が關與するが例へば設備の上から見た衛生問題があり、調理する飲食物に關した衛生的取扱方法があり、また臺所用品、食器等の衛生的處置法等甚だ多岐に亘るわけであるが、茲にはその概念だけに就いて說明しやう。

第一 臺所の配置とその設計

住宅内に於ける臺所の配置は、食料品の貯藏と云ふ意味から見て家の北側を以て之に當た方がよい。また寢室や居間を南向きとすれば自然臺所を北側にせねばならぬ様になる。北側がよいと云ふ理由は臺所は食べ物の貯藏所であり冷藏を主旨とする所であるから、若し直射日光に依つて溫められると、腐敗を早め其他種々の不利益を伴ふからである。それ故一般に排水をよくし、乾燥さへ注意するならば日光の直射する様な他の方向よりも寧ろ北向きがよい。又臺所の壁は耐水的で淸掃が容易に出來ると云ふ意味から、便所、洗場、風呂場等と同様に『タイル』張りとなし、薄つぺらな漆喰壁等を以て便所と境する様な、從來の狀態は第一に改良しなくてはならない。臺所の床は洗ひ流しが容易に出來る様に土間となし若し板張とする場合には防水法を施して濕潤するのを防かねばならぬ。又防濕上必要なる問題は、その排水を最も工合よく設計する事である。臺所は最も水を使用する所であるから。若し排水が不完全であれば、常に濕潤して衛生上總ての點に於て、最も忌むべき結果を招來するものである。

臺所の設計をするに當つて、土間を有する關西式がよいか、全部板張りとする關東式を撰ぶかは各人の意見によつて異るものがあると思ふが、私は自家の經驗から臺所に段階を有せざる關東式の方が便利な様であると思ふ。水を使ふ場所なるが故にタタキとすると云ふ事にも先づ一理あるが、一々昇降する事は甚だ不便で、日々の作業能率上甚だ不利であり、また如何に水を使用する處とは云へ、それは流しでの仕事であるから濕めると云ふても實際の作業上は左程甚だしいものでない。それよりも流しの周圍の床面及び周壁をタイル張りにすれば、比較的淸潔に濕めらずに濟む様である。又よく流しと排水管との連絡を圖り時々下水溝の掃除をなし、排水が常に停滯なく完全に行はるゝ様に心掛けねばならぬ。

第二 調理品と未調理品との整理

商人から購入した食品原料と、既に調理した食品とは混同されない様確然と整頓が出來得る設備が

必要である。元來日本の家庭では臺所の機能は單に食物の調理のみならず、原料品の買入れ場所でもあり、又その貯藏場所ともなるのであるが、商人より購入した原料品には、大體種々な病原菌や其他の不潔物が附着して居るものと考へて差支へない。特に魚や野菜などの樣に生食する機會の多い食品を道端の汚水や不潔な海水等で洗つて、平氣で販賣して居るのを常とする事を目擊して居られる方には、良くこの間の消息が窺はれる筈である。斯樣なわけであるから原料品を調理する場合には特に注意するのは勿論であるが、また既に調理された食べ物と、この原料品とは戸棚の中で雜然と混同されない樣に、必ずその置き場所を嚴重に區別する事が必要である。

尙これと同じ理由で食ひ殘りや腐りかけたものなどの仕末は出來るだけ速かに且つ完全にやらなければならぬ。腐りかけたものには多數の腐敗菌が付いて居るのであるから、これが若し他の食品に少しでも混つたとすれば、その健全な食品の腐敗まで大變早めるのである。腐りかけた果物をその儘にして居つた爲に、中の健全なものまでが早く腐つたと云ふ事は一般によく經驗されて居る事柄である。要するに臺所としては購入食料品の置き場と、廢棄物の置き場と並に既調理品の置き場とは各々完全に區別する樣に、又調理する場所も此等不潔品の置き場とは相當隔つて居る樣にする事が肝要である。

第三　空氣の流通を計ること

食物の調理をやるためには『煮たき』の必要がある。即ち木炭や薪や瓦斯等を燃燒すれば、炭酸瓦斯を初めとして其他の燃燒瓦斯が發生し、また或る場合には一酸化炭素などの有害瓦斯まで出るものである。其他炊事で溫度が高くなり、蒸氣が盛んに發生して大變濕つぽくなる。斯樣な事からして臺所は他の室以上に特別に通氣を圖る必要がある。尤も夏の季節は暑いために室を開放するから先づその心配はなからうが、一般には室を開放する事は火焰が動搖して『煮たき』の能率を下げるため餘り行はれ難く、從つて臺所は他室よりも高溫、高濕、無風狀態に陷り易く、爲に炭酸瓦斯その他の燃燒瓦斯が蓄積し勝である。かくて斯かる場所に作業する主婦の健康を障害するばかりでなく、食物の腐敗を甚だしく早める不利を招來する。即ち腐敗菌を初め總ての細菌は比較的高溫と濕氣の多い時が一番その繁殖に適し、從つて食物の腐敗もかゝる時が最も早くなる。

斯樣なわけであるから臺所全體として通風換氣の點には最も意を拂ひ、煮炊爐に近く排氣孔を設け煙突によつて補助換氣を行ふか、さもなくば回轉窓を常に開放して自然換氣を助成せねばならぬ。又戸棚などは常に溫い、濕つぽい空氣が停滯し易く內部の食品の腐敗を早める恐れがあるから、清淨と同時に出來るだけ換氣に注意して濕潤なる空氣の停滯を避け又これが容易に行はれる樣な構造のものとしなくてはならない。

第四　採光を充分に圖る事

臺所は吾々の食べ物が最初から最後まで取扱はれ、そこで作られたものは最早や何等の處置を施す事なくして、直ちに吾々の口に這入るものであるから、常に周圍の清淨に注意せねばならぬ。その爲には前述の室の設備や整頓の外に採光を充分に圖る事が肝要である。總じて暗い所では不潔な事が目につかないため、その儘看過され勝ちであるが　明るい所では作業も能率よく出來るのみならず、食べ物についたものや、周圍にある極めて細小な不潔物までも明瞭に見る事が出來るから、自然清潔に保たれ易く、食べ物も割合に不潔になる懸念が少いのである。其他日光が充分に惠まれれば乾燥と同時に多少室の消毒上に效があるわけである。但し前にも云ふ樣に臺所の性質上直射日光は餘り好ましくない。

第五　戸棚の完全な設備

戸棚を使用する點から云つて、最も便利に作るのは勿論であるが就中通氣が充分行はるゝ樣にし、成るだけ光を採り入れて隅々まで明るくなり塵埃などの溜まらない樣に作られ、且つ清掃が容易に出來るものでなければならぬ。この

意味から戸棚は奥行の深いものは考へもので、又前面の戸は板戸よりも寧ろ硝子戸の様に容易に内部が透される様なものがよく、或は防蠅の完全に出來る程度の細目の金網戸などもよろしい。又戸棚の中は成るだけ乾燥を望む爲に、その内部を亞鉛張りか銅張りにした方がよい。若しこれが板張りであれば常に濕氣を吸引し勝ちであるために、仲々乾燥し難く、遂には腐蝕して不潔になり易いものである。また水分が滴る様なものを入れる場合は、棚に板格子を置き全體に少しく傾斜をつけて一方に流れる様にして置けばよく水が排ける。斯かる場合は板格子は時々取出して洗ひ、日光乾燥をやる必要がある。また一方に流れ集つた水は拭きとるか、又は自然に流れ落ちる方法を講ずればよい。其他戸棚は成るだけ低溫を望む關係上、下部には冷藏室を併置した方が都合よく、また戸棚の置き場所は直射日光の當らない、炊事の餘熱の影響のない處を撰びたい。

第六　調理臺の適當な高さ

一般に作業臺の高さは、從業者の身長と最も密接なる關係を有し之れが餘りに高過ぎたり低く過ぎたりする時は單に作業能率上の不利を來たすのみならず、引ひては健康障害までも招來するものである。特に臺所の調理臺の場合にはその高さが身長と不均等なる時には又物によつて負傷を受け思はざる災を招くものである。勿論適當な調理臺の高さは各人の習慣によつて多少の加減は免れないが、吾が大阪市立衛生試驗所に於て野村博士が身長の異る多數の婦人に就いて、握力計を用ひて如何なる高さに於て、最大の力を發揮するかを研究された結果は、大體次の表に示す如く身長と並行して居るのである。

身長	好適調理臺の高さ（比較のため掲ぐ）	臍の高さ
四・六―四・六尺	二・六五尺	二・六九尺
四・七―四・七	二・六六	二・七六
四・八―四・八	二・六九	二・八二
四・八―四・九	二・七三	二・八七
四・九―五・〇	二・七五	二・九四
五・〇―五・〇	二・八〇	三・〇二
五・一―五・二	二・七三	二・八六
平均		

斯くの如く一般的に見て臍の高さより稍低き方が都合よく、約一寸乃至一寸五分位下に當る。即主婦の臍の高さよりかゝる割合だけ低い調理臺を撰擇すべきである。

又若し椅子に腰を掛けて仕事をなす場合には、前と稍々異り各自の坐高（頭の頂上から尾低部までの高さ）に應じて增減するもので一般にかゝる場合は二尺三寸内外の高さが最も適當とせられて居る

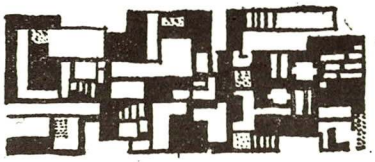
第七　器具の手入れと消毒

臺所用品の中茶碗、箸等は毎日乾燥したものを用ひる様に注意し決して濕つたまゝでは用ひてはならない。就中注意を要するものは食器などの清拭に用ひる布巾である。元來布巾はその性質上常に濕り勝ちで、しかも不潔になり易く、甚だしい場合にはその一寸平方と云ふ僅かな面積にさへ數へ切れぬ程澤山の細菌が附着して居るので、かゝるもので食器を拭いた場合は、反つて多くの細菌が附着する事になる。故に布巾を清潔に保つ事は最も必要な事である。その方法はまた至極簡單で、乾燥のみに依つてその目的を達し得らるゝ。特に日光乾燥が手輕で且つ有効である。

次に必要な問題は食器の消毒である。傳染病患者就中腸結核患者の用ひたものや、然らずとも、素性の瞭りしない來客のあつた場合用ひたものは必ず消毒を要する。食器の消毒には消毒藥を用ひる法よりも、煮沸法が最も簡單で最も確實である。煮沸する代りに蒸發熱を當てるならば更によい。尤も結核患者の用ひた食器の消毒の場合は一%の割合に炭酸曹達を入れて煮沸すると一番安全である。

序ながら一般主婦の方々に望みたい事は飲食物の様な、或る場合には家族の生命にも係はる所の最も大切な作業は、必ず主婦自身の手で行ふて貰ひたいと云ふ事である。然るに多くの家庭に於はて、かゝる重大な作業を比較的無智にして、衛生思想も貧弱な女中に一任する様であるが、それが如何に危險にして不合理であるかは、私が茲に喋々するの要のない程餘りに明瞭な事柄である。如何に忙しくとも食品の調理殊に生で食べるものや、その他副食器の調理は必ず主婦の手でなさねばならぬ。即ちそれが主婦としての最も意義のある本務であると私は信ずる。

＝五・四・一二受付＝



住宅の能率化と台所設備

日本建築協會住宅委員
增山新平

近代生活が思索の自由と理解の擴張を目標として進むため、あらゆる行動がスピード化されなければならない。然るに我國の社會生活の進歩が急速なる割合に家庭生活がとり殘された感じのするのは事實である。

これらの原因は家庭の主配者が保守的な婦人であり老人であつて舊習に囚はれることが多く、科學的に事理の決斷のつかない場合が多いためではなからうか。尙又一家の主人も餘りに家庭向きの事には無關心であり援助することが少ないためではあるまいか。

更らに又建築家の立場から云ふならばこれまで吾々は大建築にのみ力を傾到して小なる住宅建築は大工の領分として顧みず、助力を充分に與へなかつたことも一つの原因となりはしないか。

要するに日本の住宅の大部分は公平に冷靜に批評すれば歐米諸國の住宅に比して大なる損色があつて半未開國の住宅の域を脫しないと云つても反駁の餘地がないではないか、殊に臺所、浴室、便所、洗濯場等の仕事用室に至つては甚だしく非進歩狀態のまゝである。如何に外觀がよくても座敷が立派でも內部生活がみじめでは悲哀を感じないわけには行くまい。

これを劇場に譬へていへばぶんなに立派に舞臺と觀覽席が設備されても樂屋裏の設備が惡かつたならば良い芝居が打てないわけである。

樂屋裏の準備が完全であつてはじめて舞臺の活躍が自由となるものである。從つて住宅の仕事用室の整備合理化は勞力と時間の節約となり、この節約された餘裕は家庭生活向上の素因となり、一家の團欒となり、子女の教育となり夫妻の修養となつて現はれ、所謂眞の文化生活を産むわけである。

◇

從來の生産は日々の洗濯と掃除と炊事に追はれ時間の餘裕を持たないなら婦人の見聞はせまく趣味に對する理解がなく、子女教育の見識も出來ない様であるから內助の功も疑はれるではないか。

修養のない家庭は悲慘である。これに反して修養ある家庭は何事によらず餘裕があり生活がのびのびして幸福である、要するに近代の文化生活は家庭の人々が皆修養の餘裕があつて智識的にも趣味的にも向上し得る狀態に置かれてゐなければならない。

以上の目的に達するためには家庭の日々の仕事の全局に涉つてこれを如何に能率良く合理的に經濟的に衛生的に處理すべきかといふ點を解決せなければならぬ。即ち仕事のすべてに向つて順序と連絡と統制をとらなければならぬ。

住宅の仕事の內で一日も欠くべからざるもので最も勞力と時間を要するものは炊事である、從つて臺所は仕事用室の最重要な場所となるのである。

次きに掃除、洗濯であるが、これは他の機會に讓ることゝして以下臺所設備について改善の要點を略說することゝする。

◇

從來の臺所が改善されなければならぬといふことは世間一般に認められる様になつて來たから、その論議は繰返さない。然し臺所の如何なる點を改善すべきかと云ふことを吟味したいと思ふ。以下項目をあげて臺所改善の要點を列記すれば

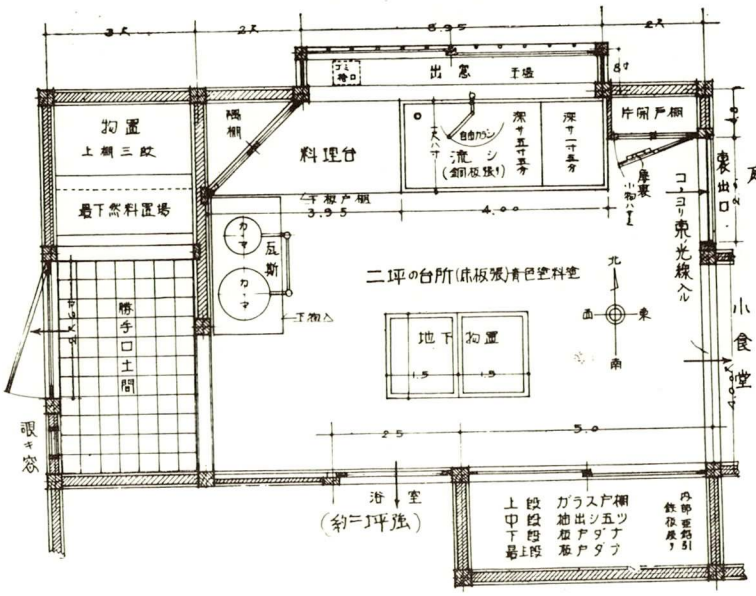
1 臺は立働式(立つて働くもの)か踞働式(しやがんで働くもの)か何れがよいか。

2 臺所は土間式(低床のもの)と床上式(座敷と同じ高さの床)と何れがよいか。

3 臺所は北向か南向か又東向か。
4 臺所の採光換氣照明は如何にすべきか。
5 臺所の給水は水栓式と汲み溜式と何れを採用すべきか。
6 臺所の流しは如何なるものが能率的なるか。
7 臺所の燃料は如何なるものが理想的であるか。
8 臺所の戸棚は如何にせば器具食料の整理がし易いか。
9 臺所の出入口は如何につければ便利であるか。

等の諸項目に解決を與へれば、これで方針が定まるのであるから設備の方策も立つわけである。

尙これらの諸項について略說せば關東地方は跼んで仕事をする臺所が多かつた、これは寒氣が強いために土間式の臺所とすることが出來なかつた爲にもよるが跼んで働くことは仕事がしにくいばかりでなく、敏捷を缺き能率が上がらない、その上床の上に食器類を置くことは非衛生的であるから是非立働式に改めなければならない。



第一圖　小住宅の臺所間取實例

◇

關西地方は土間式の臺所多く座敷から下りて履物をはいて仕事をしてゐる、立つて働く點はよいが不安定な下駄をはいて仕事をするといふことは不便でもあり活動を妨げられ、これまた能率的でないその上座敷や板間を配膳臺と心得て食器を置くので衛生の點からもよくない、設備が完全なれば水もこぼれず灰も落ちる心配はないのであるから是非床上式と改善すべきである。

燃料は點火消火の操作（コントロール）が自由に出來て經濟的なものがよい、瓦斯か石油か電熱かこの三つの內を採用すべきである。

流し、料理臺、釜臺、配膳臺、戸棚等は工場に於ける作業臺、工作臺、整理棚と同樣のものであるから高さ巾長さの寸法が科學的に考察されてゐなければならぬ、作業の能率が良いことはこれらが大いに仕事の上に關係が深いものである。

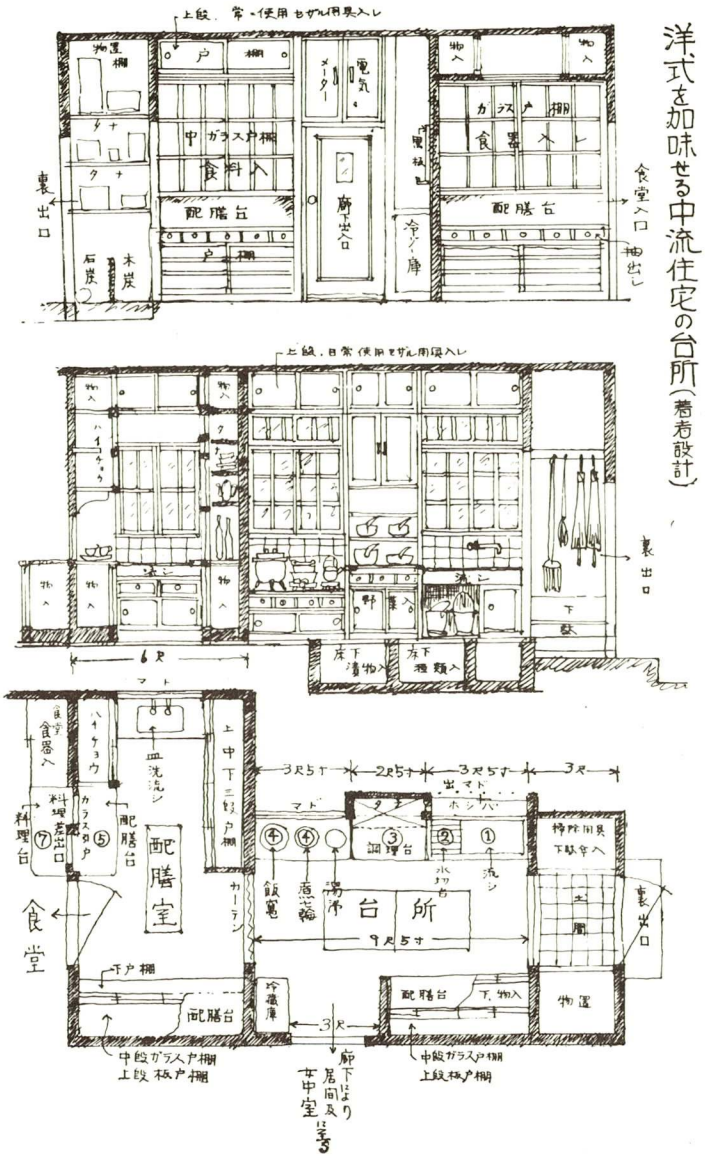
日光、採光、換氣、排氣、排水等の衛生的設備が合理的に施設されて衛生的な食物が作られ臺所に立ち働く人々が健康であることは最も肝要なことである。

以上の諸點が滿足に改善されゝば臺所は理想に近く斯樣な臺所で働く人は日々の生活が愉快であり仕事が面白くはこび一家の幸福はこゝより生れて來るのである。次に臺所の方位について云へば

◇

臺所の位置は北向がよいといふ人もあればこれと正反對な南向がよいといふ人もある、又東向が理想的であると主張する人もある、今の處西向を主張する人はない樣である。北向がよいとする人は直射の光線が當らないから食物が腐らないことゝ仕事をする上に北光線は一日中變化が少いから精密工場の採光が北光線である樣に臺所の仕事にも疲勞が少いと云ふことと且つ、又臺所は火氣を使ふ場所であるから南向の樣に强い光線は夏期堪へ難いといふ三點をあげてゐる

南向を主張する人は臺所は水を使ふ所であるから室内及び器物に日光を直射せしめて消毒することは衛生的であること、日光を受けて仕事することは健康のためにもならない。然し實際の場合になると臺所を南にすることは敷地や間取の關係上出來ない場合が多いので北向の臺所が實際には一番多い現狀である。



第二圖　洋式を加味せる中流住宅の臺所

洋式を加味せる中流住宅の台所（着者設計）

臺所の位置は居間や食堂の如き主要な室を犧牲にせず家全體の間取の輕重統一を亂さぬ程度に最も好適な位置を撰ばなければならぬ。

臺所の廣さは家庭の人數やその必要のことであるといつてゐる。臺所の仕事は毎日可成りの時間をこの室に費すのであるから臺所に働く人々の健康問題も考へなけれ

次ぎに東向か東北隅か西北隅にすれば北向のよい所も南向のよい所も取入れるわけになるから先づ無難の位置といつて宜しい、臺所家の事情によつて一概に言ふことは出來ないが住宅の大さにほゞ比例するものである。

臺所は諸設備が完備して居つてその配列が能率的に出來て居れば歩行の距離を少くする上にも狹い方が宜しい、設備が不能率的であるならば廣くともその効果を上げ得ないものである。

◇

建坪十五坪以下の住宅の臺所ならば一坪乃至一坪半とすべきである。

建坪二十五坪以下の住宅の臺所は二坪乃至二坪半位が適當である。

建坪五十坪以下の住宅の臺所は三坪乃至四坪。

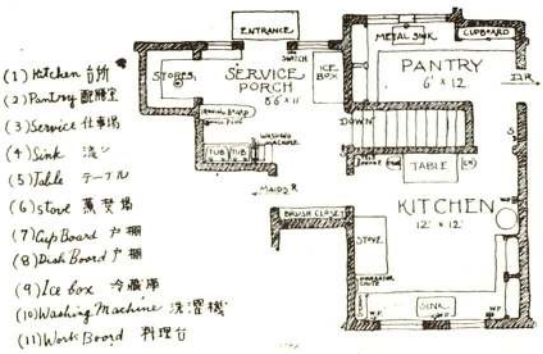
建坪七十五坪以下の住宅の臺所は四坪乃至五坪が必要であらう。

建坪がそれ以上增加しても臺所の面積は餘り增加を要せぬものである、又臺所は建物が如何に小であつても一坪より小さいものを造ては使用に堪へないものである。臺所の廣い狹いといふ事は臺所の立ち働きに適當であるかどうかといふ事に歸着するもので臺所關係諸室との間取の關係や設備の善惡によつて立働きに便不便が左右されるものである。

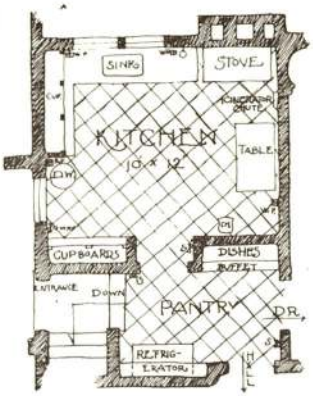
臺所と關係の深い部屋は配膳室

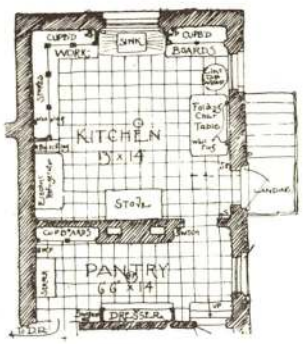
食堂(又は茶の間)浴室、女中室、居間等である。食堂へは料理差出口を設けても臺所から出入出來る樣にしなければならぬ、配膳室がある場合は配膳室を中繼として食

第三圖　米國に於ける臺所設備配置圖



堂に連絡すべきものである。浴室とは浴室の焚口を臺所土間に設ける場合が多く浴室の湯の加減を見たり、洗濯所のないときは浴室を洗濯場として使用するためにも連絡が必要である。女中室とは隣室





1 食堂への出入口
2 浴室への出入口
3 勝手口(外部との出入口)
4 女中室 } この二つは直接出入出來ないときは廊下によつて連絡すればよい。
5 居間

關係になつてゐれば便利である。居間とは廊下によつて連絡してもよい、それであるから各室に至るべき出入口を必要とする。これらの出入口を次ぎに擧ぐれば

臺所には斯くの如く出入口を多く必要とするから臺所の壁面即ち設備し得べき場所が著しく減少さるものである、この少なき壁面を工夫して臺所の設備をなすものであるから苦心を要するのである。臺所を單獨に考へると往々この出入口を忘れて計畫するから甘く配列した設備も實際の適用が困難になることが多い。

◇

臺所の位置廣さ各室との連絡を前項に述べたのであるから臺所の住宅に於ける間取上の關係がやゝ明かになつたわけである。更らに臺所を中心として考へて見たい。

臺所は使用人及び主婦の仕事場であり事務所とも考へらるゝ所であるから、この室に費さるゝ時間この室を使用する回數は他の何れの室よりも多いと見なさなければならぬ。この事は臺所への出入が便利であることを要求する。女中室から臺所へ來ることは勿論主婦室からも都合よくなつてゐなければならぬ。この室から食堂へは更らに密接の關係を保たなければならぬ上にこの室から表玄關へ出るにも餘り遠廻りにならぬ工夫を要する。勝手口は使用人の出入口であり商人の出入や物品の受け入れのことを考へて置かねばならぬ、又電氣瓦斯のメーターも勝手口附近にあつて檢査人が室内に上らずに濟めば相互に都合がよい。

臺所は仕事用室の中心であつて洗濯所、浴室及び焚口、物干場、ボイラー室、倉庫貯藏室との關係がよく出來て居なければならぬ、この意味に於て臺所は仕事用室の要衝となるものである、要するに仕事用室は臺所をセンターとして立案すべきである。

臺所が仕事室の中心となる樣に間取されたならば、次ぎに臺所の設備又は器具が合理的に製作されたものでなければならぬことゝ、その配列は作業能率の順序に配列しなければならぬ。器具設備の製作は項を改めて細說することにしこゝには設備品目と配列について述べたい。これは臺所の大小、附屬室の有無によつて異なるが臺所用器具設備を出來るだけ多く上げれば次の如くである。

1 洗ひ場 流し)これは上流しと下流しの二つある場合は上流しは

食器を洗ひ下流しは土が附いてゐる野菜などを洗ふのである、臺所流し、配膳室流し　掃除用流し、洗濯用流しなどゝ區別するものは大邸宅に限られる。

2 給水給湯裝置
3 料理臺(切臺)
4 煮焚場(竈、釜、瓦斯、電熱等)
5 板戸棚、硝子戸棚、網戸棚、釣棚、物入
6 配膳臺、料理差出口、乾燥臺
7 抽出、米入、貯藏庫、冷藏庫
8 廢捨裝置、排氣裝置



第四圖　米國エヂソン會社に於ける臺所であつて、あらゆる設備に電氣を利用してゐる、(1)電熱料理器(2)電氣皿洗ひ(3)パン粉擂(4)電氣冷藏機(5)戸扒(6)料理臺等であつて小器具は凡て手の届く範圍に釣下げてゐる

9 各種メーター、寒暖計、計量器、黒板帳簿棚

等であつて、この內洗ひ場、料理臺、煮焚場、戸棚等は主要設備である。(1)洗ふ、(2)切る、(3)煮る、(4)置く、(5)運ぶの順が初めの順路であつて、(1)下げる、(2)洗ふ、(3)拭く、(4)乾す、(5)整理するの順に終るのである。この順路が亂れてゐると歩行の損失を來すのである。

設備の配列は仕事の順序に據るべきであつて器物の寸法に囚はれて配列の順序を誤つてはならぬ次項より各種設備について說明する。

◇

およそ仕事をするに、その仕事に對して適當な姿勢と合理的な作業臺の高さがあるべきであつて、この問題は仕事の能率に大關係を持つて來るのである。

臺所の仕事は屈んで働くのと立つて働くのでは、立つて働く方がよいことは一般に承認されてゐることである。立つて働く時にその作業臺(臺所では流し、料理臺、煮焚用釜等)の高さが何程あるとき仕事が一番しよいかといふことを考へなければならぬ。これは作業者の身長にも關係あることであるが、日本の婦人の平均身長は四尺八寸乃至五尺二寸位とみて五尺內外が平均數である、身長の二分の一の高さは二尺六寸となるが身長の二分の一の高さではやゝ高すぎて力が充分に這入り憎いと言はれてゐる。

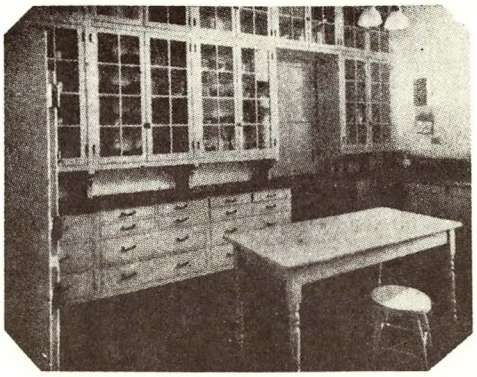
日本では普通のテーブルの高さは二尺五寸位のものが多い男子には二尺五寸の高さは先づ適當とせられて居る。婦人は男子より一般に身長が低いから二尺五寸以下にその適當の高さを求めなければならぬ、二尺三寸に造つた臺で仕事をした人々の經驗談によると低すぎるとの評である、これらを綜合して考へると臺所の作業臺の高さは二尺四寸が適當の高さであると考へられる。この標準を科學的に決定するには各種の高さの作業臺を設けて多數の實驗を行ひ疲勞測定器の結果を求めなければならぬ難問題である。筆者が二尺四寸を以て標準高さとせることは經驗に基礎を置いたものであるから根據が薄弱であるが、その差は僅少であらう、この二尺四寸の高さの面を女子の作業面として各作業臺を作つて仕事をすれば能率が擧ると考へたのである。アメリカでは二尺六七寸の高さを標準としてゐる樣であるが我が國では高過ぎると云はれてゐる。

◇

臺所の洗ひ場は關東では流しと言ひ關西では走りと言つてゐる。東京地方では臺所の床の一部を一段下げて板張りやコンクリート造りの洗ひ場を作つてかゞんで食料器食を洗つてゐる。大阪地方で木製臺付の立流しを作つて立つて仕事をしてゐる、その構造は共に不完全であつて水沫は飛散し器物は洗ひ惡く臺所の仕事のみじめさを見せてゐる。

かゞんで洗ふのと立つて洗ふのでは立つて洗ふ方が樂でもあり仕

事の能率もよいわけである。然らば立つて洗ふ場合如何なる流しがよいかと云ふに、流しの高さ即ち流しの上端の高さが二尺四寸の作業面としその巾は最小一尺五寸最大二尺の範圍とすべきであつて一尺七八寸が最も適當な巾である。長さは最小二尺五寸漸次大なるものは、三尺、三尺五寸　四尺と大きくなる、これらは普通に用ひらるゝ寸法であつて、それ以上は特別な場合に屬する。その深さは高さと共に水沫の飛散するか否かに關係を持つ大切なことであつて筆者の多くの實驗によると五寸の深さが最良であつて水沫が流しの外に飛ぶことがないから作業者は前掛をぬらすことがない。



第五圖　造付の戸棚、抽出配膳臺

出來合の流しの深さは二寸五分三寸、三寸五分、四寸位であるから水沫飛散は免かれぬ。

尙流しの前板は前方に三十度內外の傾斜があれば仕事する人の身體に接觸する面が少くなるから仕事が樂になる。

流しの深さは五寸であるから底面の高さは一尺九寸となるわけである。流しの下は外國では清潔を保つために開け放しておくのが普通である、このことは同感である。然し狹い臺所は利用して野菜置場バケツ置場とするのも止むを得ない事ながら床は足爪先が這入る様に明けて置き、その上は作業者が流しに接近したとき邪魔にならぬ程度に棚を設くべきである。

外國では流しへそのまゝ水を溜めて物を洗ふために眞中で二つに仕切つたものもあるが、我國では桶かバケツかに水を入れて洗ふ習慣であるからその必要を認めない。

流しの左右又は一方に洗つたものの水を切るために流しの方へ勾配のある淺い溝のつけた流し板をつけると便利である、又組板で切るとき水が出たり汁が出たりするものを切る場合にも、この流し板の上で切ると洗ひ去るに都合がよい。流しの給水給湯の水栓は流し底面より一尺二寸位の高さにしなければならぬ、これはバケツや桶に水を入れるためである、水栓は水道なれば二分の一吋管、タンクなれば三吋管が適當である。

◇

排水は流しの底面を傾斜せしめ排水口は徑一吋半又は二吋あれば充分である。その口元にスプーンや箸が落ち込まない様に網か金の簀蓋を取付ける必要がある。

流しは窓面に向つてゐた方がよい、流しの窓面の腰は一尺內外立ち上げてタイルを張つて水沫を受け止める様にしたければならぬ、一尺內外の立ち上りから水平に一尺二寸位の出窓があれば物を乾す臺となつて便利である、又出窓のある場合、出窓の中央部に棚を二段位造ると洗つた器物を一時のせて乾して置くのに甚だ便利である。

流しの材料は木製なれば自由の寸法に出來るし、これに銅板（十三オンス厚）亞鉛引鐵板（二十八番、二十六番）を張れば器物のためにも良い、コンクリート製でモルタル塗り、タイル張りのものは腐らない點はよいが器物のためには危ぶない氣がする。陶器製、鐵製エナメル仕上等の外國製品は價が高價なばかりでなく寸法も我が習慣に合致し難いものである。

料理臺は窓面又は右光線を受ける壁面に置かれる場合と臺所の中央に置かれる場合とがある、小面積の臺所は前者となし廣い臺所は何れでも設備出來るものである。

中央に置く場合は四方又は二方から使用することが出來るから便利であると言はれてゐる、然しこの場合は料理臺の周圍に手頃な餘地のある場合であつて餘地の少いときは却つて通路の邪魔となるものである。

料理臺の高さは二尺四寸の作業面とし天板の厚さは一寸以上として反らない板を使用しなければならぬ、臺所の床が水洗出來ない場合はこの上で足のない組を使用する方便利である、組を使用しない

で料理臺をじかに俎板に使用する場合は天板を一寸五分、二寸、二寸五分位の厚さにする必要がある尙ほ俎板上面を洗ひ去ることも考へておかなければならぬ。

◇

料理臺の大さは巾最少二尺から最大四尺まで、長さ最小二尺五寸から五尺位までであつて壁付の場合は巾二尺以下としなければならね、巾がそれ以上に廣くなつても奥に手が屆かぬからである。料理臺の天板の下には抽出しをつけると便利である、抽出しの下も物入として利用して差支ない、但し作業者が臺に接近し易い構造とすることを忘れてはならぬ、料理臺の側面に庖丁掛を作ることも便利である。

料理差出口、食堂は配膳室がある場合はこれと接し、配膳室がない場合は臺所に接するものである、いづれの場合も出入口を設けて料理や食器の持ち運びをするのであるが、その外に壁面の一ケ所に料理差出口を設け、ここから料理を出入する場合がある、差出口の大さは高さ一尺五寸内外長さは小なるものは一尺五寸、大なるものは四尺位あり、床上二尺四五寸の處に置かる、二尺四五寸の所には内外に臺を設け配膳臺とするのである、内外の仕切はカーテン又は兩引戸、片引戸が普通である、カーテンよりも不透明ガラス戸の方がすべての點に宜しい、臺は内外同一の高さとし巾は内外共一尺五寸から二尺位までが便利である、臺の下は食器又は食料入れとすれば更らに便利である。

臺所が日本在來の如くであれば物を置くに床に直ちに置いて氣に留めない習慣である、食器食料がたとへ盆や器物に入れてあるからといつて床上に置くことは衛生上は勿論氣持の點から云つて良い習慣ではない。

臺所が立ち働く式に改造されたならば仕事の能率の點より考へても床には物を置けない、臺かテーブルを設けてこれに置かねばならぬ、即ち配膳臺である。配膳臺は配膳室がある場合は主にこれに設けらるるのであるが臺所にも又必要である。戸棚の項に說明せる如く下戸棚の上が配膳臺となり、料理臺も配膳臺に使用せられ料理差出口も配膳臺に使用されるのである。

◇

臺所がいつもキチンと整理されてゐることは衛生上にも仕事の能率の上にも極めて肝要のことで一家の經濟の上にも子女の教育のためにも必要のことである。

臺所を秩序整然としておくには棚、戸棚、抽出等の設備が良くなつてゐなければならぬ。

戸のない棚に頻繁に使用する器具をのせるか乾かしてしまふまで一時のせるために使へば便利である。それからこの棚は流し又は切臺の近くに手の屆く手頃の所に一二ヶ設くべきであつて高い所に棚を釣るとのせにくいばかりでなくこの所がほこりの溜り場となり掃除も又しにくいものであり、又これと反對に床に近い低い所に釣ると器具が汚れるばかりでなく食器類が床に接近することは氣持がよくないものである。

抽出は二尺五寸以下の高さに設けなければならぬ、それ以上になると抽き出すに不便である、抽出の深さは入れる物にもよるが一般に淺い方がよい、二寸五分から三寸迄が普通である、抽出が深いと入れた物が重なりあつて面白くない抽出に入れる品物は小さな形のものを入れるのが目的である。ホーク、ナイフ、スプーン、箸又は袋に入れた乾物類は抽出に入れておくと出し入れに最も都合がよい。

戸棚は板戸、硝子戸、金網戸、等を欲められる。板戸棚は二尺四寸以下の低い所に設けるか手の屆かぬ所から天井まで達する所に設ける場合に適當である。低い所の板戸棚は大形な器物野菜等を入れ置くに便利であつて手の屆かぬ所に設ける場合は正月用器具か儀式用器具又は日常餘り使用せぬ物品を入れ置くのである。

◇

硝子戸棚は二尺四寸以上手の屆く範圍に設けらるべきであつて主に陶磁器や硝子器の食器、調理した食料を入れて置くのに便利である。二尺四寸以下の板戸棚は其の奥行二尺五寸あれば充分であり、その上を配膳臺及び仕事臺に利用すれば甚だ便利である、この臺の上一尺五寸位あけて、その上から

硝子戸棚を設けることは外國の臺所戸棚の一般に行はるる所であつて、我が國でも是非斯様な戸棚にしたいものである。硝子戸棚の奥行は一尺三寸から一尺五寸位あればよい。

戸棚の中の棚板の釣り方は戸の後二三寸はなして釣るさ物の出し入れに都合がよい。板の間隔が七八寸のものと一尺二寸位のものさにすれば大抵の器物は這入るものである。

戸棚の巾が四尺以上の場合は引違戸が場所をとらないでよい、又四尺以下の場合は兩開戸片開戸とすれば出し入れに便利である、片開戸を板戸にすると、その裏面を利用して小形の調味川や罐切や栓抜の様なものを差込んだり掛けたりすることが出來る。

金網を張つたものは窓に近い所か出窓の一部に設けられ蠅帳として使用さるゝものである。瓶に入れた醤油、酢、味淋等は釜の近くに設けた露出の棚の方が便利である。フライパンの様な道具は釜の近くの壁面に掛ける様にすれば整理がつくものである。

以上は極めて斷片的ではあるが臺所の設備がその仕事の上に如何に影響するかといふ點を一通り述べたつもりである。小なる住宅の臺所でも、安普請の住宅の臺所でも、その設備が仕事本位に考へて造られたものならば能率がよいわけである

能率のよい臺所は家庭を明くし**健康**にし**聰明**にするといつても過言ではないと思はれる、これからの住宅は外觀や裝飾を工夫する前に先づ家庭日常の仕事を如何に能率よく處理するかといふ點に注意を拂つて計劃を立てなければ眞の**現代住宅**としての價値が少いのである。

〔五・四・一六受付〕



住宅放言

大谷木廣

ア、醉つたゝゝゝ、いゝ心持だ、どうしたつて丹前で、清水燒の薄手の猪口で、一杯とこなきやア、酒を飲んだ様な氣がしねえ。

アノ宴會で四合瓶のレツテルのはげた奴を、白い服を着たおじさんが、グラスの中へだまつて置き注ぎした酒だア、味が達ふぜ、ねえ。

ドウデエ、此青疊の香ひ、此紙障子の柔か味、テヘ、捨てられねえナア。

『何……家を造るんだ、ト フムてめえ中々抜け目がねえナ、今いゝ時期だ、ヤレヤレ、材料も手間賃も安くなつた、又所謂失業救濟の一助ともなるさ、ワハヽヽヽ、いゝ心掛けだ、御教示に預りてえ、ウムハヽヽよしじやチヨツピリ能書きを聞かせてやらア。

先づ住宅の**第一要件**はゆつたりして居る事だ、ノンビリしている事だ、船のキヤビン見てえに、コセコセ天井迄押入れなんかつけたり、二人入ればおけつが大當りで働けない様な、オモチヤの臺所なんか大反對だ。

疊と洋間は二重生活だ、ナンテ吐す奴があるが、おめえ家に歸つて洋服を着ちやア居めえ、外で活動するのは洋服だが、休息するナア、どうしても和服さ、丹前さくだけりや猶安樂だ。

シミジミ家へ歸つたナ、てえ氣のするなア洋服を脫いだ時じやアあるめえか、つまり洋服は仕事着さ和服は常衣さ、決して二重生活じアねえ、

だから**居間**は日本室でいゝが**客間**は洋室にしろ、十疊以上にしろよ、家具を入れると狹くなるよスマートな服を着て安座かゝされて見ろ、樣あねえ、

日本室の客間は二間にとつて十疊次が八疊か六疊で連續して使用される様にして置けば、おやじの謠の會や子供達の歌留多會に便利だ

廊下、縁側、階段は巾一米以上

の事だ、

ソウソウ椽側は不用だなんて馬鹿な事を曰つた錢無しがあつたが日本には入用なんだよ、

春の日曜日の朝一杯に日光を受けた椽側を明け放して、疊の上に寢そべつた氣分は日本人でなけりやア、分らねえよ、

へ……日本室位又融通のきく代ものはねえや、ねえ書は居間さ、食事をする時きや、茶舞臺を出して食堂さ、夜になつて蒲團を敷けば、即ち寢室よ、なア、長火鉢なんて、乙なもんじや、ねえじやねえか……、その事、その事

各室共物の置く場所を考へて置け其長火鉢、又簞笥、鏡臺、金庫等さ　き客間を十疊以上の洋間にしろ、と曰つたが、實際洋間は家具がかさばるから三米突平方の四疊半大の室なんか、動きがつかねえ、が、

そこへ行くと日本室は四疊半といふと粋な大きさになる、隱居さんにもつて來いさ、又寢室として充分に二人で使用出來る、

何！獨立性がねえ、馬鹿云ふな一々錠を下す樣な水臭い西洋式はいけねえ、又屛風といふ重寶な道具があるぜ、西洋カブレをしねえで少し古人の跡を尋ねろ、

まア間取なんかは十人十色で、生活狀態で違ふが、要するにのんびりした設計をしろといふ事を繰返して置く、

次に**材料**だがね、木造に限るよ住宅に鐵筋コンクリートは駄目だよ尤も金持で暖房の設備なんか充分に出來るのは別だよ、中流住宅とすれば目下坪當り金一百三十圓乃至二百五十圓位だらう

近頃面白れえ話がある、東京で不合理派建築家てえのが、鐵筋コンクリートの少せえ家を設計して田園都市へ建てたんだ、

處がさ、おめえ、床は地盤から五寸位の高さでコンクリート打だから濕氣で耐らねえ、

又陸屋根で天井が低いから（多分節約の結果とは思ふが）夏になりや暑くつてトタン葺と同樣さ、壁も一重だろうじやねえか、西日でうだつちまう、

コンクリートは熱に感じねえと思つてるからおめでてえや、おまけに室内は壁乾眞白と來た、電燈は燭光が少なくて濟むだろうが、病院の樣で味なんて藥にしたくもねえ、

内部だか、外部だかの感じも出てねえ、又窓は硝子の一重さ、椽側も何もねえ、全く不合理な話さ己らア、あんな家じや寢つかれねえ、郊外ときちア物騷だからなア、ト……

傍道へそれて濟まなかつた、

そこで其**木材**は船來は止せよ、毛唐人と同じでヤにのんびり、丈ばかり高く育つてやがるから、伸縮がひどくつて、いくら乾燥しても駄目さ、よくかれた時分にあアヒビ、ワレだらけで使へやアしねえ、己らア寄木の下張に米松の時板をつかつて往生したよ、

又ラワンのフロアリングを椽側へつかつた處が四吋巾だつたが、實が切れて下が見えるにやア寧ろあきれたね、

又木柵も安くて見てくれはいゝがカサカサし、いくら手入れしても日本檜の樣な光澤は出ねえぜ柱は眞持でもいゝから日本ものにしろ、又節なんか氣にするなよ、木にやア枝があるんだからな、

節があるなア當りめえじやねえか、節はいやだなんて悟られねえ事を云ふなよ、己らア檜の生節、あの鰹節の樣な赤味の色、こてえられねえ、

ソリヤア拔け節はいけねえさ拔けてる、手を拔くナンテ建築には禁物だア

尤も己れのいふ事にも澤山拔けてる事だらけだが夫れは頭の毛も拔けてるんだから、勘辨しねえ。

（終り）

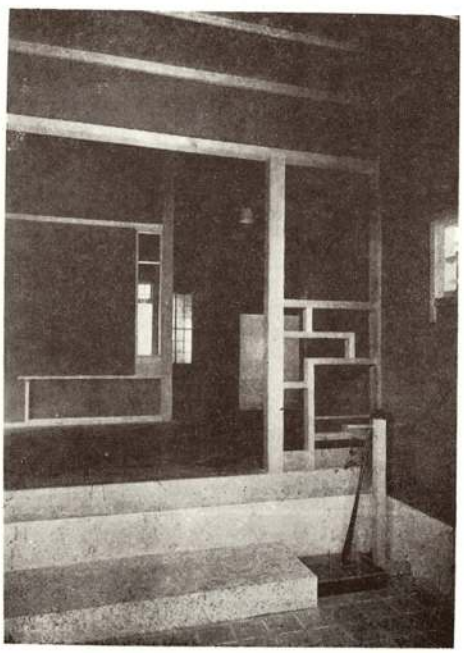
‖五・四・二一受付‖



獨乙フランクフルト公設市場
エルゼーセル教授設計

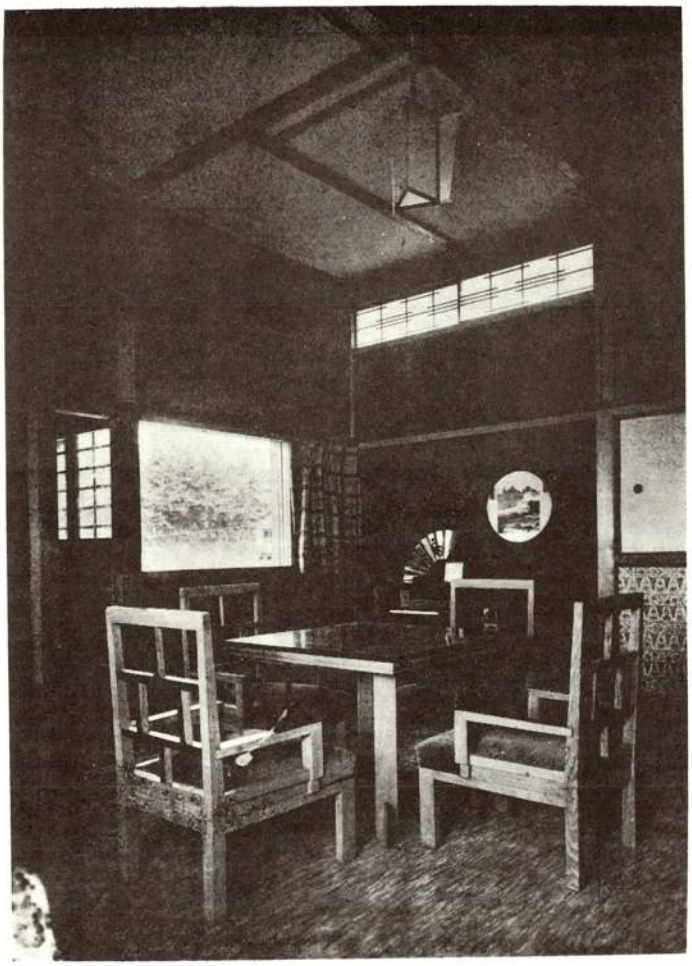






阪急沿線夙川・富士岡氏邸　上・正面外觀　左・玄關　右・玄關ホール　設計者　富士岡重一氏





左・客室(1)　　右・客室(2)

我が家

富士岡重一

風致としては北に、東に西に、松林があつて北は甲山の甲陽園、東は松林丘、西に夙川堤を隔てゝ六甲峰を眺める事が出來る、此眺めを取り入るゝ爲めに階上の客室には西にピクチュアーウキンドーをとつて大なる硝子面として此の大景をば客の御覽に供する仕掛にしたが、甲陽或は苦樂園通ひの威勢の良い自動車の疾走する砂煙濛々たるものを眺める事も出來る。

◇

間取りは主要なる常住の室、その內でも小兒室は東南にとり食堂——これは家人集合の場所とし——居室書齋凡て南に面せしめた、廊下の部分の至つて些少なる、コムパクトな平面を考

◇

場所は西宮市の北端で、西宮市の一角がみさきの様に奥深く阪急線路を北に越えて突き出したる一劃、地勢は苦樂園丘の東麓、大きく云へば六甲山の山勢東へ下つて將に攝津平野と會せんとする所、大阪より阪急線を西すれば淀川平野將に盡きんとして山迫らんとすると云ふ所にある。

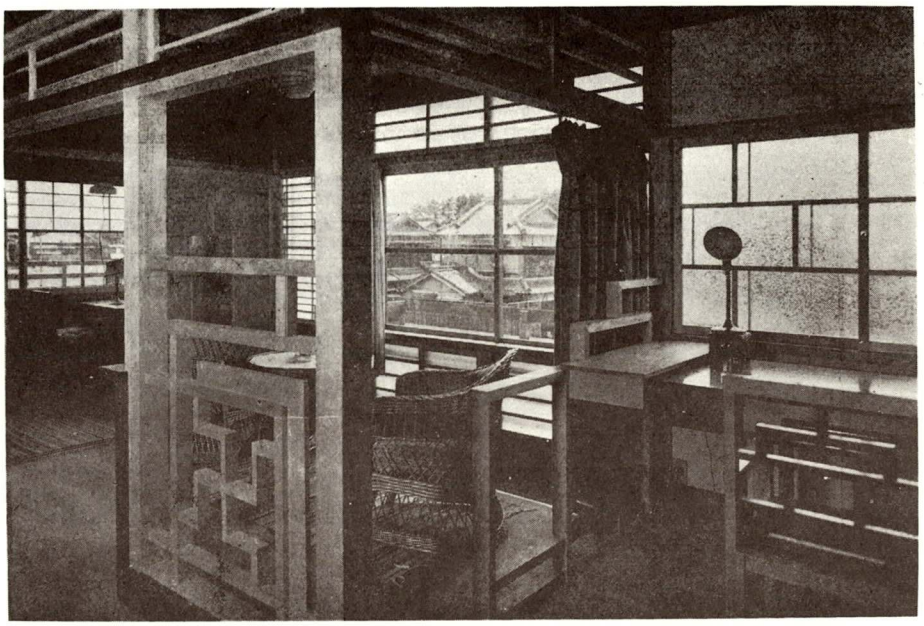
◇

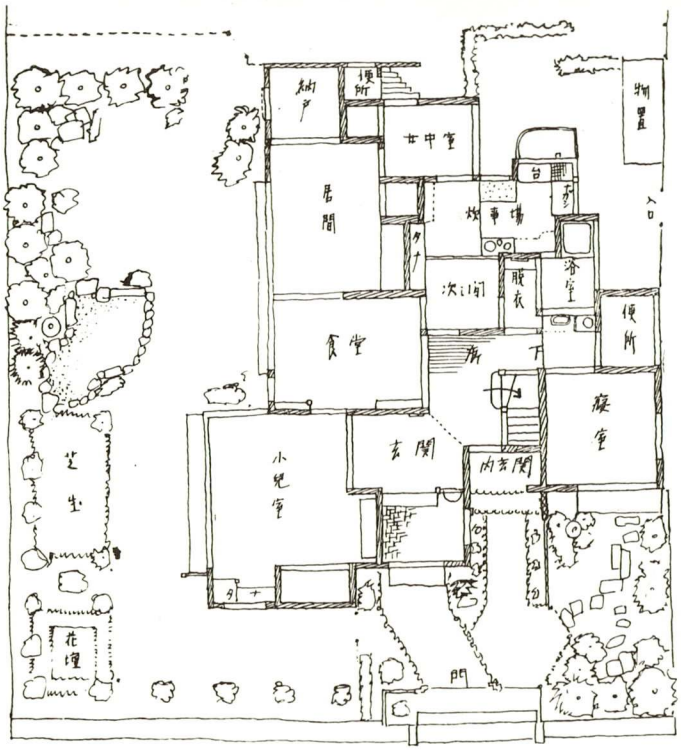
西宮市であるからには先づは立派なる水道もあつて給水設備も完全し、芦屋富豪地帶の水枯れ騒ぎの時にも平然として此地は水量の豊かなるを誇り、又瓦斯は神戸瓦斯會社が此の所まで足を延ばして居る、電氣は阪神電車と云ふ事になる。

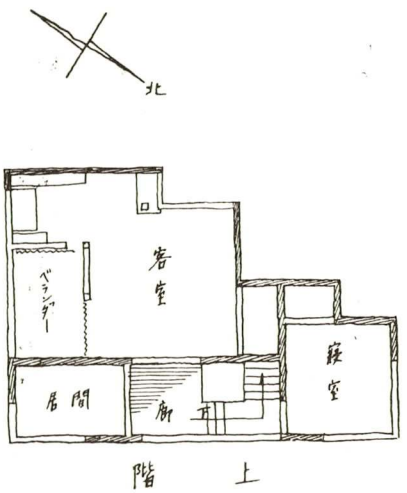
◇

設計者　富士岡重一氏

阪急沿線夙川・富士岡氏邸







へたと云ふだけの事。

一つ手前味噌を云はしてもらうなら二階客室を椅子式の部屋として天井を高くしたい爲めに此室の中心で方形屋根として四方に葺き下ろしたる事、それだけ。

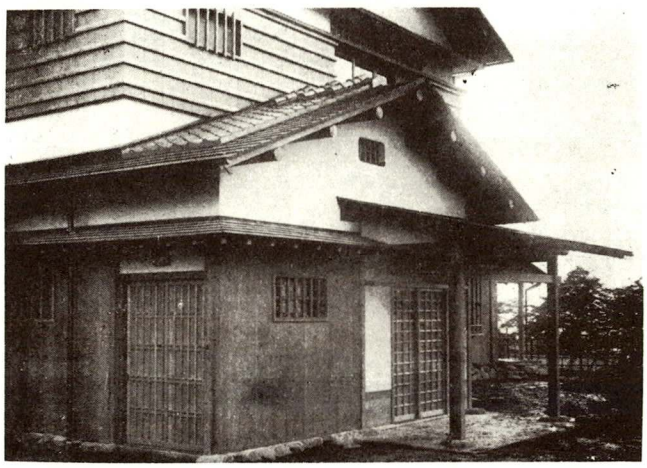
◇

借家に永年住つて居るのも損として借家似寄の御覽の體のもの、我が家」として連續して記載されて來た驅尾に附するにしてもお粗末至極のもので、いかにしけん建てたと云ふ事を發見されて編輯子より一日不意に寫眞隊をさしむけられ、遂に斯くは玉石混淆となつたる次第である。

阪急沿線夙川・富士岡氏邸　上・書齋及ベランダー　下・第一階及第二階平面圖　**設計者　富士岡重一氏**







京阪沿線香里　I氏邸　上・表門より玄關を望む　中・西南隅より客間、茶の間を望む　下・玄關　設計者 安井武雄氏

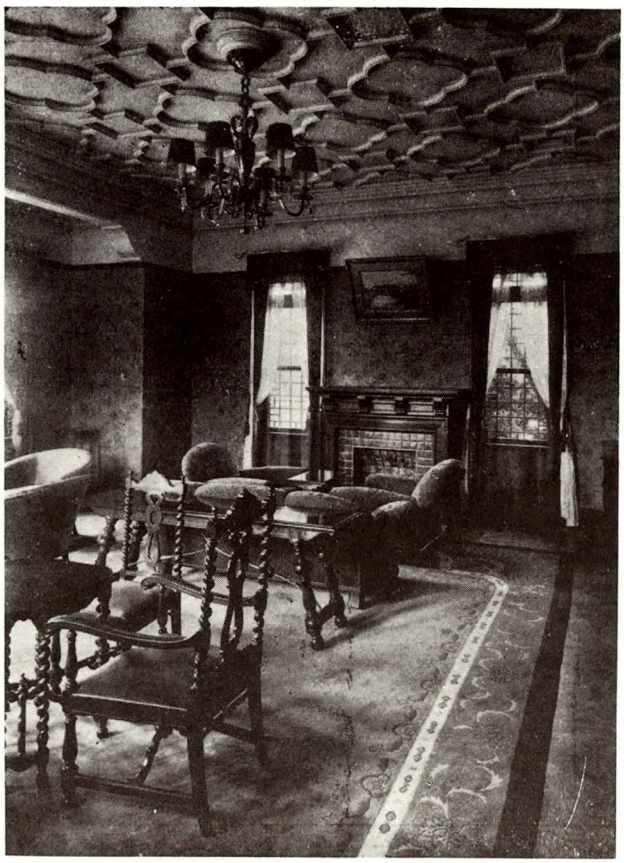


1



2

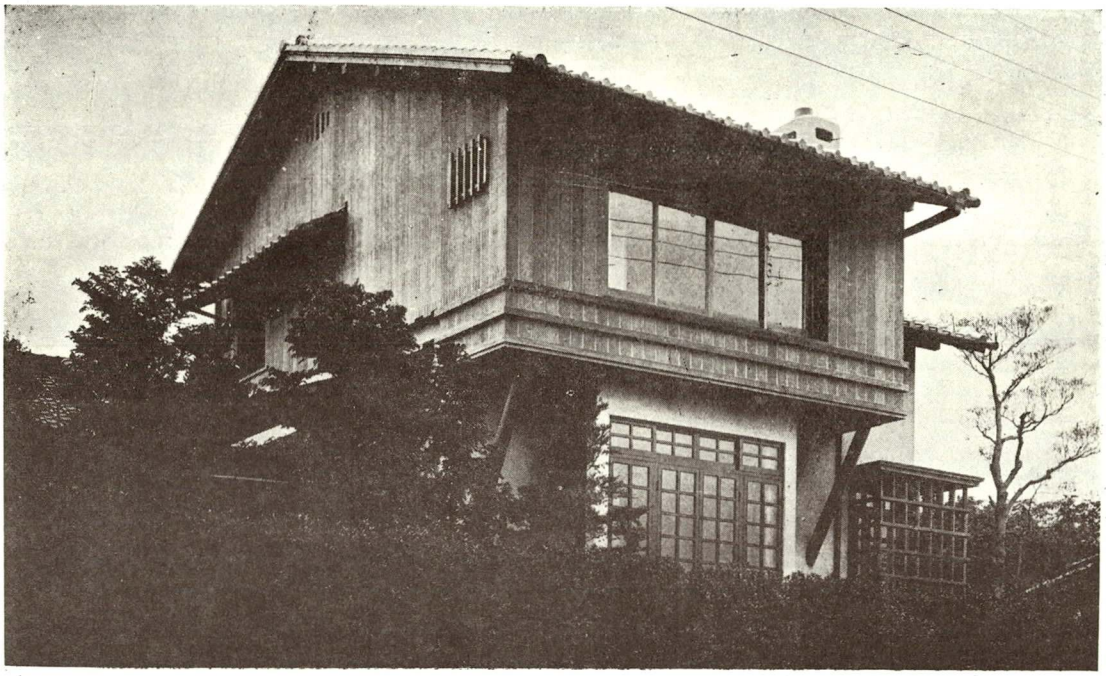
3



4

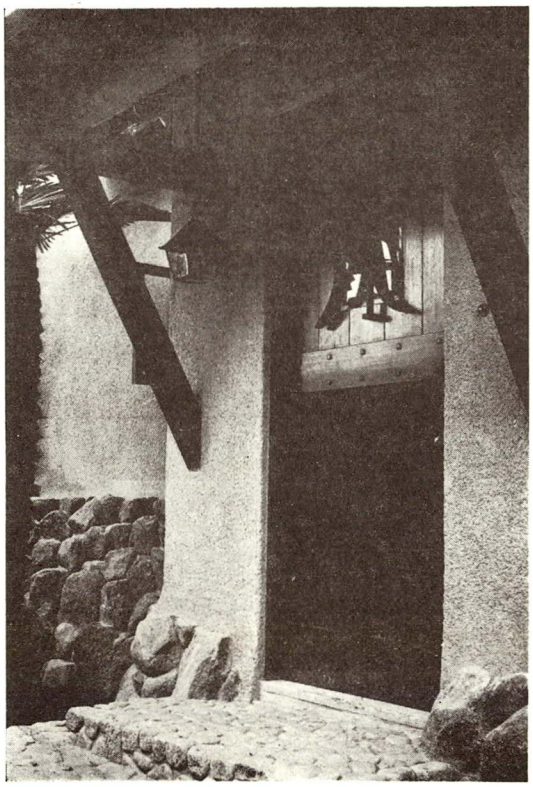


阪急沿線芦屋・伊藤氏邸　1 ホール　2 書齋　3 應接室　4 外觀　設計者　竹中工務店設計部



1

2

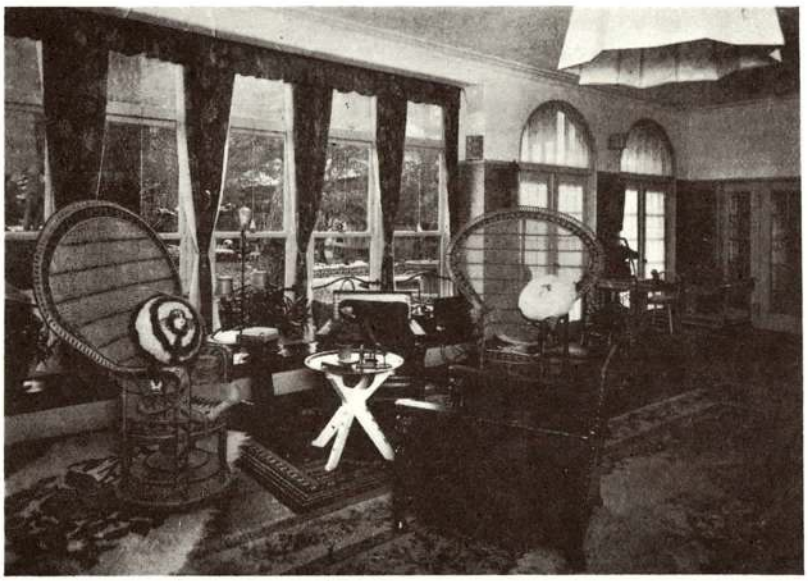


3



阪神沿線御影・K氏邸　　1 南面外觀　　2 玄　關　　3 客　間　　設計者　安井武雄氏





上・外觀と居間前庭の噴水
下・居　間

K氏邸

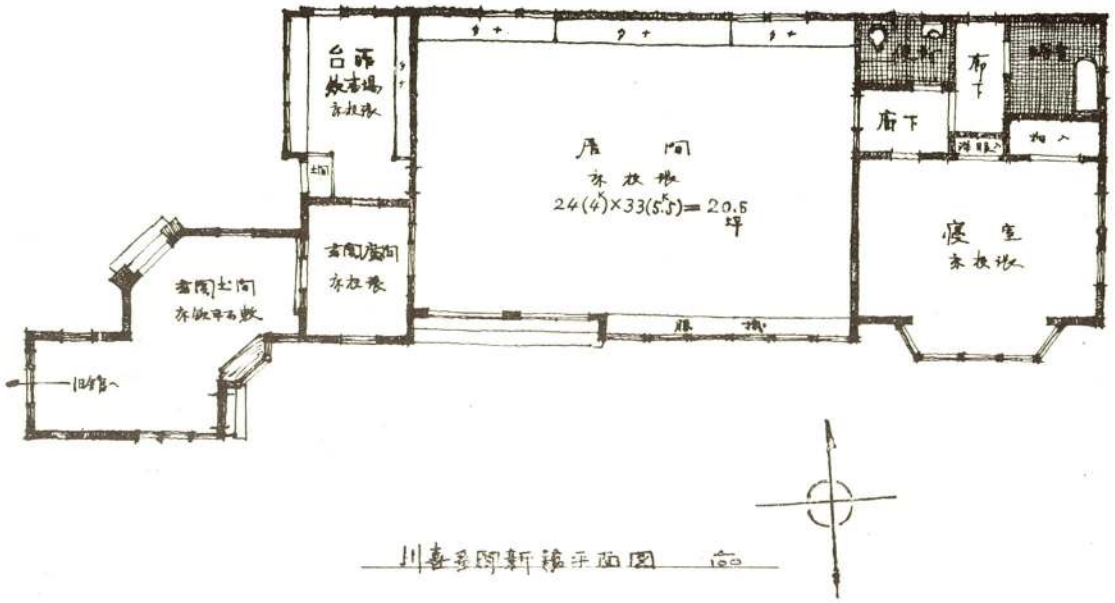
大林組住宅部

家は手狭くとも其間數丈けは多分に取り度いと云ふ事をお自慢とする、日本在來の間取の行き方が、果して今日吾々の生活により住よい住宅であるかどうか。夫れは寧ろ間數は少くとも悠つたりとした、そしてくつろいだ室を氣のまゝに伸々しく使ふ事が、却つて實際生活の要諦ではあるまいか、といつた様な所を間取に於ける發足點として建てられたのが此家である。

◇

つまりワンルームシ

三重縣津市・川喜田氏邸　　設計者　大林組住宅部



川喜多邸新築平面圖



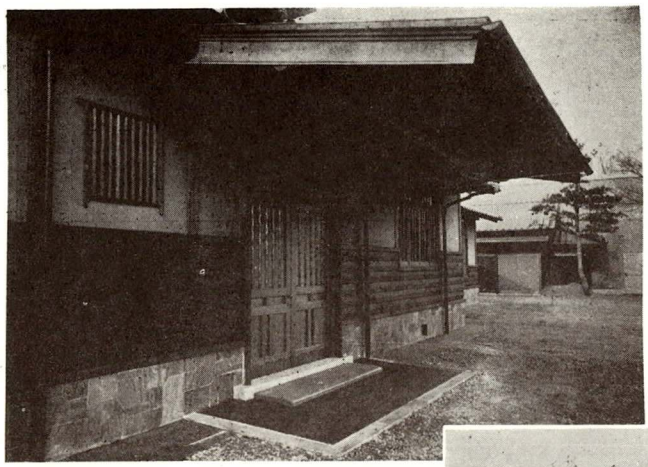
上・平面圖　　下・居　間

ステムとも云つた様な試みである、プランにある如く一室二十坪半と云ふやうな全建物の大部分の面積を割愛して取込まれた大きな室が、家族の居間であり食堂であり、書齋であり、又應接間ともなり時としては客間ともなると云ふ譯である。

◇

斯様な間取の行方が強ち理想的だとも云へまいし、便利で使勝手のいい反面には又イクラか欠點も見出さるゝのであらうが、然しそこに在來の間取僻にあまりに染まり切つた領域から脫した其動機と實際生活の方面には頗るうがつた面白味の閃きがありはすまいか。

三重縣津市・川喜田氏邸　　設計者　大林組住宅部

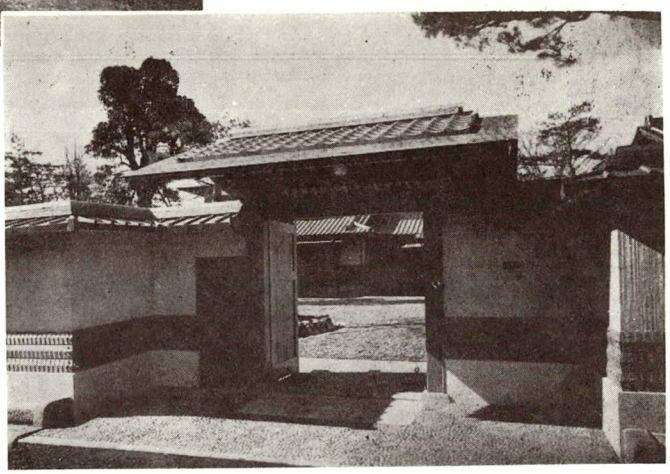


玄關外部

玄關は庇を本屋より突き下ろしに軒出約一丈となし化粧垂は吹寄せ、桁は研杉丸太とし柱なし屋根裏にて拮木(栗材)にて釣込み風雪の害を堪へるに充分ならしめたり。

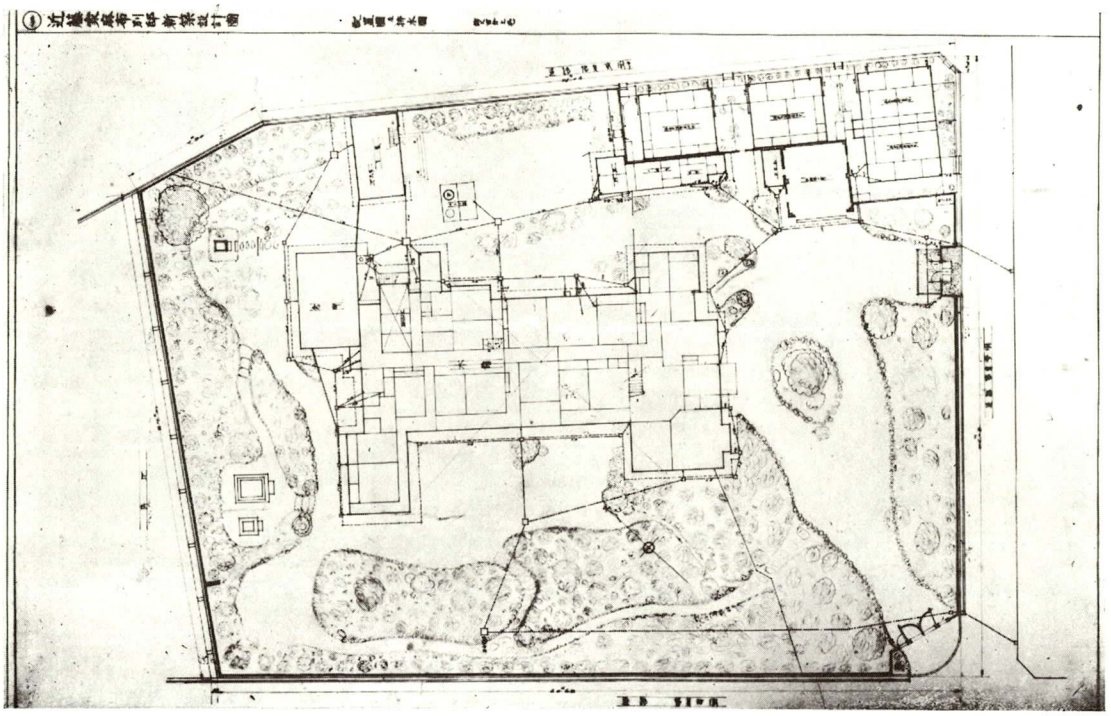
敷土間は那智黒洗い出とし敷石は鐵平石水研き仕上げ一枚にて納む。

自動車が軒下に寄せ付け昇降の際風雨に差支なからしむる樣柱を用ひざるなり。



通用門

通用門は幾分瀟洒なる調子となし出入商人等一般の通用にあて敷土間は玉川栗石を洗出しに仕上げ、羽目板繼手には化粧木釘を鋲型にあらわせり。



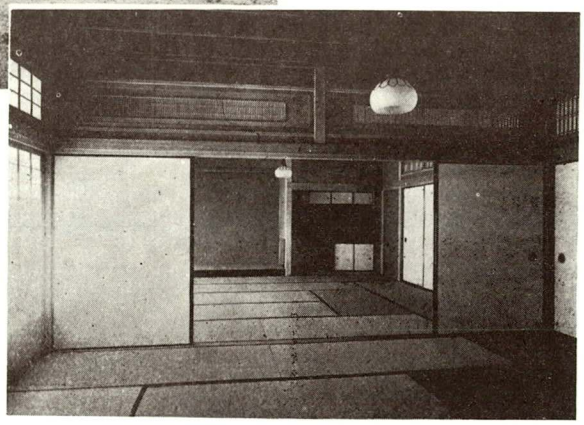
東京麻布・近藤男爵邸　　上・玄關外部　　中・通用門　　下・配置圖　　設計者　澁谷



外觀は京都趣味を基調とし腰は「ナグリ」を張りて「アゼクラ」式を利用し張石は鐵平石と「フエースドブリツク」を交ぜ張りとなせり。

壁は京都聚樂土母屋は杉研丸太鼻銅板被せとし破風を用ひず研丸太棰形にて納め洋室外廻及玄關等の硝子戸は木製框に眞鍮製銀イブシ▲形格子を縦に組み付け正二分研き面取磨を嵌め内部より木製半圓形格子にて押へたり、屋根妻風窓は研き小丸太にて竪格組に仕上ぐ、屋根勾配は四寸五分とし止むを得ざる箇所の他は切妻となせり。

主要木材は臺檜証材一切となせり。(正面外觀)

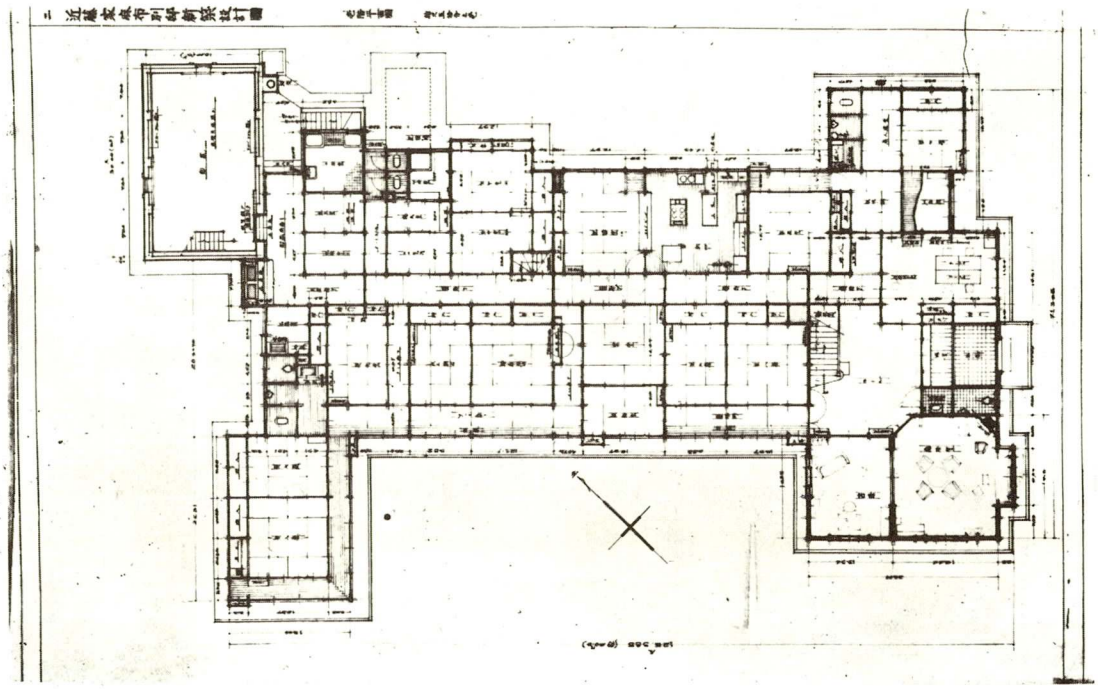


客　間

二階客間は上十二疊半書院付にして床は一間半違棚は茶人の最も好みとする玉椿奎板を使用し從來の形式をやゝ破りて幾分輕快を期せり。

南側に入側、北側に中廊下巾一間を隔てゝ佛間及家族參列の室を設けたり。

此の客間床の裏に長四疊の略式茶室をもうけ兼て來客の招待等の場合の「サービス」に便にせり。



東京市麻布・近藤男爵邸　　上・正面外觀　　中・客　間　　下・第一階平面圖　　設計者　澁谷五郎氏

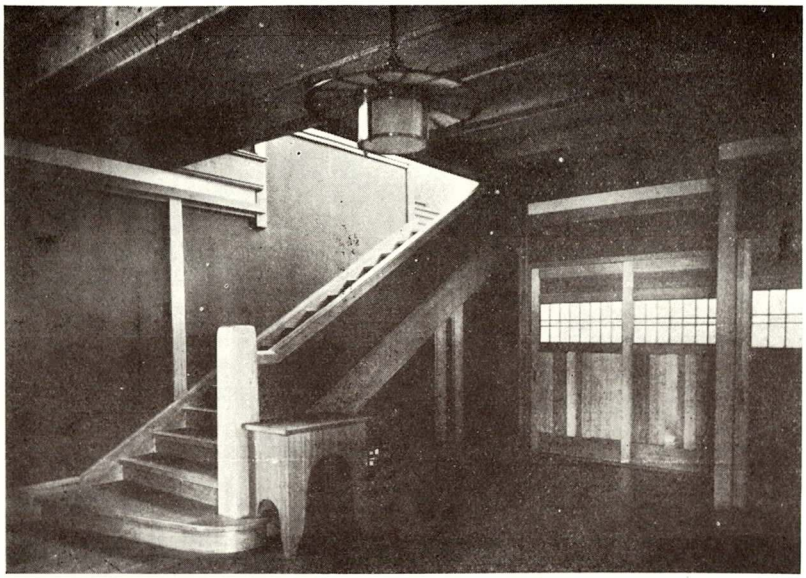
ホール

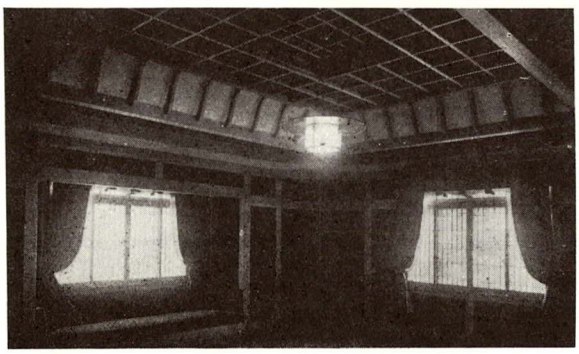
「ホール」は日本趣味を基調とせる洋式となし建具には硝子の代りに美濃紙張り小障子を嵌めすべて引戸となせり。

天井は見出梁り「ナグリ」に仕上げ淡澁色「テルミトール」塗りとし羽目は「ソーダスト」入「ペイント」吹き付けとなせり。

壁は金砂入り荒目淡褐色の布張りとし「パイペン」打ちに仕上げ電燈は中央に唯一個丈け特種に考案せる金燈籠型となせり。

床は寄木を用ひず單なる臺檜榑板張となせり。

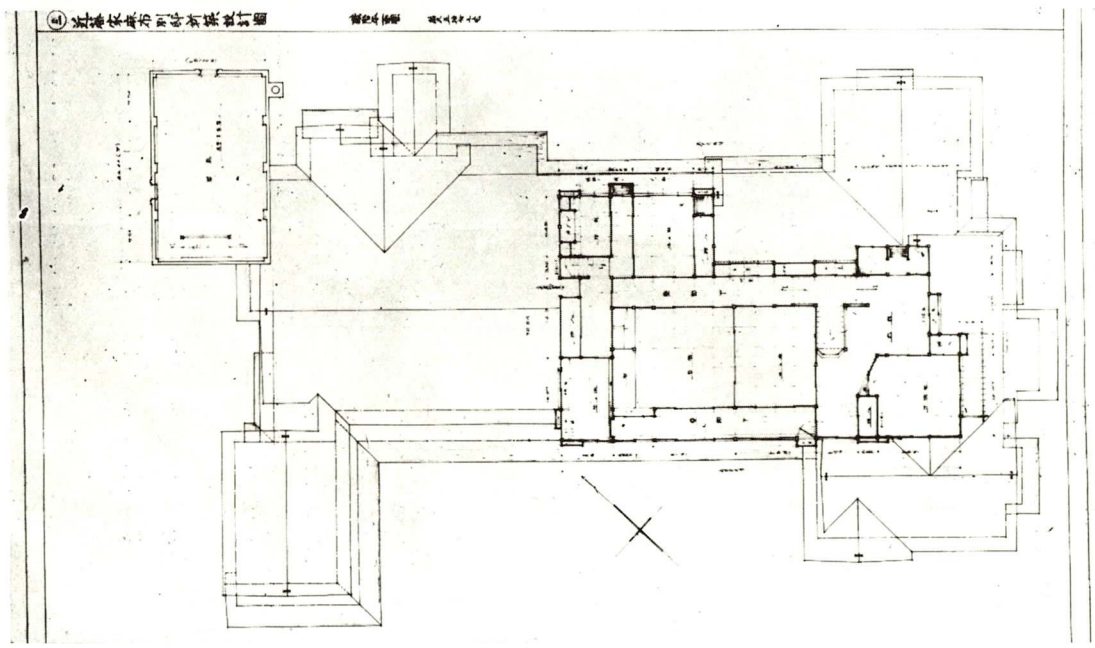




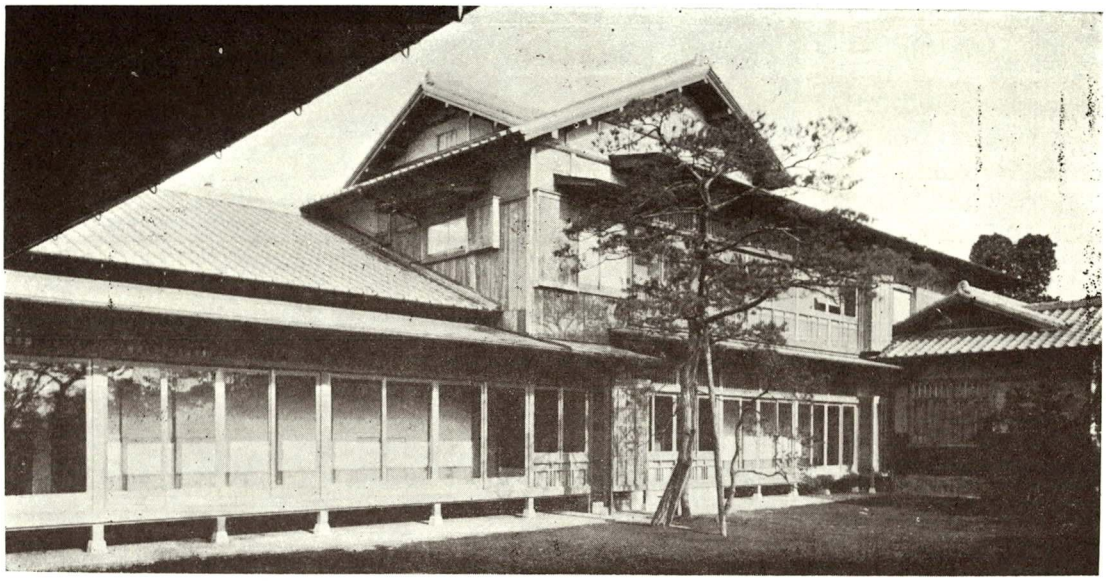
應接室

應接室は日本趣味を基調とし床は榑板張り、壁はピロード色「ベーロアー」張りに仕上げ「パイペン」打ちとし窓は外側に硝子戸内部には障子薄絹二重張（杢目をあらわす爲め）とし夏期は必要に應じ防虫障子を建込む様になし「カーテン」は几張風に造り薄綾を「シボリ」釣りになし其の内側に「レース」及曇張を架けたり。

天井は折上格天井とし格間は「ベーロアー」張り支輪間及長押上蟻壁は淡黄色「ペイント」「ソーダスト」吹付仕上となせり。



東京麻布・近藤男爵邸　　上・ホール　　中・應接室　　下・第二階平面圖　　設計者　澁谷五郎氏



南面外觀

近藤男爵家麻布別邸建築概要

設計者　澁谷五郎
現場主任　伴仲信次

位置　東京市麻布區屋尾町十八
敷地　一、三六六坪七五
高燥にして樹木に富む
建物坪數
本館＝地下室七坪一四
一階　一七八坪七
二階　五六坪三
アテイツク　六坪二
本藏＝三階建延四五坪（鐵筋コンクリート造内部ホロブリッ張）
下藏＝二階建延二一坪四（木骨鐵網コンクリート造）
自動車庫＝平家建一三坪强（鐵筋コンクリート外部木造）
小使室及供待＝平家建一〇坪七五
井戸屋型＝三坪六六
附屬執事舍宅＝四戸總延坪五二坪五八

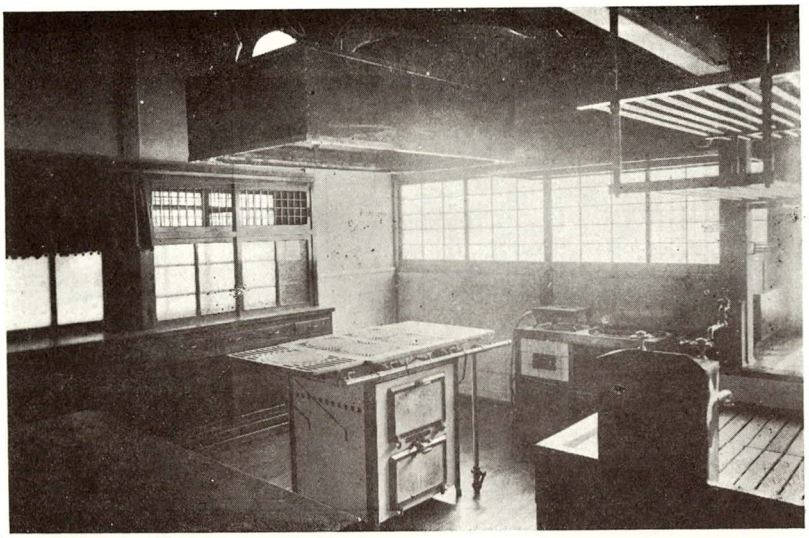
工事期間
昭和三年十月一日着手
昭和五年二月五日竣工

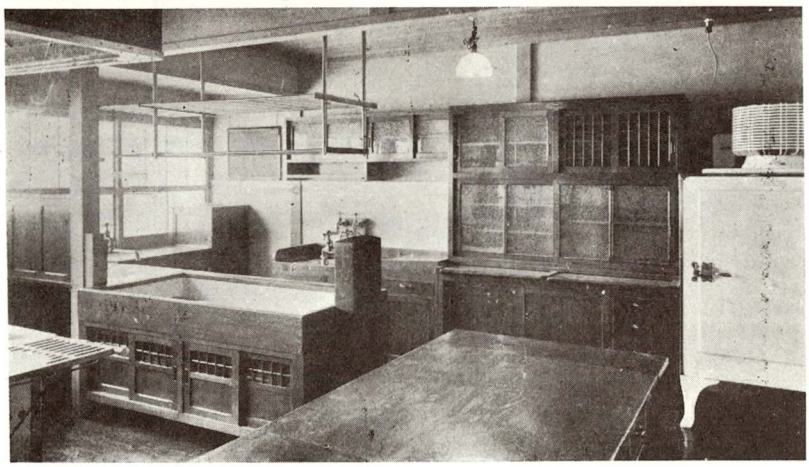
主旨
プランを出來るだけ簡單實用的に取り複雜なる上流生活を自然と簡易化せしむるを主眼とし外交用、家族用、下婢使用人用の三大別を鮮明に分離し而も之れを連絡するに無用の面積を存せざる樣又各部の隔別觀を失せざる樣に工夫せり又家相宅相等の干渉をも甘受したる爲め平面は極め形の上に平凡を呈せるも外觀屋根水取に於て充分變化を造り得たる爲め非常に自然的なる姿を得たり。

冬季何れの室にも炭火を用ひざることになし電熱と温水暖房を並用し書生室女中室も皆「ラジエーター」を設け之れを隔棚風に外裝せ

東京麻布・近藤男爵邸

設計者　澁谷五郎氏





上 臺所(1)　下・臺所(2)

臺所は板張りとし各種の設備を完全にして冷藏器は「ケルビネーター」を用ひたり出入商人等は一切室内に入り來らしめず格子窓より物品を入れしめ又注文をなすに便なる様に工夫したり

肉類の煮燒の臭氣を拔く爲め臭氣拔を「レンジ」の上部に設けたり、廣さは約十五疊。

隣室に配膳爺女中「サービス」に用ふる室を疊數(十疊)になし女中の食事室にも用ふ。

配達室より中疊廊下を隔てゝ食堂へ給仕に通ひ得る様にし臺所等の騷雜が聞へざる様工夫せり。

り。

各便所は何れも水洗式とし手洗場には常時給湯栓より温水を採り得る様になせり特に上便所内には電熱「プラック」を開き冬季の防寒に資せり。

土藏内には多くの貴重品骨董品を保管するが故に濕度と温度に注意し雨季等には室内の乾燥をなさしむる爲め「アゾソール」乾燥機を用ひて調節し得る様になしたり。

室内通話はなるべく「インターホーン」(室内電話)により簡單に用を辨ずる様になし又非常警報器を三ケ所に設置し各室に挿釦を設け必要に應じ急を報ずる様になせり。

給水は市水道に故障ある場合には井戸水を自動式により供給し得る様にし日常使用及消火用に供せしむ。

本館以外に自動車庫、供待、小使室を設け此等の背後に執事等の舍宅を設けたり邸内に社殿(太神宮、稻荷社)等をもうけなほ茶席を設くる豫定なるも庭の趣向未だ確定せざる爲め目下考案中なり以下主要各室の一部分を寫眞圖によりて紹介することゝせり。

設計者　澁谷五郎氏

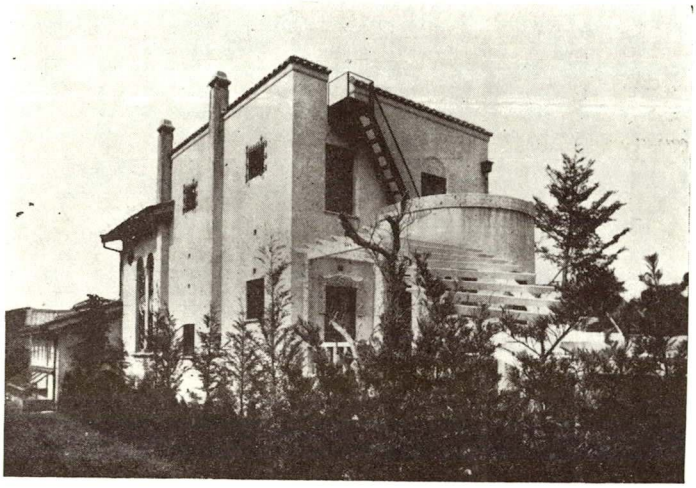
東京麻布・近藤男爵邸



上・第一階客室



中　外　　觀



下・南側外觀

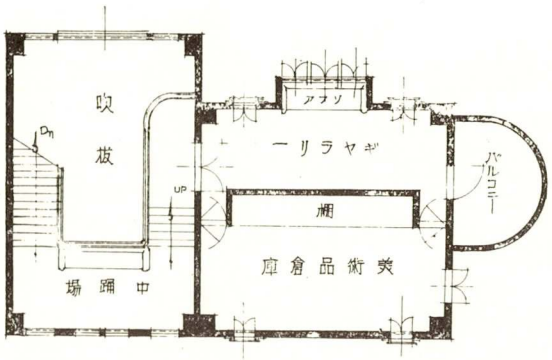
阪神沿線・K氏邸

設計者　橫田彦左衛門氏

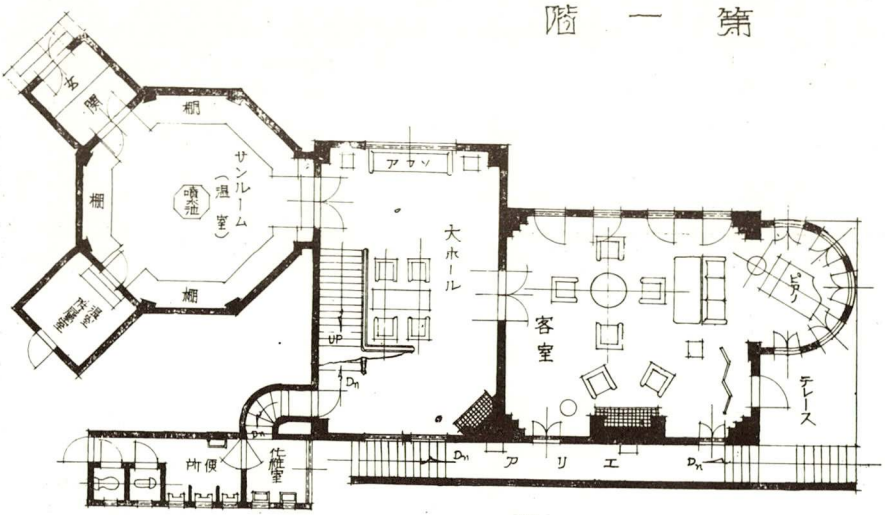
K氏別邸增築工事概況

一、場　所　兵庫縣武庫郡住吉村
一、建築様式　「モダーンスパニッシュ」鐵筋混凝土、地階付き、二階建
一、各室配置
第一階　玄關、サンルーム、ホール、客室、化粧室、便所
第二階　ギャラリー（バルコニー付き）美術品收藏庫
地　階　大食堂兼娯樂室、ホール、炊事場、小食堂
一、建築面積
第一階　五〇、〇七坪
第二階　二〇、一九坪
地　階　四一、四四坪
一、工　程
着手　昭和四年二月
完成　昭和五年二月
一、建物高さ
軒高　二十二尺
棟高　三十尺五寸
一、設計者　横田彦左衛門
一、强度計算　三浦尙史
一、施工者　横田工務店

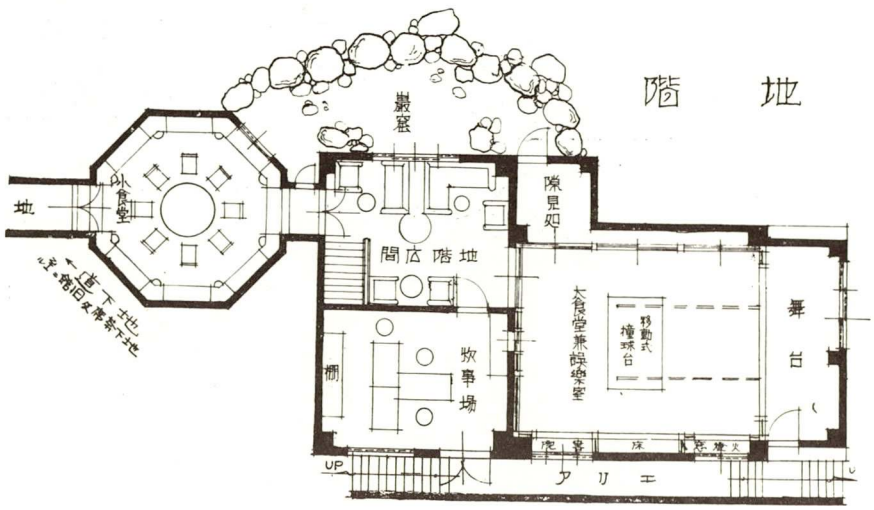
第二階



第一階

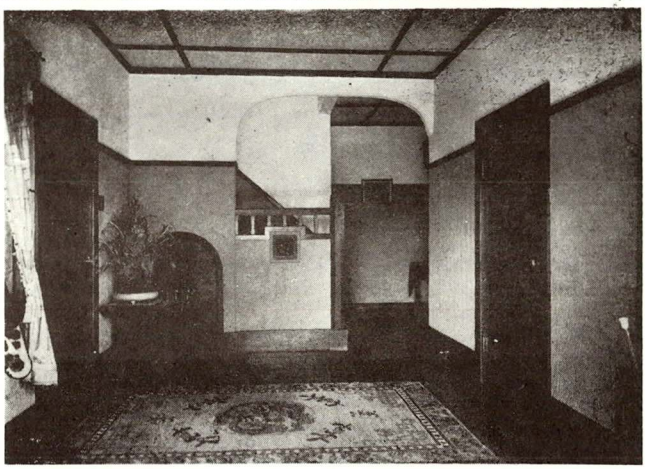


地階





上・外　　觀



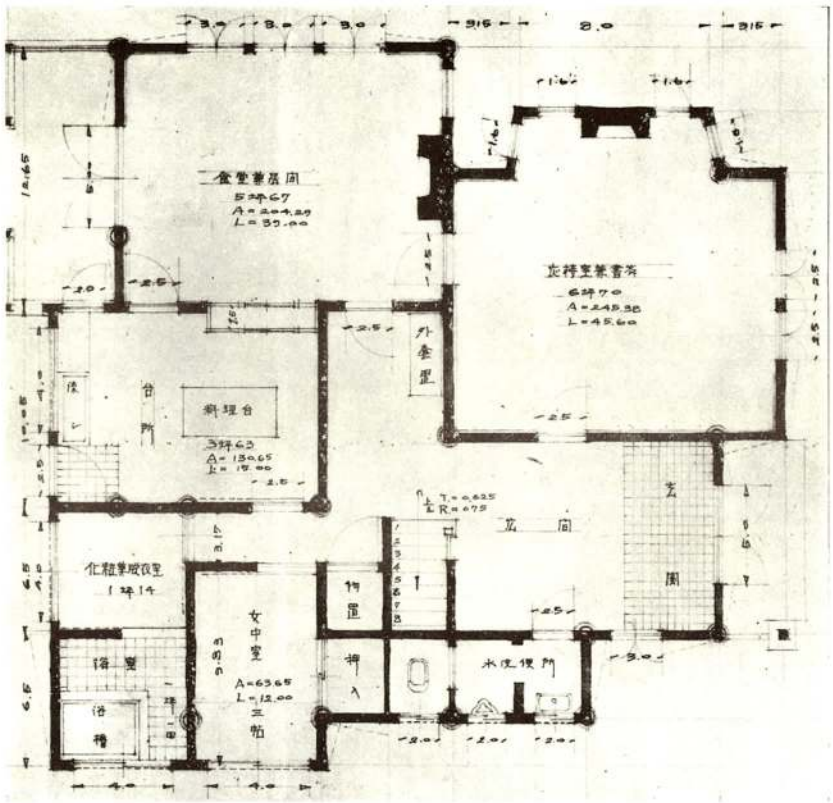
中・玄關ホール

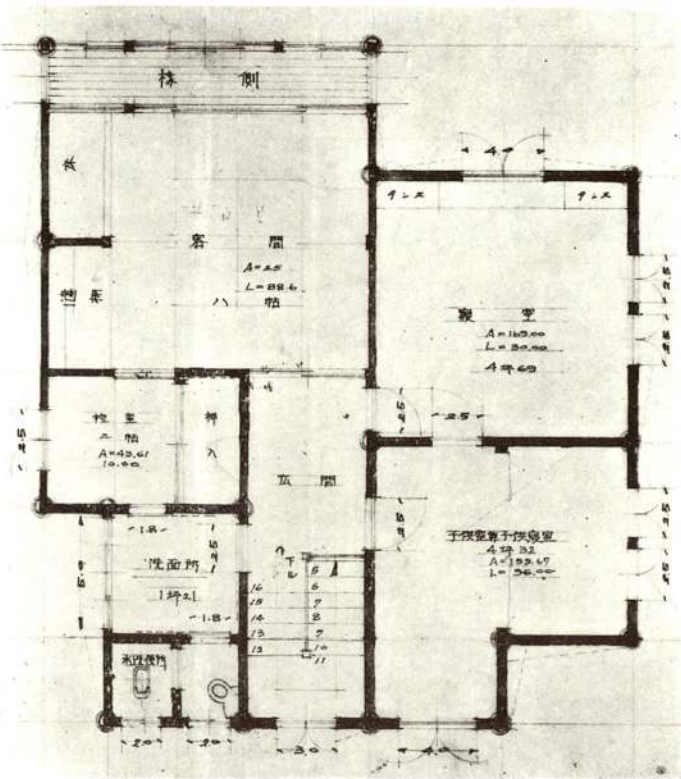


下・食　　堂

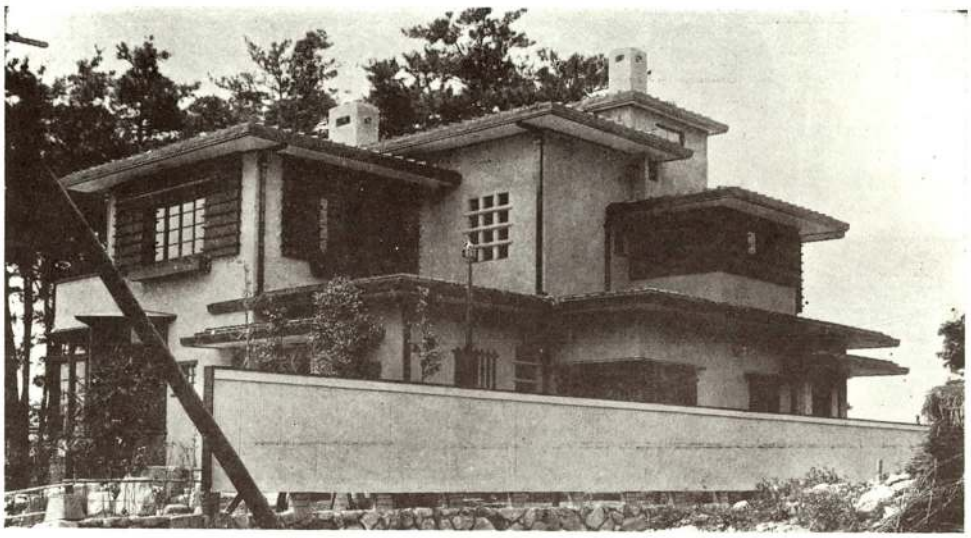
神戸市・大高氏邸

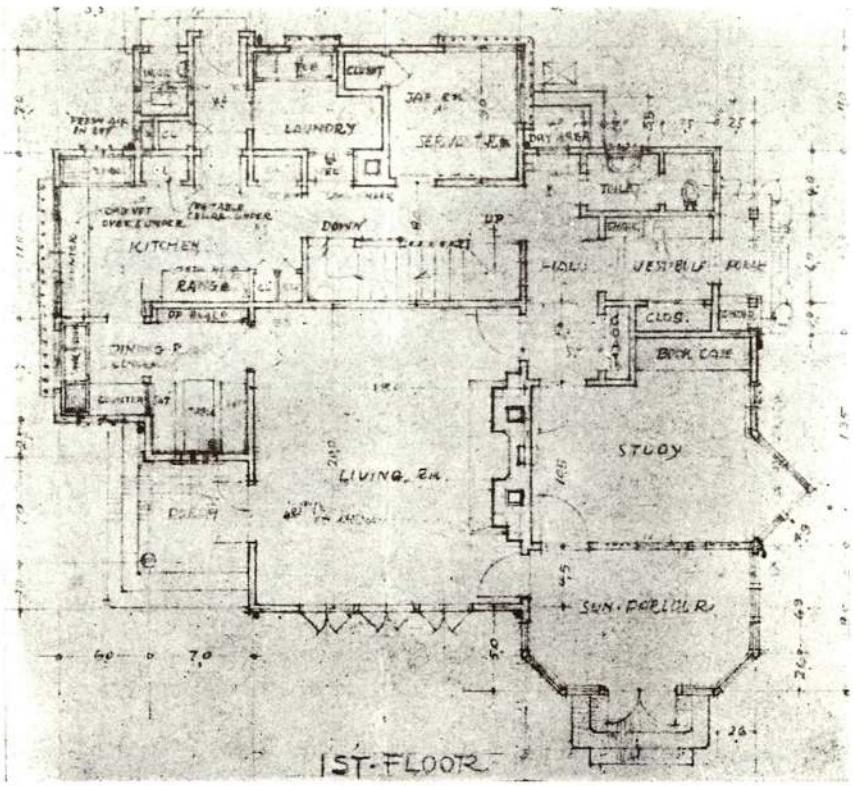
設計者　置塩　章氏





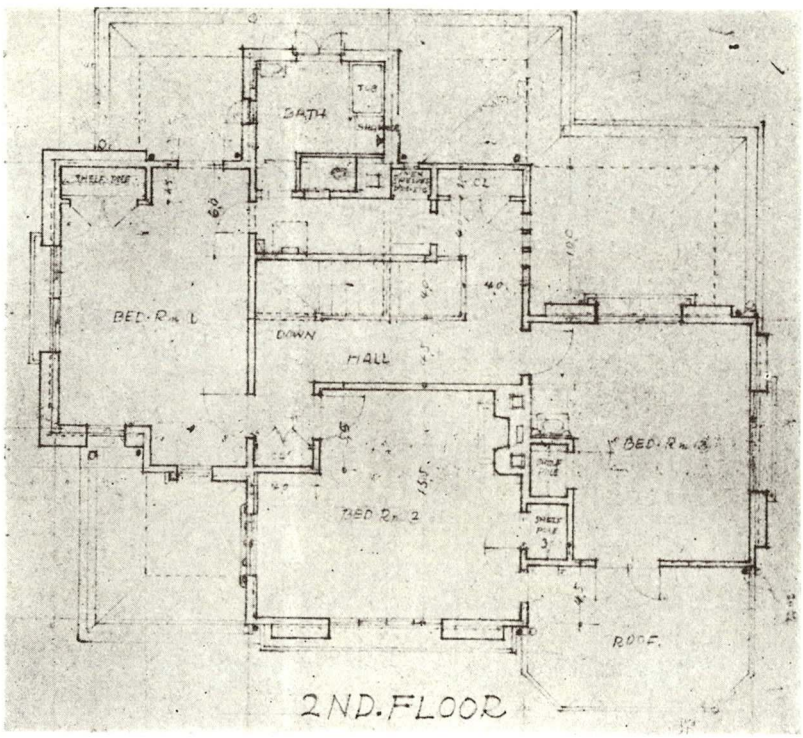
神戸市・大高氏邸　　上・第一階平面圖　　下・第二階平面圖　　設計者　置塩　章氏





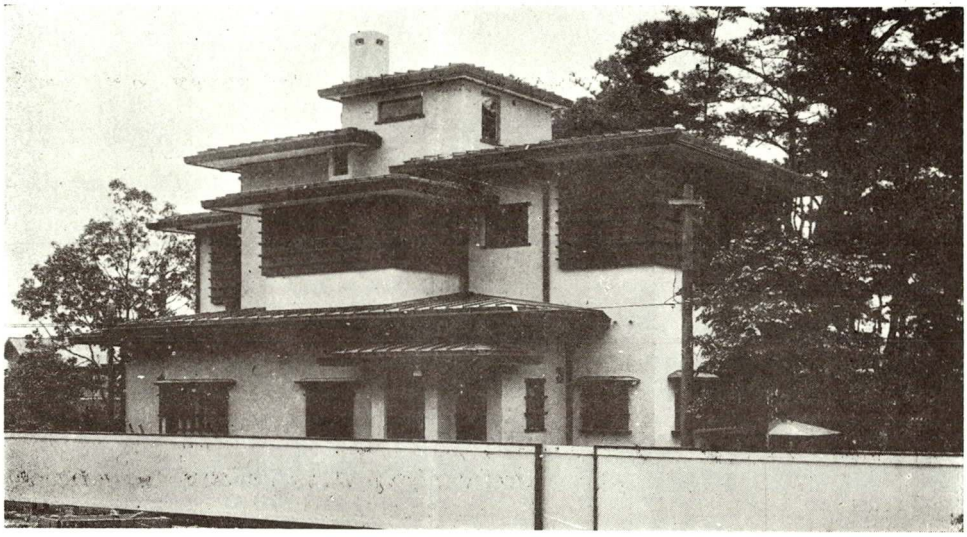
阪急沿線六甲・S氏邸　　上・東北よりの外觀　　下・第一階平面圖　　設計者　安井武雄氏





阪急沿線六甲・S氏邸　　上・南よりの外觀　　下・第二階平面圖　　設計者　安井武雄氏

1

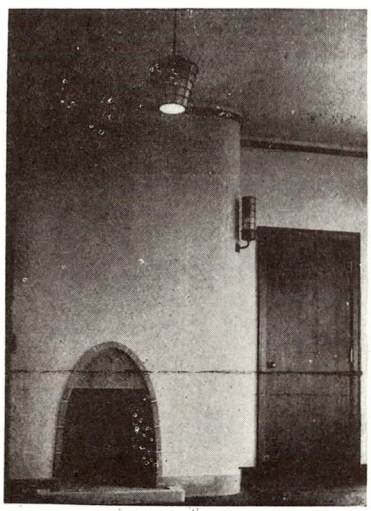


2



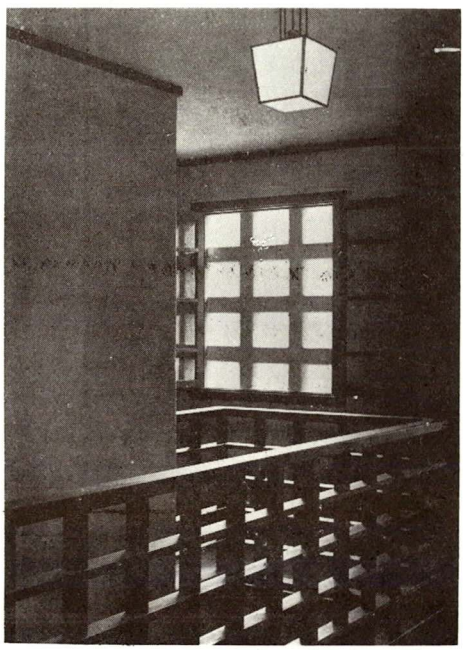
1　西北よりの外觀
2　玄　關　詳　細
3　二　階　寢　室
4　階　　段　　室

3



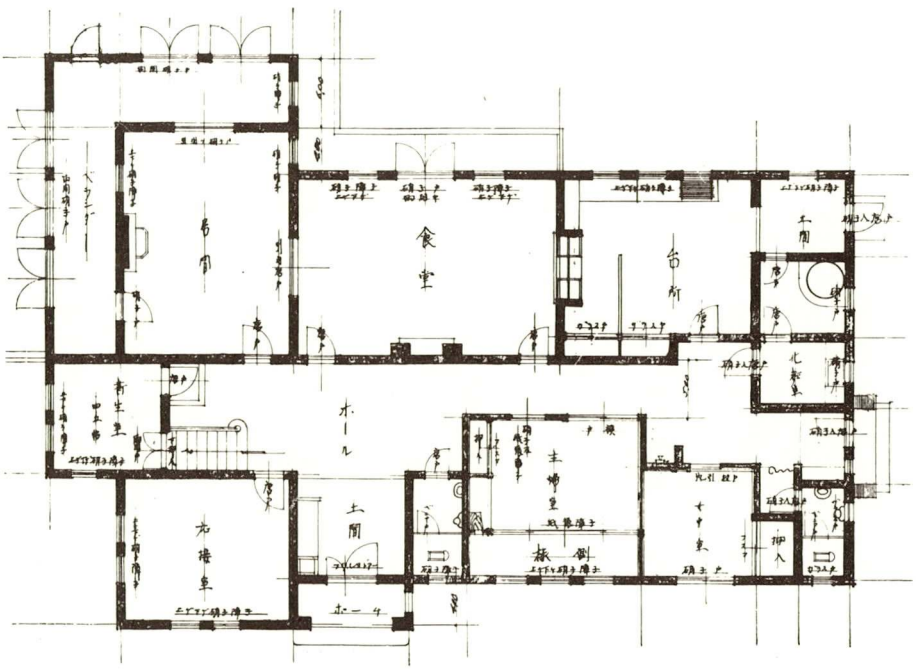
阪急沿線六甲・S氏邸

4



設計者　安井武雄氏





阪急沿線六甲・U氏邸　　上・外　觀　　下・第一階平面圖　　設計者　大林組住宅部

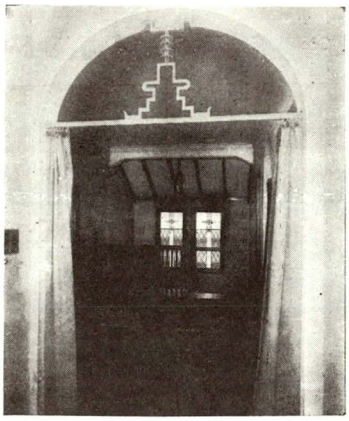
1

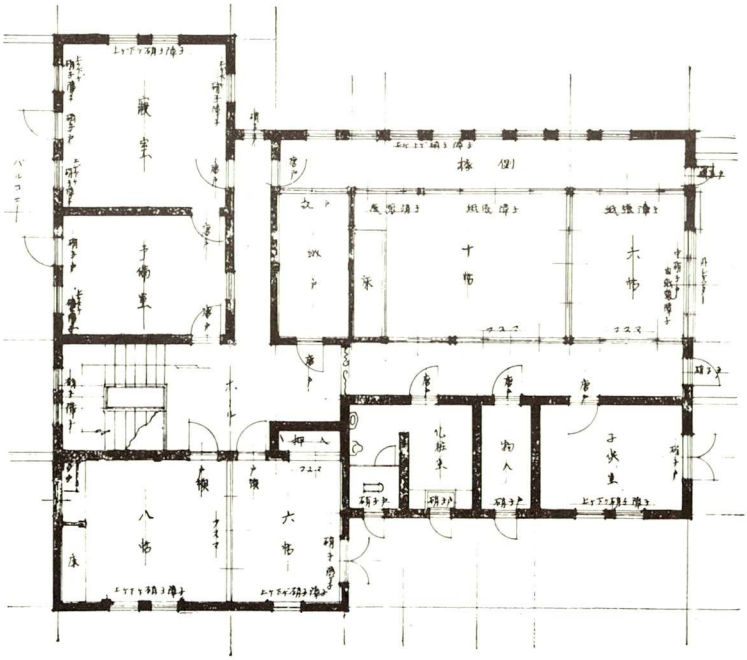


2



3





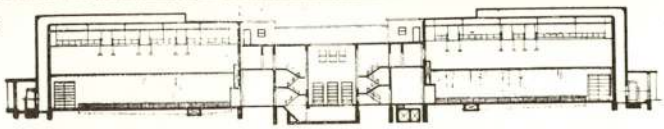
1 居　　間
2 ベランダー
3 階上ホール
4 第二階平面圖

阪急沿線六甲•U氏邸

設計者　大林組住宅部

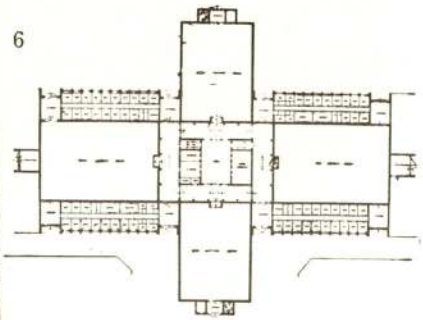












市塲（佛蘭西ランヌ）設計　エミル・メイグロ氏（巴里）
1 北　面　　2 內　造　　3 中央大階級

ウー・フアー會社のトーキー・フイルム・アテリエ
（獨逸伯林郊外）設計　オツトー・コーツ氏
4 外　觀　　5 斷面圖　　6 平面圖

切　取　線

登録商標



資本金　五百万円
年産　百五十万樽

ヨロキヨセメント
ヨロキヨ級高セメント
（特許二八四五）

二日で普通セメント四週の强度
耐壓力（一日 三〇〇 二日 四〇〇 七日 六〇〇 二八日 七〇〇）瓩平方糎
爲輪伊皿子路面工事は冬期
三日で八噸ローラーに堪えて
完全なりき
「早期高强度」時代の要求
脫枠迅速工事期間の短縮は
弊社高級セメントに
依りて得らる
終局强度も大にして
使用法は普通セメントに同じ
本品は已に陸軍省、鐵道省、東京、大阪兩
市等に御使用の榮を得たり

大阪窯業セメント株式會社
大阪市北區堂島濱通二丁目　電話北自一一〇至一一三番
大阪市港區南恩加島町
工塲　電話櫻川（一一七七 二六〇九 二八四三）
東京出張所　東京市神田區表猿樂町
京都出張所　京都市二條驛前
名古屋出張所　名古屋市中區老松町七丁目



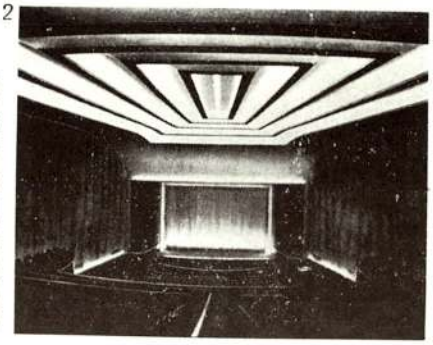
1



3



2



4



7

8



獨乙　ケズントブルーネル停車場の„リヒトブルグ"
設計　ルドルフ・フレンケル氏
1 外　觀　　2 內部廣場

ゴウルメニア・レストラン（獨乙伯林）
設計　レオ・ナハトリヒト氏
3 外　觀　　4 內　部

日本建築協會編

學校建築圖集

定價金壹圓　稅拾四錢

四六倍版　寫眞版　一〇八個
凸　版　六三個
記事　一四頁
總頁數　二〇〇頁

學校建築の根底をなす平面計畫圖を網羅蒐集し補ふに構造圖及寫眞圖版を以て外觀、內部を示して萬全を期したり、建築家並に教育家の學校計畫に就ての好指導書たらん。

發行以來賣行殺到、初版賣切近日に迫る即刻申込を乞ふ。

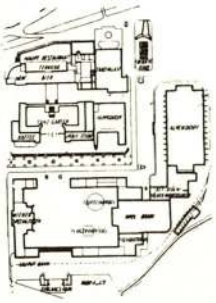
發行所
日本建築協會
大阪京町堀羽子板橋

賣捌所
柳々堂書店
丸善株式會社大阪支店
（本支店及出張所）東京、日本橋、神田、三田、丸ノ內、神戸、京都、名古屋、横濱、福岡、仙臺、札幌

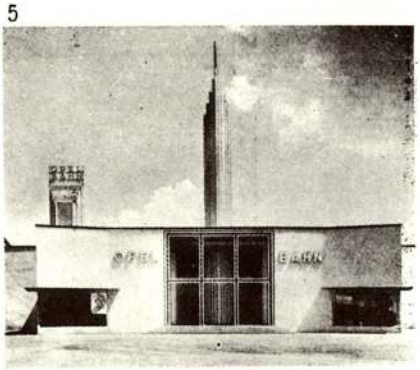
1



3



5



2



4



6



遊園地 „プレツザ" (獨乙ケルン)　　設計 フリツツ・フス氏

1 アルペン村　2 マリア・フアリナ　3 建物配置圖　4 野外活動寫眞
5 オーベルバー館　6 料理店　7 ワイスハツペル館　8 レストラン

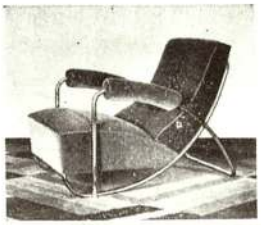
切取線

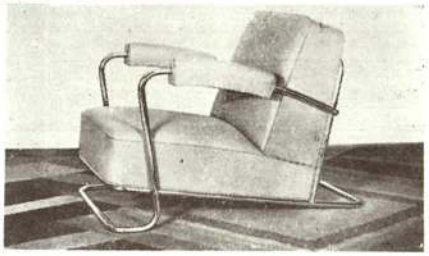
『建築と社會』昭和五年 每月發行計畫豫告

二月號　學校建築(既刊賣切殘本なし)
三月號　ホテルと倶樂部(既刊賣切殘本なし)
四月號　建築と風致(既刊殘本あり)
五月號　住宅の樣式・裝飾・設備(既刊　同　)
六月號　鄉土建築
七月號　木造建築の將來
八月號　明日の建築
九月號　耐震耐火建築の普及
十月號　工場と倉庫
十一月號　銀行と事務所建築
十二月號　建築工事と其材料
一月號　昭和五年建築大觀

右の發行計畫の中で御造詣深き問題に對しては續々御投稿を願ひます。又每月この外特に住宅欄を設けて住宅に關する記事を蒐めたいと思ひます、原稿はまへの月の十五日までに編輯部宛御送りを乞ふ。

『建築と社會』編輯部




佛蘭西新金屬家具

(Art et decoration)

切取線

責任保證
絶對防水

本間式防水工事

最新式メンブレンシステム防水工
最モ合理的最モ經濟的防水工

完全施工
優良材料

構成 仕様 材料 番號	アスファルト 使用量 面坪	アスファルト 使用量 平方米	アスファルト 塗布回數	補強材料 フエルト	補強材料 アスタイト	補強材料 フエブリック	補強材料 貼付枚數計	防水工厚 耗約	防水工厚 分（約）	標準單價 面坪 円	標準單價 平方米 円
第一仕様	六貫五〇匁	六瓩八瓦	五回	一枚		一枚	二枚	九	三	7 50	2 27
第二仕様	同	同	六回		二枚		二枚	七	二・三	9 50	2 90
第三仕様	同	同	五回		一枚	一枚	二枚	八	二・七	9 50	2 90
第四仕様	同	同	六回	一枚	二枚		三枚	八	二・七	10 00	3 00
第五仕様	同	同	五回			二枚	二枚	九	三	9 50	2 90
第六仕様	八貫六七〇匁	九瓩	八回		三枚		三枚	九	三	13 00	3 90

防水層補強材料

アスタイト　フエブリック
鳳凰印アスファルトルーフ幷ング
鳳凰印アスファルトフエルト
日石アスファルト特約販賣

大阪市西區京町堀通一ノ四〇

工材社

電話土佐堀(44)五八〇九番



建築斷相

(3)

松室重光

第十四　地方町村の改善計畫（つゞき）

地方に外面的歐米文化の模倣浸潤を見ることは百害あつて一益のない事であります。たゞよく其長所のみを取入るゝことをなさず、不用意千萬にも其短所の多くを共に取込んだ都市の現在の醜狀に顧みて、其轍を踏み其禍を重ねぬ樣に心掛けねばなりません。

古來我國人は其資性の純直なるが爲に、物事を深刻に省察することをなさず、卒然として何事でも無條件で採用いたしまして國家に大禍害を蒙らしめ、其善後策に數百年を經過して來てゐる史的證徴に見ても近代文化の弘布には相當戒心してかゝる必要があります。

建築の施設なども決して單なる物質文化の擴張としてのみ考ふべきではありません。

《「カツフエー」や「ダンスホール」の始末を見よ》。

第十五　高級建築の遊戲性

高級住宅などに就ては我協會の委員會は其當面の急務として、之が研究調査に携はるの必要はないことゝ信じます。理由は之を以て差迫れる問題の解決が出來ないと思ふからであります。此等の高級住宅につきましては、人間の遊戲氣分が多分に表れてをりますが、生活の現實味とは大分隔絶したものがあると信ずるのであります。

人間の遊戲性の表現として見るべき建築中の隨一は寺院でありまず。我國に於ては此一種の氣分が主として寺院建築に表現せられて來てをりました。

流石に奈良朝迄は其建築が極めて純眞な、しかも偉大なる信仰の象徴として體現せられたものゝ樣に思はれますから、其處には莊重と雄大性の充分なる威嚴を發揮してをりますが、平安朝以降に入りますと、最早左樣な偉觀は失はれて參り、段々に見ることが出來なくなりました。

此時代の佛寺は實に藤原氏が其威權朝廷を壓して其榮耀榮華にのみ誇り、全く現世の享樂に耽溺しきつた時でありますから、其誇らしい人々の遊戲性だけは遺憶なくそこに表現せられた樣に思はるゝのであります。

建築の技工としては法成寺の伽藍や法勝寺のそれなどは甚だ優れたものであつたらしい。特に前者の金堂後者の八角九重の塔の如き極めて見事であつたに相違なく、優麗無比でありましたことゝ推想せられたのでありますが、それには技術的纖細の美と而して弱さと奇麗さとで蔽はれて居りまして、其處に何等男性的な雄偉の觀はなかつた事と思はれます。

現に之を宇治の鳳凰堂について見ましても、其纖麗なりし姿態の殘映は充分に認められますが、之を法隆寺や唐招提寺や或は東大寺の諸伽藍の樣に其內外全體に力の橫溢した純眞の建築美は保つて居なかつたかと考へます。

《法隆寺の伽藍は其度々加へられました修理によりて餘程其重厚の觀を殺がれて來たものと思ふのであります》。

それより後は歷史の示す通りでありまして、鎌倉時代に入りましては、平家武者の墮落狀態に反撥奮起した武士や、又禪宗の輸入によりまして一種の堅實性と簡素枯淡味を其建築に見ることゝなりました。

しかも漸次それが一種の英雄的遊戲性に展開せられまして、足利氏の金閣より銀閣と變轉降下し、其處で反轉して安土桃山の豪壯味を發揮することゝなつたのであります。此時代に於ける建築に行はれました彫刻などは最もよく其性質を表現しているのであります。

第十六　木造建築の純眞味

此處に時代の生みたる頗る皮肉な一種の建築表現がありました。茶座敷の建築がそれであります。矢張り治亂の外に超越して立つた頭腦の冷靜なる僧侶達のする仕事で、餘程其姿を變へてをります。權威者征服者の榮華が只槿花一朝の夢に終ると見ました爲か、兎に角、從來の物質的なそれとは頗る異なつて、反對に、原始其儘の様な自由建築を創造大成したのであります。

之が英雄頭を回らせば即ち神仙とでも言ふのでありませう。僧侶達の皮肉は幸にうまく此英雄的自稱者を戒めて、それに充分反省の餘裕を與へることゝなりました。兎もすれば現實味の表に漂よふ虛榮の光に浮かされて、自己本質の性根を忘れがちの彼等に、人間其ものゝ眞體を悟らしめましたのは此種類の建築の御蔭であります。

今日でも所謂富豪階級が此遺風を眞似て、一種の反省生活を知らず〳〵の間、時折に試むるのは其片影であります。で木造建築に一種の自然的純眞味の存すると云ふのは此事であります。

之が私の木造建築に猶充分の生命のありと信ずる處でありまして其存在が永久的ならんことを希望する理由であります。

人間の力は何事をも企てゝ及ぶべく、行ふて就らざるはなしと云ふ様な迷想から醒ましますのには最も良き清涼劑と思ふのであります。

第十七　農村家屋の問題

下層勞働階級（主として都市に集中せられたる）の住宅問題の解決と相次ぐもの、否其解決に甲乙の順序を立て難きものに農村の家屋があります。

都會生活にたゞ漠然たる憧憬を持ちて、ふら〳〵と田野より浮れ出して來る農村子弟達の多きは、其本據である農村の現實的に幸福ならぬ點が第一であります。其本據にして安全であり且つ幸福であつたならば、求めて生存競爭の激甚なる渦中に投じて來るものはありません。

都會のみがさながら人生の歡樂境なるかの如き誤まれる宣傳こそ社會に絶大の害毒を流布しているものであります。都市の表面的なる修飾に怡し氣もなく莫大なる國費を投じて國力民度以上に不相應なる施設をなし續けていることは愈々我農村の存在を危殆に瀕せしめているものであります。

今日の都市は空中樓閣であると見るのが私の考へ方であります。即ち都市には其根本に於て不堅實性の存するものありて、更に强固なる基礎の上に建てられているものでないと言ふのが私の所見であります。

都市は自己に力ありて其聚國生活體の文化表現をしているのではありません。それは重稅を負擔せしめらるゝ市民の力であります。重稅の利子を負擔せしめられて、決して其肩上の重荷の卸さるゝことなき市民の我慢であります。起債にまつにあらざれば道路も橋梁も電燈も水道も施設し得られぬと言ふ都市に果してどれだけの實力がありと言へませうか。

國庫の低利資金の融通を受くるにあらざれば市場も何も出來ぬと云ふ都市にどれだけの力の誇りがありませうか。

農村を削つて都市を建設することは少なくとも我國家の存立を危殆ならしむるものであります。之は農村と云ふものを持たぬ英國あたりとは全然其事情を異にする點であります。彼に在りては農村には開發せらるべきの資源がない。從つて農村と言ふものは成立しないのであります。

斯事情の相違を顧慮せずして、我も又彼が如くに都市を經營すべしとするのは實に一知半解の大僻論であります。

東京市の彼が如くに膨大にして而して其經濟的に行詰つたのは其處に意義なくして生活する多數の市民を包擁する結果であります。

官吏や軍人や其他の行歷の所有者にして現に何の仕事をも持たぬ人達が、たゞ主都に生活を續けていると言ふ頗る淡き自惚れ感で、一部の稅を負擔し消費者として居住するが爲に、東京市は其建設的（道路、上下水、其他）な施設に莫大なる經費を投ぜしめられているのであります。此人達のあるが爲に餘計に學校を設け、病院を建て市場を造り、鐵道を延長しているのであります。

今此等の人達が其重稅の負擔に絶えずとなし、其居住を無意義なりと悟り、其家と土地とを拾てゝ

地方に逃避し去つたならば、東京市の一部は忽ち廢墟となるでありませう。

斯る事は決して痴人の夢や杞憂とは限りません。此人達にして若しよく心眼を開き其安住の地が孰れが最もよきやと言ふことを考へたならば、必ずや大都市居住の馬鹿らしさに氣づくでありませう。此心配が絶對に發生しないとは決して斷言出來ぬことであります。

今日の農村は實に國費の名目の下に多大に誅求せられて、自ら其身を殺ぎ其食を減じて都市の墓場に供養しているのであります。

農村の疲弊するのは實に此都市の偏倚的發育を爲政者等が無反省に助長している結果であります。都市と云ふ名稱に餘りに拘泥してそれを餘りに重く見過ぎて國民を欺く結果として現時の様な農村の不振を來しているのであります。

都市の中小商工業者の不振を救濟する費用は都市自身の負擔ではありません。矢張り農村人の負ふ所であります。

『人々よ早く農村に歸れ、而して其本據にありて自然生活の眞味を享けよ』。私は聲を大にして斯く絶叫いたします。

それには必然的に農村住宅の改善を考へねばなりません。

農村生活こそは最も自然に近き生活であります。この自然の生活と言ふのは決して共閉却せられた衛生的の不健康生活を言ふのではありません。其文化的に陰鬱な生活を意義するのではありません。

農村の居住民に眼疾や寄生蟲患者の多きは自然其物の正確なる理解のないことから來る惡生活の結果であります。

此惡生活と申しますは、住宅や行住の樣式の不充分不健全が將來した結果に外ならぬのでありますから、今それ等を改善せしめやうと計るのであります。

農村居住の樣式は、都市とは全然異なつたものを必要といたします。それは此居住が唯一の安息休止と云ふことよりも、寧ろ生產活動に至大の關係が存するからであります。

『人々よ無用なる競爭を避けよ、そして各々其土地相應なる特殊の生業にいそしめ』之が私の農村人に呼びかける第二の言葉であります。

我國の農村を單一的政治統制の下に置いて來た今の制度は過去數十年の經驗の結果悉く失敗に歸しました。行政組織然り、教育制度然り、土木施設然り、而して遂に農村は疲弊しつくしたのであります。

此農村には昔ながらの自然の山の幸、海の幸があります。農村生活は必ず此自然の幸澤を宗とすべきでありまして一切萬事此處から發程せねばならぬのであります。

にも係らず、山村に水廊の教育を施こすとの不合理なるが如く、農村に都市の教育を共儘用ひたるこゝが今日に至つて都市偏重の禍根となつたのであります。

山村水廊にはそれ〴〵其地に宜しき生活の樣式があります。其樣式の基準として先づ其家を考へよと云ふのが私の主張であります。

第十八　農村住居の改善私案

これは第一に生產的に都市以上に其規模の存するこゝを知る點であります。次には其衛生的方面の觀察であります。第三は地宜による其規模構迄であります。第四にはそれ等に現代の科學智識を充分よく應用して遺憾なからしめやうとするのであります。

農村にありては第一に土地が安價であります（例外も多けれども）。從つて生存的活動の本源として其一戸の住宅に充分なる廣さを取ることを忘れぬ樣すべき事です。

然るに現狀から見ますと此點に於て先づ狹隘で且つ貧弱の感じが致します。之には農村生長の史的事實があり、人口增殖に伴ふ分家戸數の增加などもあまして、其農耕面積を出來る限り縮少せぬと云ふ樣な事情からも來ていることゝ思ひますが。之をもつと合理的に還原せしめたいと存じます。

第二には地宜による建築材料の尤も巧みなる使用方法の研究でありまして、家屋の規模としては其安價にして且つ潤澤なる木材石材の供給を得て、よりて以て必要にして且つ自然に最も親しみ多き家を經營せしめやうとするのが私の念願であります。

（第十八の續き）

我國土の面積中山林が其大部分を占めていることは特に數字を揭

げて說く迄もなく明白なる事實であります。

此山林こそは獨り我農村の建築改善の要素たるのみならず實に國家の無源となるべきものであります。

それだけの山國であるにも係らず、此山國即ち材木の國へ明治の後期より段々米國材が輸入せられて來ているのであります。

最初はそれが松の種類に留まりまして、只其長大なる點を利として特殊の場合にのみ用ひられ、其品質は我國の物に大に劣るとして廣く重用せらるゝに至らなんだのでありました。

然るに我國の材木は急激に擴張せられた建築界の需用を充たすに足らずして、此下等なる米國材が津々浦々迄も持行かるゝ事となりました。其上に檜や杉や栂の族迄が輸入せられてをりまして、今や日本全土到る處外國材を見るのみならず實に其主要產地の中心に迄喰入つている有樣であります。

外國木材中特に我國の或種の用途に必要とする二三の堅木材を除くの外、その侵入の好ましからぬ事は他の品物の輸入と同一であります。それが國內で得られぬ限りは致し方もありませんが、左もなければ必ず國材を用ふべきであります。

何故に斯る事態になつたかは我國に良材の欠乏している爲であります。即ち山林濫伐の結果であつて、其跡始末から平素の經營甚だ放漫なるが爲に有用材の仕立てを怠つた故であります。

今都市に喊なくして放浪する山人達の群が、其志を改めて各々其本據に歸住して、其一部の人達が意を殖林に致しましたならば如何でありませう。無論其効果は早くも十數年の後、遲きは數十年乃至百數十年の後にあらざれば期待し難き事でありますから、之を以て的面に衣食に窮する人達を救濟し又は外材輸入を防遏して人々の生活に永久的なる安定を與へ、國帑靡亂の害を阻止することは不可能でありますが、何時かは農村の人達の衣食足るの時が來るのでありませう。

我國山林の養殖宜しきを得ましたならば、我建築界は無限に惠まるゝ事と存じます。お粗末至極な米材建築の不利より脫るゝだけでも非常な幸福であります。

實際我國には有用なる樹種甚だ多く、其今日迄建築に利用せられて居るものは僅に百の一に及ばぬ位であります。

之は山の經營者の建築を知らなんだ罪であると同時に建築家や爲政者が山を知らなんだ罪であります。

現時に於てすら同樣の事情にありまして、林業家と建築家は實際上の木材の使用方法を充分に考究して居ないのであります。

從つて生長の速やかにして充分用材たらしめ得べき樹種の選擇が忘れられたり、生育遲々として容易に用をなさぬ樹種の殖栽に力を用ひ過ぎたりして未だに山林の完全なる利用をなし得ないのであります。

鐵道用枕木として栗材を濫伐して其跡始末を怠つた結果を御覽なさい。一事甚だ明白であります。

松材の前途を想像しても我山林は決して安心出來ないのであります。今日の儘で推移いたしますと檜や杉の美林が天然紀念物の樣に局部的に保存せらるゝ樣になるのも遠い將來ではありません。

考へて見ると我等は自ら立つ足元を忘れているのであります。木材の研究は山林の人のみに委すべきではなく、我等建築家の鐵よりも石よりも先づ留意してかゝるべき事業と存じます。

木材中には生活川とは申しながら消耗品として潰ぶされる量が莫大であります。其大宗は製函の原料となるものであり、それに次いで薪炭となるもの極めて多く、降つては履物用としての桐や、その種類品や箱用箸用などなか〳〵多量であります。桐の種類は生育の甚だ速やかなる材でありますが、毎日はき潰す履物として之を使用することは惜いものです、簞笥や家具類は多少什器用として其持續性がありますが、無遠慮に之を消費して居る狀態は戒心すべきでありまして、木材の使用方法にも猶幾多の考究を要する點があることは明白であります。

山林の經營などは迂遠の極とは申す間に四五十年は夢の如くに經過いたします。此儘にして日本の山が伊太利の樣になつたと想像しませう。其處に外國輸出の大理石が掘られませうか。

山林の荒廢の國命を危ふくすることは今更言ふ迄もありません。產業立國だとか產業の合理化などと言ふのは獨り商工業に限ることではありません。

此產業の合理化を說く人達は須らく先づ農村を見詰むべきであります。

世界の東西に、南北に、宏大なる食糧や資源の生產地を持ち居たるが故に英吉利は其本土を擧げて牧場や狩場となして平然として居られるのであります。殖民地として加奈陀や濠洲の如きものを持たぬ日本產業は資源を外國に仰ぐ事が合理化の根柢をなすや如何に。

さて我等の問題は農村の改善であります。而して其建築の改善の方法として先づ木材を知れ、其利用の方法をもつと考へよと言ふのであります。地方の工業學校などは無つかしき鐵筋『コンクリート』構の理論や實際を敎ふるの前、木造建築の特異性を充分敎習せしむべきであります。

其次には石材の研究であります　建築用の石材は花崗石や大理石に限られてはをりません。或程度の耐水的品質は必要でありますが、それが絕對性のものではありません。

要する所は其土地の產出する所のものを最も善用して建築をあく迄地方的に自然的に發達せしめ出來得る限り安價に改善せしむべきであります。

此石材利用の調査研究が多くの場合等閑に附せられて居ります。之も關係者の無學の結果であります。敎育の地方事情無視の結果であります。大理石こそ伊太利程に豊富ではありませんが其他の石材は大抵得られるのでありまして、其色調や硬軟は元より利用の範圍を限定するのでありますが、住宅が實用的に重しと見らるゝ間は地方產出石材は皆夫々に充分使用せられて適當に其効果を發揮するものと信じます。

農村住宅の衛生的發面は特に深く考慮することを必要と致します。都市は決して人を造る所ではありません。此處こそは實に人間を尤不自然に機械的に消費する處でありまして人生の墓場であります。

街路樹は其墓場に立てらるゝ花であります。で村落こそは人間の生ひ立つ處、人間生活の資源でありますから、此本據の衛生的施設を充分に良くする事は最も肝要であります。

この衛生施設は家に於きましては上下水がその一、牛馬等の爲にする畜舍改善が其二であります。

此等の施設は都市に於ける物程に機械的たることを要せず、自然は比較的頗る簡易にこれの行はれ得る幸を與へてをります、その點をよく考察して一日も早く其改善を急ぐべしであります。

家畜の家の改造は事頗る輕易であります。其汚物を適當に處分する迄の事であります。人間住宅の便所の改造と共に、これ又都市程の川意に及ばずして充分成功せしめ得べき仕事であります。

實に村落其物は其眞相を充分考察する事になりまして頗る容易に改善せられ得るものであります。此村落の研究者と改善の當務者たり指導者たるものは實に地方實業學校出身の地方實情の體驗者たることを要します。濕暖なる南方九州の國々では家に雨戸を必要としない平和鄕が多いのであります。此地方での家屋改善は最も容易でありまして費用從つて又最も寡少で足るのであります。

しかしながら北部地帶では斯くはまいりません。其處には適當なる科學智識の補綴を要するのであります。それは前に言ふ所の防寒施設であります。

それから水廓には又山村と異なる趣があることを知るの要があります。漁村は其海の害から脫れ得る充分の研究を必要と存じます。此處の家屋の山村のそれと大に異なるものたるを要するは勿論であります。

それ等の一切に共地宜に應じて最も適當なる施設に科學智識を貸す人は地方事情の熟知者であります。

學校でも病院でも、此處に都市一樣の鐵筋『コンクリート』構造をなすの必要を認めません。たゞ如何にすれば木造を比較的完全に安固ならしめ得べきかを研究すべきであります。

我建築協會は建築と社會とを對照せしめています上に於て此方面の範例を示すことの要なきや、私は此問を揭げて一先づ本稿を終りといたします。

（昭和四年十二月卅日稿）



晴耕雨讀

高橋榮治

晴の日も雨の夕も雜事に追はれて手にする暇もない書籍が机の上に堆高く積まれて塵にまみれてゐる。何んとなく申譯のない氣がするので頁數だけでも書き付けて見やうとする。題はかうつけたが要は新刊紹介に過ぎない唯私の机の上にある新刊の紹介である。

住宅特輯號だから住宅に關する新刊書の中二三を擧げることにする。

朝日新聞社が昨年小住宅懸賞募集をなしその展覽會住宅講演會、當選案實施となり、其の都度出版した。

朝日住宅圖案集

四六倍版、厚紙表紙背クロース

序四・目五・色刷一三・圖三八一・昭和四年七月發行、價三・〇〇

東京
大阪朝日新聞社

朝日住宅寫眞集

四六倍版、厚紙表紙背クロース

序二・目三・圖一一五・記事一八・昭和五年三月發行、價一・五〇

東京
大阪朝日新聞社

住宅改良の諸問題

四六版、厚紙表紙、二〇二頁、昭和五年二月發行、價一・〇〇

東京
大阪朝日新聞社

圖案集は應募案五百の內から選まれた八十五案がまとめられたものである。仲々優秀なものが澤山ある、中に其自體は左程成功せずして而も暗示に富む撰玉の作品がある。若人の閃きある頭腦、其の努力こそ尊い。前途は輝かしい。嬉人の案らしいのが點々として眞珠の様に光るのも心強い。

最優賞を得た初めの數通が殆んど同一の平面構成になるのは審査の方針によるものであるかも知れないが、與へられた條件に對する一答案として見て面白い。

圖面の印刷も割に鮮明に出てゐるし、簡畧な概要書も附けてあり又終りに審査に關係した人々の話まで載せてある。懸賞募集の條件を何處かに書き入れてあれば大變參考になると考へる。

圖案、それは若い建築家の夢である。憧れの夢、頭に芽ばえて紙上に現はされた夢、その實現の喜びが寫眞集になつて刊行されてゐる。成溪園前喜多見の高臺に朝日住宅十六案が建てられた。その寫眞集である。

圖面と實物の寫眞とを比較して見て思はず頬笑まれる處がある。圖面と實際との感じの差異。細部の變更。恐らく專門家にとつても趣味深い事であり又素人の方にしても參考となる處が多からう。寫眞の寫し方もよく考へてあるのに感心さゝれる。

尙解り易い短い說明、坪當りの工費最後に櫻井忠溫氏其他の『住み心地』が載せられてある　圖中に挿入されたフリーハンドの平面圖が變更等を全然考慮せず前の圖面のまゝ載せられてものがあるのは解し難い。

住宅改良諸問題といふ、これは朝日講堂で催された講演の速記錄である、建築學會推擧の斯道の諸大家たる講師が各與へられた諸問題に寄せられた明快な而も通俗的な解答と見做し得る。

『建築衛生と家相』佐藤功一氏

空氣、光線、水、溫度、濕度、汚物處理、塵埃、音響、臭氣、安心、愉樂等を簡單に述べ、迷信の家相から離れて眞實の意味の新家相學の樹立に論及されてゐる。

『鐵筋コンクリートの住宅』內田祥三氏

內田博士新築自宅の實驗談である。耐火、耐震、防盜、防暑等總て安心の出來る家に住むとを奬め『一而も住宅は人類生活の必要素である、日常我々の生命

財産を托してゐる容器である。古聖の言は養は身を移し居は氣を移すとある通り、より堅牢なより安心な家屋に住めば其の精神もゆつたりと落付いてのんびりした氣分になるに違ないと信ずる―』と結ばれてゐる。

『郊外住宅』久留弘文氏

主として現在の郊外住宅に關して住宅地及敷地の選擇、住宅の計畫等を概說されてゐる。

『室內裝飾と家具』岸田日出刀氏

住宅內部の裝飾の意義本質を概念的に論じられたもの。

『住宅の庭園』田村剛氏

中小住宅の庭園をどう設計すべきものであるかと、百坪六十坪と具體的に說き庭樹に及ばれる。

『便所改良の問題』大澤一郎氏

便所の改良すべき諸點より各種の新案改良便所の詳細を述べ工費を附せられてゐる。尙下水及便所に關する法規抜萃が附錄になつてゐる。

健康住宅設計圖案集

（大阪每日新聞社選定）

横型四六倍版、色刷厚紙表紙背クロース、序、目次一八・圖九五、昭和五年三月發行、價二・八〇

東京大倉書店

前年『先づ健康』の標語のもとに大阪每日と東京日々が健康增進運動の一として健康住宅の設計の懸賞募集をした其の當選圖案八通と佳作十四通が載せられてある。其際の主要條件は木造延坪三十坪內外建築費四千圓程度、防暑を主として防寒を副とする。窓の有效面積を床面積の五分の一以上にする。日光投射角を室中央で廿五度以上にすること等で審査は武田、戶田、藤井、片岡の諸博士に依つてなされた。

條件の難しい爲めか設計は可成り遣り憎い樣に見受けられるが、至る所に若人の眞摯な態度と不屈の努力が表はれてゐる。朝日社の方と條件が違ふから比較は困難であるが每日社の方は條件の通り衛生的考慮に於て秀れ、朝日社の方が意匠的見地に於て優れてゐる樣に認められるのは當然の結果である。然し何れも百華燎爛と褒め得られやう。思へば十數年前讀賣社が小住宅の懸賞募集をした事があつた、進んだものである、變つたものである。頭腦の進歩、思潮の移動、生活の變化、時勢の流れのテンポは凄い。

新らしい日本住宅實例

（生活改善同盟會編）

菊版、鐵綴、紙表紙、口繪二・序三・圖三・本文一三二・設計圖、昭和四年十月發行、價一・二〇

東京實文館

私の親友內務省社會局の中村寬氏や高橋重治郎氏の設計にかゝる小住宅實例集である。

種類十八。主として平屋建。坪數は最小十八坪から最大三十四坪。室數は三室、四室、五室の三種。平面、外觀共、通じて和風の在來の型式を改良した極めて質實な實際的のものであるが細部には新意が澤山加味されてゐて、特に衛生的に考慮せられてゐる。構造も堅固で可成耐震的であり、仕上も相當である、而も工費は平均坪當り百圓前後といふ廉價に出來上つてゐるのは注目に價する。

此等は皆昨年同潤會が東京郊外に實際に建築し分讓して各方面からその成功を賞讃されたものである。本書にはその建築實施主要圖面全部を二分の一に縮刷し、且その設計の趣旨特徵等を叮嚀に說明し加ふるに詳細なる仕樣書、內譯書並に落札値までが添へられてあるから素人の人は勿論專門家にも好參考資料である。

藤井厚二氏著

日本の住宅

四六倍版、厚紙表紙背布、序二・目二・本文一五二・表一九・挿繪六〇、昭和三年十二月發行、價五・五〇、東京岩波書店

內容極めて複雜な日本住宅問題が多く机上の空論に終つて其の眞髓に觸れるの稀なる折藤井博士は建築學上より理論的に且實驗的に考察してその解決を計られた、本書は其の目的の爲に實に數回家を建てられ自ら住み種々の設備をなし種々の實驗をされたその結果を世上に發表せられた近來の大著である。

各章を略述する。

和風住宅と洋風――住宅和洋兩樣の住宅を詳細に比較し、次に氣候風土と風俗慣習との關係をのべ氣候風土が住宅に如何に密接な交涉を有するかと說き和洋風共に欠

點ある所をのべて最後に新時代に適合する眞の文化住宅の創成を熱望せられてゐる。

氣候――多くの統計、圖表等に據つて我國の氣候を明かにし我國の洋風住宅の範たるを諸外國のそれと比較し、生活との關係に說き及ぶ。

設備――先づ腰掛式坐式の長短を述べ、壁、屋根、窓等各設備について經驗と理論とによつて詳論し、終りに鐵筋コンクリート造住宅につき短所を擧げてその愼重なる研究の必要を叫ばれてゐる。

夏の設備――日本の四季中最も不良な夏季に對する設備につき實施された具體案を提げ其の實驗の結果を示して居られる。

趣味――樣式、細部、設備及照明の各につき日本住宅の趣が高雅なる所以を述べられる。

藤井博士は昨秋逓竹居圖案集といふ大部の住宅圖集を岩波より出版された、且又英文の日本の住宅圖集ものされた樣に聞いてゐる。

故野田俊彥遺作集

（建築畫報第廿一卷四月特輯號）

四六倍版、紙表紙鎖綴、口繪一六・本文一二五・挿繪

昭和五年四月發行、價一・五〇

東京建築講報社



昨年の暮押詰つて野田さんの訃に接した、崇敬して居る此の先輩の死は餘りに突然であつた。建築畫報が本月特輯號として野田さんの繪、設計、論文、日記、書翰類をまとめて出した。頁を繰る手が痺れる活字がビンボケになつて來る。見る繪に、讀む記事に野田さんの有りし日の姿が髣髴として現はれて來る。若い未完成の偉大建築思想家、編輯にその人を得て材料完備、一雜誌の特輯號として葬り去るに餘りに惜しい、願くば單行本として廣く世の人の書架に保存される樣にしたい。生きて居らるれば野田さんは屹度そんなつまらないとをするなと云はれたかも知れないが。私は野田さんをその生涯の際間際間を見たに過ぎない。二年先輩として大學の教室で色々指導を乞ふたのが始めである、後數年して伯林で會つた。その伯林でありくと目に殘るは白狐の野田さんである。話はかうなんです。野田さんモーター・サイクルでワンゼーへ行かう、ヤ・ボールで私は車を持つて野田さんの下宿を誘ふた。

出て來られた其の姿。房のついた自頭巾、白いジヤケツ。白ヅボン皆白い毛糸づくめである。毛唐の赤坊の裝。ヂック・イン・バイスと誰かが云つた。その白狐の野田さんを肩にして私は走つた。途中で一度僕に運轉させといふので私は草原に澄んだ春の陽を浴びて一服してゐた。野田さんの大きな聲が森に木靈して響いて眞白な野田さん頭を掻き乍ら現れて來た。失敗失敗。命掛けの失敗だたつヨ。聞けば日本式に左側を走つて向ふから來る自動車と危く衝突しかけて相手の運轉手にひどく怒鳴りつけられたのだつた。

次に會つたのは大阪の土佐堀であつた、私は歸朝後胃腸を痛めて藥瓶下げて晝頃電車を待つてゐた砂煙を擧げて來た一隊の自動車が目の前で止まる、見れば久留、土居原、山崎、鳥井、清水、井上等といふ一騎當千の猛者連が野田さんを取り圍んで居る、何んでも野田さん來阪勸迎の徹宵宴の引上げらしく皆目を赤く張らして疲勞の色が顏に漂ふてゐた。

其後警視廳の課長室で一寸會つたのが最後となつた。私には本當に際間見た野田さんではある。然し敎へられた處は甚だ多い、且甚だ深い。野田さんの思想の根底を

なす建築非藝術論も議論としては兎角批評もあるが世を啓發した點は誰しも認めるであらう。

又載せられた日記には僞らざる野田さんの眞面目が如何にも躍動してゐる。

『自分の生活は今頃が最高頂である。死ぬなら今だ。學校も面白く卒業した。人生觀や建築觀に對しても小さいながら自分の考も今ならもつて居る。豪語もしやう。形ばかりのラブ・ストーリーもあつて結婚もした。子も出來た、これから先には何も起りやしない—』



大正七年の秋肋膜炎で入院中の日記である。死といふ字が飛び出して來た而もそれは輕い意味に使用されてゐる。

『——昨日から不圖美術學校へ入りたいと云ふ事を考へた。—それは決して空想的な計畫では無いのである』役所に辭表を出し夜學の先生を止め——『先(長女の名)を十文字に背負ふ君代(奥さんの名)を相手にしてどんな裏長屋にだつておれは住まう事が出來るぞ。そしておれは讀を習はう。小說も讀む。藝術に對する自分の考へを具體的に』して『そして世の中の人に教へてやらう』と悲痛な叫聲を上げた野田さんは廣い未耕の大平原を見た。

『——新らしい生命を拓いて行かう。そして永久に若い命を生きて行かう。考へるだけでも體の心がゾクゾクとして嬉しい』と體溫が昇つて看護婦に叱られた程の野田さんも、世はその力、その熱、その腕を奮はしめなかつた。眞正面からブツツかつて、何物かを確かに握り占めて人に乙れ見よと叫ばずにはゐられなかつた。若い未完成の偉大な建築思想家。野田さん逝きて或る偉大なる仕事、彼の外



何人も手に握り得ない仕事は徒に路傍の瓦礫の間に朽ちて行く。

息子を先き立てた淋さと內田先生は云はれる。事ごとに有形無形の教を受けとは强ち田邊さんのみではないであらう。私も玆に雜誌を手にして亡き野田さんを偲んで衷心より感謝と哀悼の情を捧げて拙しい稿を終る。

(五・四・二四受付)

社團法人日本建築協會會報

第三部(資料)委員總會

日時　二月二十二日午後五時三十分—同九時
會場　大同ビル、ライオン食堂
出席者　波江委員長外三十二名
記事　一、委員長開會を宣し、本委員會の本日迄の經過を報告する旨を告げ須川幹事より詳細報告す
一、建築材料の調査研究は先づ一覽表の如きものを作り次に性質に入り進んで價格に入る等順次に進まなければならぬと思ふ依つて本年は先づ第一に建築材料の一覽表を作りたし
一、當委員會は研究廣汎にして研究を進むれば仲々面白いものと思ふ、故に當委員會は別の意味に於て見學旅行等をも行ひたいと思ふ
一、今回大阪市立市民博物館主催の下に「都市と音響」展覽會を四月中旬より開催する趣にて本協會に後援出品方を依頼し來たり、會長より當第三部委員會に附託されしを以て、各分科より一、二名の委員を選出し音響展委員會を組織し出品準備に掛り度き由を諮り賛成を得
一、當委員會の定例會合日を毎月第一、第三金曜日とし臨時に主査會を開催す

第一部(法制)委員總會

日時　二月二十四日午後五時三十分—同八時十五分
會場　大同ビル、ライオン食堂
出席者　今林彦太郎氏外十六名
記事　一、會食後佐藤松太郎氏年長の故を以て座長に推され座長席に着く
一、委員長選擧に付、座長一任說及投票說あり多數決に依り投票を行ふ
一、投票の結果
當選　一三票　今林彦太郎氏
一、今林氏委員長就任の挨拶あり幹事選擧に移る
一、幹事二名は投票に依らず委員長より指名することを可決し左の通決定す
幹事　竹中　景一氏
同　和田貞治郎氏
一、委員長より各分科の委員氏名を讀み上げ各分科に於て主査一名選定を望む
一、各分科は席を更めて集合し主査及定例日を決定す
□第一分科主査　加藤善吉氏
定例日　毎月第二火曜日
□第二分科主査　高木眞太郎氏
定例日　毎月第二火曜日
□第三分科主査　小原力氏
定例日　毎月第一火曜日
□第一部委員總會定例日毎月第三火曜日とす
一、尙各分科に於て研究する問題は次回會合日迄に考へ持ち寄らるゝことを希望して散會す

音響展特別委員會

日時　二月二十五日午後五時三十分—同九時十分
會場　大同ビル、ライオン食堂
出席者　委員長　波江悌夫
委員　本間　乙彦　大倉　三郎
白石登喜男　高松平太郎
須川廉太郎　山田　初次
高岡與三吉　長井杏四郎
村山　元　龜谷　開作
森本　藤吉　谷　隆夫
阪井　米吉　(順順不同)
記事　一、波江委員長より音響展の陳列內容及建築に關する陳列出品の大體計畫、本協會より出費の豫算等其他說明あり
一、次て委員の分擔を定むることに決し左の通分擔を決定す
A學術的資料
富士岡重一氏　大倉　三郎氏
大澤　幸平氏　谷　隆夫氏
B計畫
本間　乙彦氏　梶田　豊治氏
白石登喜男氏　呼子　正氏
山田　初次氏　羽原　德衛氏
C模型
高田利一郎氏　阪井　米吉氏
福澤　谷藏氏　龜谷　開作氏
芝田　知重氏　高松平太郎氏
D材料
須川廉太郎氏　森本　藤吉氏
高岡與三吉氏　長井李四郎氏
村山　元氏
一、二月二十六日午後一時委員長外五名打合せの爲展覽會々場へ出張すること
一、二月二十七日第二回委員會を開催すること

音響展特別委員會

日時　二月二十七日午後五時三十分—同九時三十分
會場　大同生命ビル、ライオン食堂
出席者　委員長　波江悌夫
委員　本間　乙彦　大倉　三郎
富士岡重一　大澤　幸平
梶田　豊治　須川廉太郎
山田　初次　高岡與三吉
村山　元　森本　藤吉
谷　隆夫　阪井　米吉
芝田　知重
記事　一、委員長より前回委員會に於ける經過報告をなす、それより各委員は各分擔に分れて引續を協議をなす
1計畫部……昨年擧行の貸家展のパンフレットに做ひ防音其の他の記事に出品者の廣告を揭載し配布する計畫を立つ
2模型部……防音、反響の兩室の模型を作成すること
3材料部……建築材料會社及商會より防音材料出品を勸誘する事に決定す

第二部(教化)委員會

日時　三月一日午後五時三十分・同八時
會場　大同ビル、ライオン食堂
出席者　幹事　池田谷久吉　小笠原　銅
委員　小西　一良　藤枝　良一
山本　春水
協議事項　一、見學の件

住友製鋼所
日本ペイント製造株式會社
桃山病院現場
中央市場
甲子園ホテル
大阪陶業株式會社テラカッター工場
右見學に付差支へなきやを問合せ次回會合の議題にすること

二、春秋講習會の件
春期講習會は五月上旬に決行する事
會場は市立都島工業學校に交渉する事
科目——近代建築樣式概論
強度計算に就て
建築法規に就て

三、來る三月二十九日(土)に次の會合を開くことに決定

第五部(住宅)第一分科會

日時　三月三日午後五時三十分—同九時十分
會場　住友倶樂部二階談話室
出席者　主査　富士岡重一
委員　淺野　金藏　佐々木莊一
早良　俊夫　增山　新平
南　信　渡邊　金藏
研究事項　住宅の平面、外觀、構造、材料等

一、使用する寸法に關し「メートル」を以て基本とするや否や
「メートル」法の實施さるゝ迄在來の日本尺を用ふるや否に付協議の結果日本尺を用ふることに決定す
一、研究に入るに當り先決問題として先づ具體案を作るが必要なりとの意見一致し而して具體案を作るには條件を決定するが便なりとす依つて左記條件に付意見交換し大略決定す
1敷地面積を五十坪(六間に八間位)とす
2建物と空地との割合に付建物坪數を其の三分の一とする方可ならん(實例により尙研究すること)
3土地は郊外のこと即ち市にあつては新市とす
一、室内の大さを定むる爲衛生試驗場より研究材料を取寄せること(佐々木委員擔當)
一、篠崎委員より良き案を借入るゝこと(淺野委員擔當)
一、兎に角實例を根底とし研究を進むる爲各委員より參考圖を次回分科會に持寄ることを申合す

第三部(資料)委員會總會

日時　三月七日午後五時三十分—同九時
會場　大同ビル、ライオン食堂
記事　本夕は普請展出品者の打合會を開き出品に關する種々打合をなし、各分科は別れて各々協議研究を進む

第四部(災害)委員會

日時　三月十日午後五時三十分—同八時三十分
會場　住友倶樂部
出席者　委員長　光安掬之助
委員　池田　宮彦　川口　一二
黒田　茂　三浦　尙史
議事　一、鐵材の熔接に關する文獻を三浦、池田兩氏より提出し尙三浦氏より實驗の實物持參せられ研究討議す、尙米國イリノイス大學發行の之に關する參考書を至急購入することに決定す

常務會

日時　三月十日午後五時三十分—同八時
會場　本協會會議室
出席者　理事　片岡會長
宗副會長　古宇田副會長
常務　小川主記　坪井主記　山脇主計
本間編輯　高橋編輯　篠原編輯
報告　一、二月分會計報告(承認)
山脇主計報告
一、三月例會に關する件
1早稻田大學助教授佐藤武夫氏普請展見學の爲來阪の由に付普請に關する講演を願ふことに決定
2同氏來阪の時期等早速問合すること
一、大阪市電氣局内電氣普及館見學の件
新築の電氣局電氣普及館見學擧行のことに決定
一、名古屋市主催懸賞當選圖案展覽の件
協會員一般に展覽すること
一、大阪朝日新聞社主催産業合理化展覽會に出品の件
出品することに決定

第五部(住宅)第三分科會

日時　三月十日午後五時三十分—同九時三十分
會場　住友倶樂部
出席者　主査　末澤周次
委員　岩尾　保術　魚田　常治
酒井勇三郎　增山　新平
記事　一、臺所設備に就て增山委員の研究されたる材料を次回迄に持參せられ夫れを骨子として漸次研究を進める事
一、家具に付ては各自持寄意見に依り規格を作ること
一、室内色彩は壁面色彩を骨子として他のものに及ぼしたし

第一部(法制)第一分科會並第二分科會

日時　三月十一日午後五時三十分—同八時三十分
會場　大同ビル、ライオン食堂
出席者　主査　加藤善吉
委員　北垣熊之介　椎原　兵市
記事　一、本年度に於ける本分科會の審議すべき事項を左の通決議す
1建築物の高さの最低限度に關する道路の指定を促進すること
2第二次防火地區の指定を促進する事
3工業地域内特別地區の指定を促進すること
4大阪都市計畫區域内に於ける土地區劃整理地區内に百分の三の公園を設置すべき法規の制定を建議すること
出席者
委員　石川　寛三　小川　久市
久保田　廉　竹中　景一
武田　經一
記事　一、研究事項は次回より私立病院規則より研究を始むること

一、五大都市警察部衛生課長宛協會名を以て、病院設置に關する取締規則（設備構造其他）書送附方依頼狀を發する事

第五部（住宅）第二分科會

日時　三月十七日午後六時―同九時

會場　住友倶樂部

出席者　主査　南　信

委員　岩崎　勇　小林　三造

酒井勇三郎

協議事項　一、氣象に關する材料を集むる件（南主査擔任）

一、近縣各女學校に上級生徒の住宅間取及設備に關する材料の提供方依頼の事

1 夏の風通し

2 臺所の炊事設備

3 煖房裝置の有無（アラベ種類）

4 水道の有無（無ければ給水タンクの有無）

5 電燈燭光の大さを平面圖に書入れること

6 間取の便不便に關する感想

7 濕氣の程度

8 所在、敷地の廣さ、方位等

產業合理化展特別委員會

日時　三月十七日午後五時三十分―同九時

會場　大同ビル、ライオン食堂

出席者　大阪朝日新聞社計畫部　辻村又男氏

委員　池田　宮彦　岡部　顯則

中山榮太郎　松本　儀八

三浦　茂　渡部　圭吾

一、辻村又男氏に產業の合理化並該展覽會計畫の大要の說明を願ふ

一、德政氏を委員長とす（互選の結果）

一、出品物に付意見の交換をなし次回には各委員に於て案を一、二宛考へ來り協議選定すること

第一部（法制）委員總會

日時　三月十八日午後五時三十分―同九時

會場　大同ビル、ライオン食堂

出席者　委員長　今林彦太郎

第一分科　加藤　善吉　北垣熊之介

樋原　兵市　永田三次郎

第二分科　高木眞太郎　石川　寬三

小川　久市　久保田　廉

佐藤松太郎　竹中　景一

武田　經一

第三分科　山中　茂一

記事　一、各分科の經過報告をなす

一、昨年常務會に報告せし美觀地區並風致地區の具體案建議案に付其の後の常務會の取扱に關し委員長より懇談的に意見を述ぶる事を決議す

產業合理化展委員會

日時　三月二十二日午後五時―同八時

會場　大同ビル、ライオン食堂

出席者　委員長　德政金吾

委員　池田　宮彦　岡部　顯則

木村　寬一　瀧　邦一

中山榮太郎　三浦　茂

渡部　圭吾　山本　春水

記事　一、德政氏委員長に就任の挨拶を述べ直に議事に入り討議の結果左の通決定案を得たり

一、工場建築の合理化案（池田氏）

一、合理化せる材料及器械のサンプル蒐集（渡部氏）

一、建築界各方面の關係圖表の原案（渡部氏）

一、模型及寫眞の蒐集

A 住宅（中山氏）

B 朝日會館鐵骨模型（瀧氏）

C 五日會に於て曩に天覽の爲蒐集したる寫眞複寫の蒐集（木村氏）

以上の原案に依り圖面及繪畫を作製すること（中山氏）

但し中島氏缺席の爲岡部氏に一任す

三月例會

日時　三月二十二日午後六時同―八時三十分

會場　大同ビル八階集會室

出席者　四十七名

一、六時開會片岡會長より講演者早稻田大學助教授工學士佐藤武夫氏を紹介し同氏は造詣深き音聲に關し時餘に亘れる講演ありて出席者一同に多大の稗益と滿足とを與へたり

講演後宗副會長より謝辭を述べ一同拍子を以て謝意を表し盛會裡に閉會を告げたり

轉勤轉居

會員

山崎　孝麿君　東淀川區十三西之町一一

松本　富藏君　神戸市大塚町四丁目三番屋敷

黒澤　研君　北區堂島濱通二丁目東洋紡績營繕課

山本辰次郎君　西成區田端通二丁目二十三番地

鈴木　一幸君　兵庫縣武庫郡精道村三條安ノ山三一一

吉田　健治君　奈良市押小路町六番地ノ一

高井　久治君　府下中河内郡英田村大字吉田二六九

木津　季雄君　府下三島郡吹田町沿線通三丁目

田中　光治君　北區善源寺町五丁目三五番地

波江　悌夫君　大阪市役所建築課長退職

藤井　令三君　住吉區旭町二ノ一〇六

佐藤　清八君　東成區今福町三〇七

和田　信君　東成區東桃谷町四丁目一九六　三澤方

矢田　鐵藏君　東成區南生野町一ノ六七

谷川勝次郎君　神戸市上野六二六

林　豪藏君　府下阪急寶塚線螢ヶ池觀月莊方

吉龍　信二君　住吉區田邊本町五丁目六番地

會員（地方在住）

前島　成之君　廣島市大手町二丁目三二ノ四　三十四銀行廣島支店建築塲

吉成　敏行君　倉敷市川西町南通

鈴江　民一君　徳島縣名東郡南井上村井戸

鈴木文治郎君　支那上海楊樹浦路九八裕豊紗廠（上海郵政總局信箱第四〇五號）

瀬戸强三郎君　東京市丸ノ内帝國生命館六階竹中工務店東京支店

水上　昌三君　香川縣多度津町濱多度津鐵道局工場構内大林組多度津出張所

黒木源次郎君　長門組退職　福岡市西公園内

山崎　節治君　東京市外野方町上高田四二

吉竹　長一君　東京市麹町區内幸町一ノ四大平ビル吉武建築事務所

小宮浩一郎君　朝鮮京城府古市町一九青木商會内

野中　實君　熊本市大江町九品寺五五〇

櫻井謙二郎君　金澤市袋町五ノ一大林組金澤出張所内

城戸　武男君　名古屋市東區杉村町字柳原

竹谷德治郎君　兵庫縣姫路市本町六十八姫路商工會議所新築工事場大林組姫路詰所

古都　猛雄君　福井市外勝見城東橋南

友田　薫君　東京府荏原郡池上町德持三六九　東京市日本橋區呉服橋通三丁目七東京建物五階阿部美樹志事務所

特別賛助員

日笠　勇君　東京府北豊島郡瀧野川町大字田端三一六

普通賛助員

石田　晴治君　住吉區昭和町中二丁目一九

高木　一雄君　横濱市磯子區西根岸町六五九

川上　賢三君　兵庫縣川邊郡園田村字上阪部

高橋　義隆君　東成區腹見町四九三

齋藤小三郎君　西區難波新地六番町五、大林組難波驛出張所

荒井　龍吉君　金澤市袋町五番地ノ一林屋百貨店建築場大林組出張所

城戸　久君　名古屋市東區杉村町字柳原

南　龜吉君　府下南河内郡柏原町末市村一〇四六

木下助三郎君　姫路市船場元町（御坊裏）

高木　登君　神戸市山本通四丁目二四ノ二三

牧元・淳男君　住吉區天王寺町三二三〇

工藤　壽男君　北區大融寺町五四

櫻間大丈夫君　東京府豊多摩郡代々幡町初臺五四二西脇方

改姓名

舊姓　中村　勇君（改姓　長谷川　勇君）

舊名　徳永　義治君（改名　徳永　隆俊君）

舊名　山本外三郎君（改名　山本純三郎君）

入會者

會員

長瀬　幸一君　安尾　德次君

横山　金三君　中山　定雄君

高橋　義隆君（普賛より變格）

特別賛助員

秦　欽一君

普通賛助員

林　壯一君　石井　富司君

瀧川　榮亮君　平田　健作君

堀口萬治郎君　籠谷　種次君

折田　義雄君

退會者

特別賛助員　清水榮作君

普通賛助員　塚本隆造君　小宮山實君

住所不明者

左記の各位は目下御住所不明でありますから行先御存知の方は協會へ御教示下さる樣願ます

會員

林　正信君　田中　光治君

近石　正義君　土井　軍治君

地方會員

福島　祿壽君

普通賛助員

中村　徹夫君　田平　宗美君

影山　丈夫君

求職紹介

一、卒業學校　名古屋高等工業學校建築科

一、卒業年月　明治四十五年三月

一、年　齡　四十一歳

一、經　歴　學校卒業後官公衙及會社に奉職（履歴書協會にあり）

一、俸　給　希望なし

右就職致したきに付御採用希望の方は當會事務所迄御申越されたし

寄贈雜誌

電氣評論　每號　其　社

都人　每號　其　社

學士會月報　每號　學　士　會

建築世界　每號　其　社

朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會

セメント界彙報　每號　日本ポートランドセメント同業會

住宅　每號　住宅改良會

建築雜誌　每號　建築學會

工政　每號　其　會

建築新潮　每號　洪　洋　社

大阪工業倶樂部　每號　其　部

通俗衛生　每號　大阪府衛生會

帝國鐵道協會報　每號　其　會

工業評論　每號　其　社

電氣學會雜誌　每號　其　會

鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會

趣味ノ園藝 每號 關西園藝會
工業ト社會 每號 東京工業會
工業 每號 大阪工業會
滿州建築協會雜誌 每號 其協會
庭園と風景 每號 日本庭園協會
圖書室月報 每號 東京市政調査會
エンヂニヤリング 每號 其社
工業要錄 每號 其發行所
名古屋工業會々報 每號 其會
大大阪 每號 大阪都市協會
都市問題 每號 東京市政調査會
新建築 每號 其社
京都の實業 每號 京都商工會議所
都市創作 每號 其會
木材雜報 每號 大阪木材協會
建築學研究 每號 其會
大阪土木建築業組合報 每號 其組合
木材新聞 每號 關西木材商報社
工業新聞 每號 其社
日本建材新聞 每號 其社
日本建築士 每號 其會
インターナショナル建築 每號 其會
東洋建材時報 每號 其社
朝鮮鐵道協會會誌 每號 其協會
超科學 每號 大阪綱島工業會
建築業協會々報 每號 其協會
建築畫報 每號 其社
土木建築工事畫報 每號 其社
日本美術協會報告 每號 其社
法律時報 每號 日本評論社

土木建築 每號 其社
土木建築材料商報 每號 其社
塗料 每號 日本ペイント株式會社
塗工の魁 每號 其社
關西園藝 每號 其社
臺灣建築會誌 每號 其會
建築紀元 每號 構成社書房
建築 每號 中央建築會
經濟資料 每號 東亞經濟調査局
建築資料協會 每號 其社
國立公園 每號 其社
國際建築 每號 其社
工事畫報 每號 其社
綱島工業會誌 每號 其會
產業 每號 其會
工 每號 其會

役員

會長 理事 評議員 片岡安
副會長 理事 評議員 古宇田實
副會長 理事 評議員 宗兵藏
監事 評議員 池田實
院事 評議員 横濱勉
常務 評議員 岡部顯則
常務 評議員 小川陽吉
常務 評議員 木村寛一
常務 評議員 篠原太郎
常務 評議員 高橋榮治
常務 評議員 坪井誠一
常務 評議員 本間乙彥
常務 評議員 松本儀八
常務 評議員 山脇友三郎
常務 評議員 吉井長七
評議員 池田谷久吉
評議員 伊藤幸太郎
評議員 小笠原鋤
評議員 岡本新次郎
評議員 籠田定憲
評議員 久保田肇雄
評議員 小西一良
評議員 酒井勇三郎
評議員 阪井米吉
評議員 下浦光衛
評議員 芝田知重
評議員 須藤隼人
評議員 武田經一
評議員 高田利一郎
評議員 德政金吾
評議員 中村義雄
評議員 永田三次郎
評議員 原科準平
評議員 日高胖
評議員 姫野武
評議員 堺山新平
評議員 牧野利秋
評議員 前内文二郎
評議員 村上徹一
評議員 森本藤吉
評議員 山下豐三郎
評議員 山田初次
評議員 山中茂一
評議員 渡部圭吾
評議員 和田貞治郎

本誌定價表

冊數	定價 郵稅
一冊	五拾錢 貳錢
十二冊	六圓 貳拾四錢

大阪市港區音羽町二丁目十四番地
發行兼編輯人 鷹取陽
印刷人
印刷所 大阪活版所
昭和五年四月廿七日印刷（每月壹回）
昭和五年五月一日發行（一日發行）

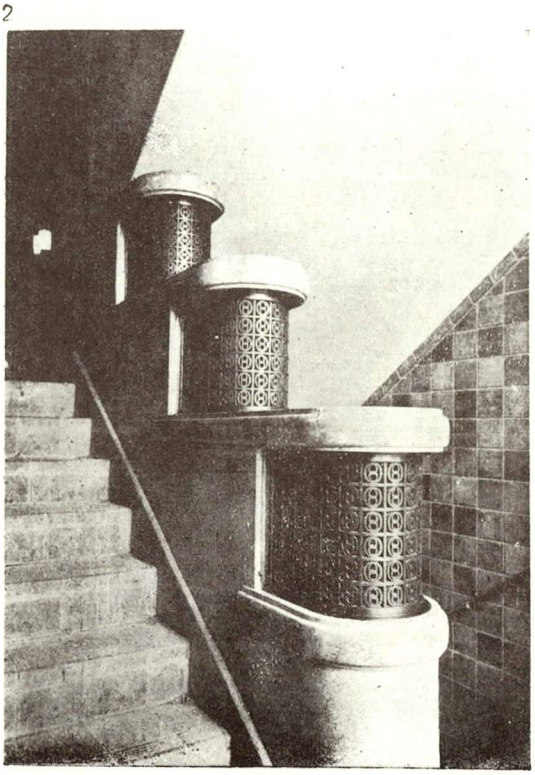
大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所 社團法人 日本建築協會
電話土四二六五番
振替口座大阪三九、九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二二〇八四番

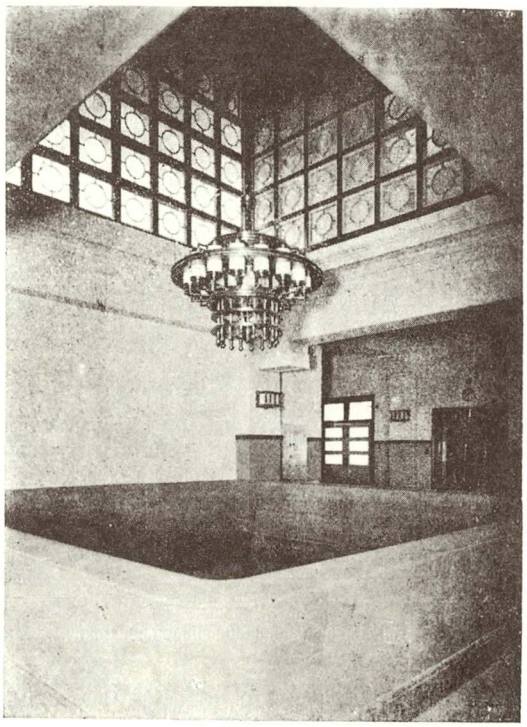
御購讀の向は本會直接又は特約店へ
振替又は爲替にて前金御拂込被下度
候



1



2



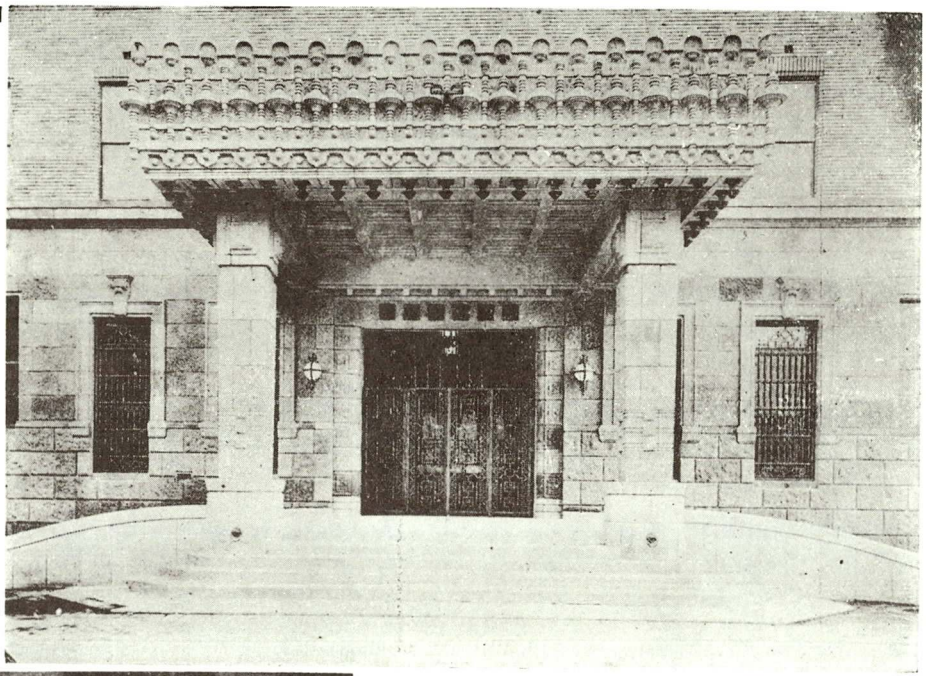
3

1 外　　觀
2 西側玄關上り口
3 二 階 ホ ー ル

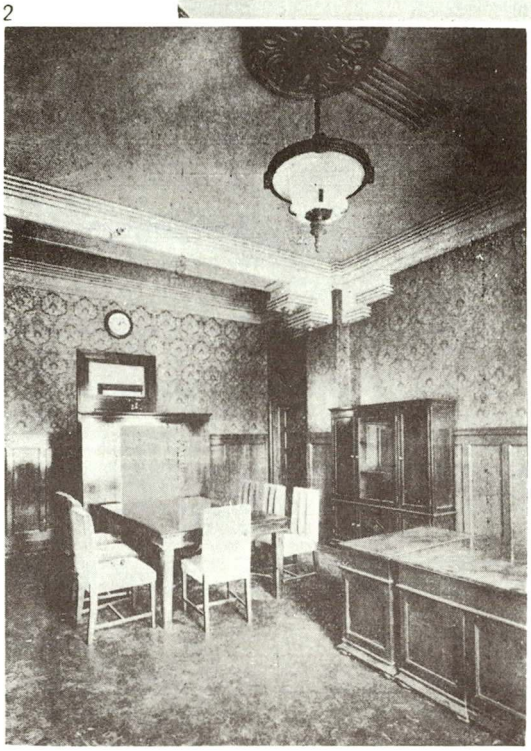
大阪市電氣局廳舍

設計　大阪市建築課
施工　清水組大阪支店

1



2



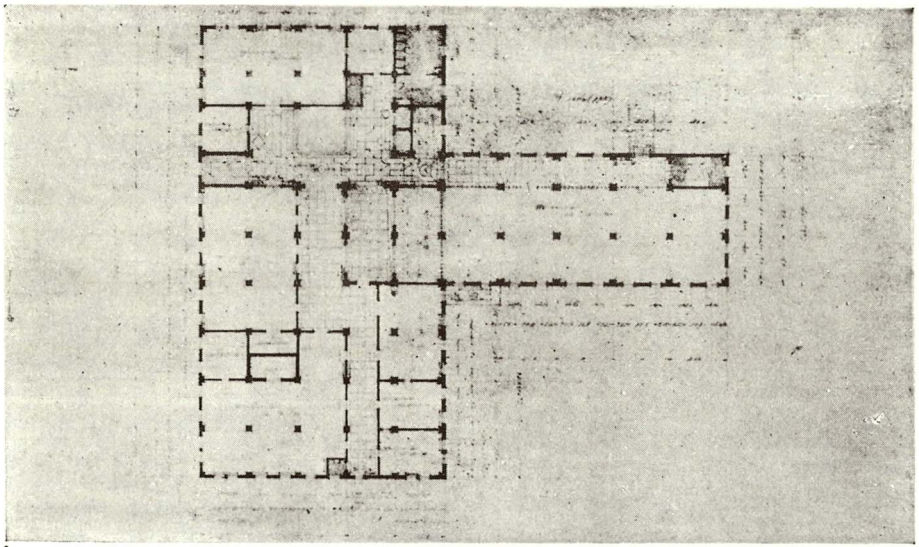
3



1 玄關車寄
2 局長室
3 玄關詳細

大阪市電氣局廳舍

設計　大阪市建築課
施工　清水組大阪支店

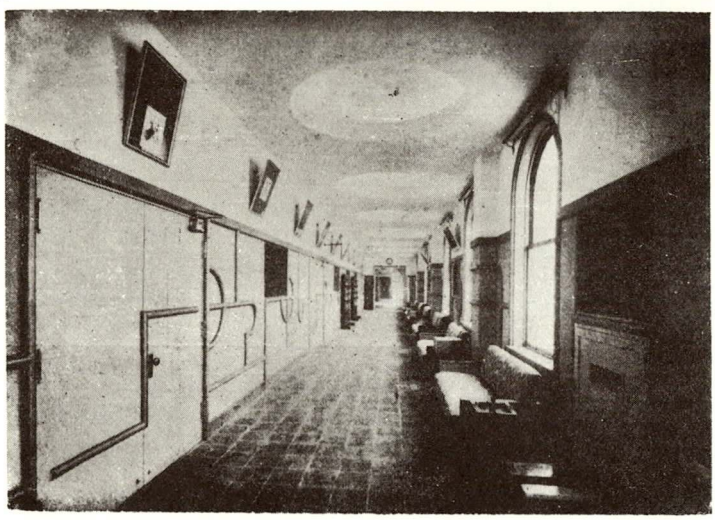


1

2



3

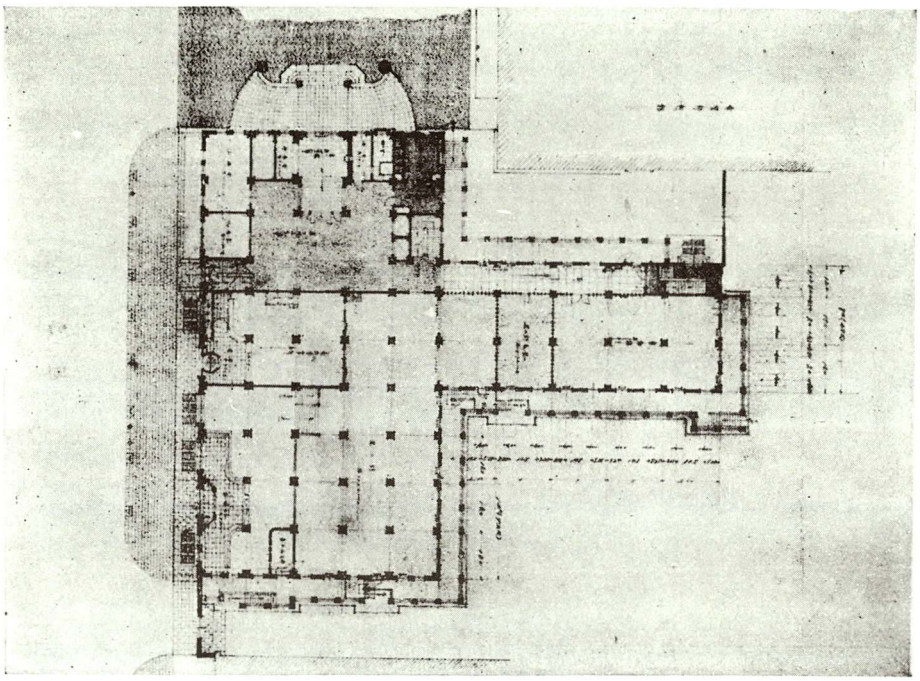


1 第二階平面圖
2 舞臺照明研究室
3 ポスター陳列室

大阪市電氣局廳舍

設計　大阪市建築課
施工　清水組大阪支店

第一階平面圖



大阪市電氣局廳舍

設計　大阪市建築課
施工　清水組大阪支店

大阪市電氣局廳舍工事概要

建築地　大阪市港區九條南一丁目

廣袤　間口二十八間　奥行三十二間

建坪　五百六十坪　延坪三千三百坪

階數　地階共六階　塔屋階數三階

建物高　地盤面より屋上扶欄上端迄八十尺　九寸　塔屋旗竿尖端迄百三十尺

建築費　約百萬圓

工事期間　一年十ケ月

設計　大阪市建築課

施工　合資會社　清水組大阪支店

建築樣式　歐風に東洋の手法を加味したる近代式

構造大要

骨格　柱梁及壁等の主要骨格は鐵筋及一部鐵骨「コンクリート」の耐震耐火構造

基礎　地盤下十四尺の個所に松生丸太二間乃至二間半の杭打ち鐵筋「コンクリート」ベタ地形とす　基礎下端より建物及浴室の外壁全部外側より防水層を以て被覆す

壁體　外壁面は二階窓下端まで及正面玄關內部は山口縣產德龍石張附、以上扶壁人造石、蛇腹下まで釉藥塗「スクラッチドタイル」張とす　內部の壁面は主として白漆喰塗水性「ペイント」仕上とし、事務室及廊下腰はモルタル下地「コンクリート・ペイント」仕上。但特殊の室は上部壁紙張下部木造腰羽目張ワニス仕上。

一階ホールは伊太利產大理石を張り、營業室、地下室食堂、西側玄關及各便所等は「タイル」を張る　天井一主として漆喰水性「ペイント」仕上とし特殊の部分は油性「ペイント」塗拭取仕上とす　床車寄より玄關にかけて錆石張　一階玄關は大理石亂れ張　二階廊下及各階廊間は「テラツツオ」仕上、地下室、食堂及便所庇等は「タイル」張とす　五階照明室及館內煙突照明室、同廊下、電熱料理講義室は「フロアリング・ブロック」張、事務室は全部「リノリウム」敷込とす

屋根　鐵筋混凝土造陸屋根とし「スラブ」中に特殊の「ホロー・ブロック」を鑄込みて外濕の五階室內に影響するを防ぎ完全なる防水層の上に「グリンカー・タイル」敷

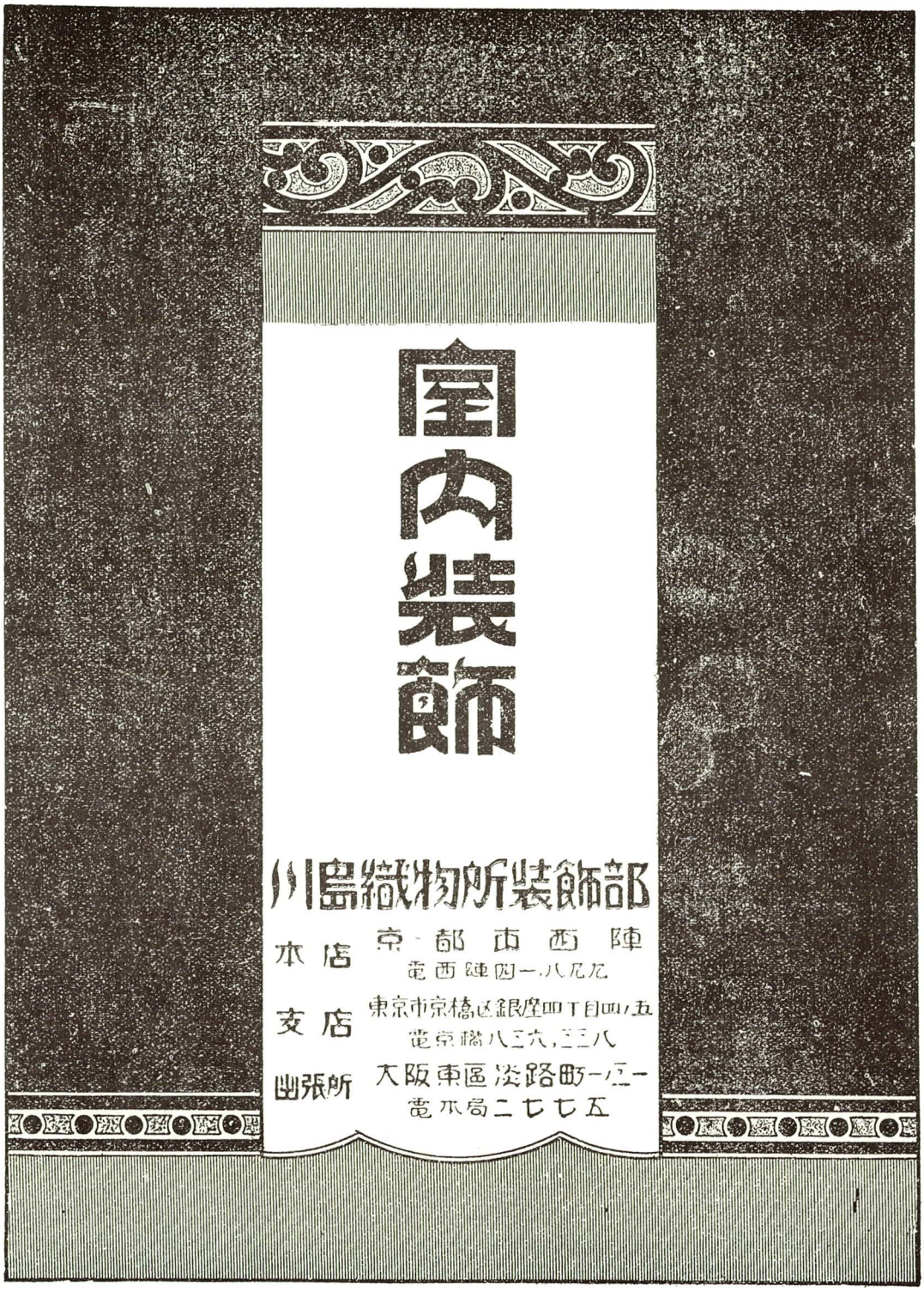
出入口及窓　外壁の窓は全部「スチール・サッシュ」上下窓、窓硝子は舶來兩面磨き網入ガラスを使用　外部出入口及內部耐火壁には全て「スチール・ドア」を用ひ更に非常時の安全の爲「スチール・ホロー・シャッター」を備ふ

階段　階段は全部九ケ所、內三ケ所は手摺大理石張階段踏面「タイル」張、他の二ケ所は屋外に設備せられ非常時にも安全なる樣篤勾配共充分堅固なる鋼鐵製とす

建築と社會第十三輯第五號

廣告目次

A
有山組……三
安藤組大阪支店……三一
淺野物産株式會社……一六
淺野スレート株式會社……一三
淺海商店……四四
阿部鐵工所……四二
阿波田良之助……八二
B
ブラオン鑿井水道株式會社……九四
C
中外電氣商會……四四
朝鮮建築會……三四
D
デウエット商會……六三
大和工業株式會社……九五
大元商會……一四
大鐵電車事業課……七〇
E
榮進社……三九
衛生工業商會……三七
江崎瓦斯商會……八〇
F
藤田庄藏商店……八九
藤田商會……四〇
藤井製作所……六八
藤木工務店……三〇
古塚建築事務所……二五
布卯村木店……二七
藤田商會……四〇
藤井製作所……六八
藤木工務店……三〇
古塚建築事務所……二五
布卯村木店……二七
H
橋本建築事務所……二五
白陽工務店……二七
原科建築事務所……二五
日立製作所……二三
本間建築事務所……九三
I
今井硝子店……二五
池田建築事務所……九〇
池田谷建築事務所……二五
池田組……二七
伊丹商店……四八
伊藤建築事務所……二五
井原建築事務所……二七
岩元商店建材部……五〇
K
クロースルーフヰング製造所……五四
川島織物所裝飾部……九二
江東サッシ製作所……六五
木下謹三商店……七二
熊坂谷熊次郎商店……三〇
國枝工務所……二五
金剛商會大阪支店……三八
片岡、石本建築事務所……二四
桐田商會……五九
葛野建築事務所……二四
建築學會……三五
建築金物商會……表紙四
鴻池組……三一
宏昌大理石工作所……三〇
駒井喜鐵工所……三一
工村社(阪口芳三郎)……二〇
久保田組……二九
龜谷開作商店……二九
京都市……二
M
宮島康夫商店……八五
松本商店……七五
松村組……三〇
村上建築事務所……二四
森本建築社……三二
眞水三橋建築事務所……二四
万年スレート株式會社……一二
三井物産株式會社……七七
三木商店……六七
みよし組電氣工業所……七六
N
ナンコク商事株式會社……九
内外エレベーター株式會社……四九
内外土木建築材料合資會社……七四
浪速設計事務所……二四
日本鋼製建具株式會社……八二
日本洋瓦株式會社大阪出張所……四六
日本木材工藝株式會社……八七
日本スレート販賣株式會社大阪支店……七一
日本ペイント製造株式會社……一五
日本エレベーター製造株式會社……八
日本メタルラス……三六
日本建築士會……三六
日本トラスコン鋼材株式會社……七八
日本特許建材製作所……九六
日本建築紙工株式會社大阪出張所……四七
日本工劑株式會社……七三
新田ベニヤ製作所……二一
西孫商店建築金物部……四三
西原衛生工業所大阪支店……二九
中川辰藏店……二六
中村グラニット商會……八四
中村建築事務所……二四
南滿鑛業株式會社……七二
野澤幸三郎商店……六六
野村建築事務所……二四
名古屋伊丹商店……四八
O
オリエンタルメタル製造所……八一
オキナ商店……五三
大阪ピトロライト工事合資會社……一二
大阪窯業セメント株式會社……一七
大阪陶業株式會社……六九
大阪鐵筋混凝土工務所……二八
大阪換氣商會……五八
大阪橋本組……二八
大林組……二八
大平丁業所……八三
大倉商事株式會社……五五
大倉土木株式會社大阪出張所……二七
大野製乍所……一一
大阪建築所……二三
小笠原建築事務所……二三
小野木横井共同建築事務所……二三
岡本工務店……二八
岡部建築事務所……二三
岡田建築材料店……五四
置盬建築事務所……二三
R
ラバロイド商會……一五
玲光社(木内眞太郎)……六八
S
須賀商會……四五
島田硝子株式會社……六一
島田建築事務所……二五
島貿易株式會社建材部……三三
佐久間建材工業所……三三
佐渡島西店建材部……六
佐伯組……三二
三五製作所……五六
三稜社……一〇
三機工業株式會社……表紙二
笹岡家具製飾店……三七
城口研究所大阪支店……六四
宗建築事務所……二三
設樂建築事務所……二三
清水榮二建築事務所……二二
清水組大阪支店……三二
品川白煉瓦株式會社大阪タイル部……五六
T
東洋スレート株式會社……八八
東洋コンベス商店……八二
東洋コンクリート合資會社……六〇
東亞鐵工所……五五
田島工業株式會社……六二
田中昌司商店……七四
田村商會……四
田村事務所……二一
高見工作所……一〇
高安商會……七〇
竹中工務店……二九
朝永建築事務所……二二
テーワイ商會……八九
V
ベニス工房……五二
Y
ユーニオントレーデング……五一
ヤブタ電氣營業所……四七
米本商店……六八
米山製作所……七七
山本窯業商店……五二
山本東作商店鐵筋部……八〇
山本東作商店……五七
山中商會……八五
山中製作所……七九
山崎吉松商店……二二
安井建築事務所……二二
矢橋大理石商店……四〇
横河工務所……二二
横川橋梁製作所……四一
横田商店……九四
Z
錢高組……三二


室内裝飾
川島織物所裝飾部
本店 京都市西陣
電西陣四一八九九
支店 東京市京橋区銀座四丁目四五
電話京橋八三六、三八
出張所 大阪市東区淡路町一丁目一
電本局二七七五